

# 長井戸遺跡群

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道  
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成23年3月

国土交通省北首都国道事務所  
財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第337集

# な が い ど 長 井 戸 遺 跡 群

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道  
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成23年3月

国土交通省北首都国道事務所  
財団法人茨城県教育財団



遺跡遠景（西から）



遺跡全景（東から）

## 序

茨城県では、県土の均衡ある発展を念頭におきながら地域の特性を生かした振興を図るために、高規格幹線道路などの根幹的な県土基盤の整備とともに、広域的な交通ネットワークの整備を進めております。その一環として整備される首都圏中央連絡自動車道は、首都高中央環状線などと一体となって、首都圏の骨格となる3環状9放射の道路ネットワークを形成し、東京都心部への交通の適切な分散導入を図り、首都圏全体の道路交通の円滑化、首都圏の機能の再編成を図る上で極めて重要な役割を果たすものです。

しかしながら、この事業地内には埋蔵文化財包蔵地である長井戸遺跡群が所在することから、これを記録保存の方法により保護する必要があるため、当財団が国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所から同遺跡の埋蔵文化財発掘調査の委託を受け、平成21年1月から同年3月までと、平成21年6月から同年7月までの5か月間にわたってこれを実施しました。

本書は、その調査の成果を収録したものです。学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深めるために活用されることによりまして、教育・文化の向上の一助となれば幸いです。

最後になりますが、発掘調査の実施から報告書の刊行に至るまで、委託者であります国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、境町教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し深く感謝申し上げます。

平成23年3月

財団法人茨城県教育財团

理事長 稲葉節生

## 例　　言

1 本書は、国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所の委託により、財團法人茨城県教育財団が平成20・21年度に発掘調査を実施した、茨城県猿島郡境町大字長井戸1469番地の3ほかに所在する長井戸遺跡群の発掘調査報告書である。

2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調　　査　　平成21年1月1日～3月31日

　　　　　平成21年6月1日～7月31日

整　　理　　平成21年10月1日～平成22年3月31日

　　　　　平成22年7月1日～7月31日

3 発掘調査は、調査課長池田晃一のもと、以下の者が担当した。

平成20年度

　　首席調査員兼班長　三谷　正

　　主任調査員　　櫻井完介

　　調査員　　鹿島直樹

平成21年度

　　首席調査員兼班長　成島一也

　　主任調査員　　齋藤和浩

　　調査員　　江原美奈子

4 整理及び本書の執筆・編集は、平成21年度に整理課長村上和彦のもと、調査員鹿島直樹が担当した。本書の校正は、平成22年度に整理課長樺村宣行のもと、調査員前島直人が担当した。

## 凡 例

1 地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標を原点とし、X = +13.940m, Y = -3.540mの交点を基準点（A 1 a1）とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C…、西から東へ1, 2, 3…とし、「A 1 区」「B 2 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa, b, c…j、西から東へ1, 2, 3…oと小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1区」「B 2 b2区」のように呼称した。

2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は、次のとおりである。

遺構 FP - 炉穴 PG - ピット群 SD - 溝跡 SE - 戸戸跡 SI - 住居跡 SK - 土坑

遺物 DP - 土製品 TP - 拓本記録土器 Q - 石器・石製品

土層 K - 搾乱

3 土層観察と遺物における色調の判定には、「新版標準土色帖」（小山正忠・竹原秀雄著 日本色研事業株式会社）を使用した。

4 遺構・遺物実測図の掲載方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は400分の1、遺構実測図は原則として60分の1の縮尺で掲載した。

(2) 遺物実測図は、原則として3分の1の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。



5 遺物観察表・遺構一覧表の表記については、次のとおりである。

(1) 遺物番号は通し番号とし、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

(2) 計測値の（ ）内の数値は現存値を、〔 〕内の数値は推定値を示した。計測値の単位は、m, cm, gで示した。大きさにより異なる場合もあり、それらについては個々に単位を表示した。

(3) 備考欄は、土器の残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

6 堅穴住居跡の主軸は、炉を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で示した（例 N-10° - E）。

# 目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
概 要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	3
第2章 位置と環境	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査の成果	10
第1節 調査の概要	10
第2節 基本層序	10
第3節 遺構と遺物	11
1 繩文時代の遺構と遺物	11
(1) 壺穴住居跡	11
(2) 炉穴	29
(3) 炉跡	32
(4) 土坑	34
2 弥生時代の遺構と遺物	48
壺穴住居跡	48
3 古墳時代の遺構と遺物	83
土坑	83
4 その他の遺構と遺物	84
(1) 井戸跡	84
(2) 土坑	85
(3) 溝跡	91
(4) ピット群	92
(5) 遺構外出土遺物	100
第4節 まとめ	109
写真図版	PL1～PL28
抄 錄	

# ながいどいせきぐん がいよう 長井戸遺跡群の概要

## 遺跡の位置と調査の目的

長井戸遺跡群は、境町の南西部、きょうながい ど ぬま旧長井戸沼東岸の標高約16mの台地上に位置しています。遺跡の西側に広がる水田地帯は、縄文時代には東京湾の奥入り江、江戸時代までは長井戸沼と呼ばれる水域がありました。今回の調査は圏央道建設に伴うもので、茨城県教育財団が、平成21年1月～3月と6・7月の5か月間で6388m<sup>2</sup>の面積を調査しました。



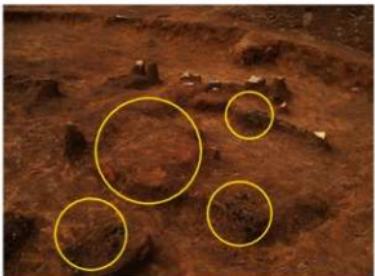
## 調査の内容

調査によって、縄文時代早期（約8000年前）と前期（約6000年前）の竪穴住居跡12軒、炉穴7基、弥生時代後期（約2000年前）の竪穴住居跡24軒を確認しました。一昨年度には、ほんでん旧長井戸沼対岸に位置する縄文時代後・晚期（約3500～2300年前）の本田遺跡の調査が行われており、旧長井戸沼周辺の縄文時代の様相が徐々に明らかになってきています。



遺跡全景（東上空から）

## —長井戸遺跡群の遺構や遺物—



弥生時代の第24号住居跡では多くの炭化材が出土しました。



弥生時代の第9・22号住居跡では、小さい住居が拡張された様子がわかります。



弥生時代の第28号住居跡では、炉があった部分は赤く焼けています。



縄文時代の深鉢（左上）と弥生時代の紡錘車（右上）です。紡錘車は糸を燃る時のすみ車です。

## 調査の成果

調査の結果、長井戸遺跡群は、縄文時代及び弥生時代の複合遺跡であることが分かりました。縄文時代においては、早期と前期に集落が舌状台地の先端に展開し、炉穴などを用いながら生活していたことが分かりました。炉穴とは、薫製を行う施設、煮炊きを行う施設、土器を焼く施設などと考えられています。弥生時代においては後期の集落跡が確認されました。住居跡からは炭化材や焼土が多く確認でき、土地を移動する際に住んでいた住居に火をかけて出て行ったことが分かりました。また、出土した住居跡の中には拡張した痕跡が確認できるものもありました。これまで県西地区では弥生時代後期の集落跡の調査例は少なく、今回の調査では住居跡が24軒と比較的多いことなどから当地域における貴重な資料となるでしょう。

# 第1章 調査経緯

## 第1節 調査に至る経緯

平成17年12月8日、国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所長から、茨城県教育委員会教育長あてに、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会があった。これを受け茨城県教育委員会は、平成18年1月11日に現地踏査を、平成19年1月30、31日、平成20年1月10日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成20年1月24日、茨城県教育委員会教育長から国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所長あてに、事業地内に長井戸遺跡群が所在すること及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成20年2月8日、国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所長から、茨城県教育委員会教育長あてに、文化財保護法第94条の規定に基づき、土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知が提出された。茨城県教育委員会教育長は、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、平成20年2月18日、国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成20年2月20日、国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所長から、茨城県教育委員会教育長あてに、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書が提出された。平成20年2月21日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所長あてに、長井戸遺跡群について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として、財團法人茨城県教育財團を紹介した。

財團法人茨城県教育財團は、国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成21年1月1日から平成21年3月31日まで、長井戸遺跡群の発掘調査を実施することとなった。その後、調査の過程で、当初の予想より遺構数が増加したため、平成21年6月1日から7月31日まで調査期間を追加して調査を実施した。

## 第2節 調査経過

調査は、平成21年1月1日から平成21年3月31日、6月1日から7月31日まで実施した。その概要を表で記載する。

工程 期間	平成21年						
	1 月	2 月	3 月	6 月	7 月	8 月	9 月
調査準備 表土削除 遺構確認							
遺構調査							
遺物洗浄 注写 整理							
補足調査 収							

## 第2章 位置と環境

### 第1節 地理的環境

長井戸遺跡群は、茨城県猿島郡境町長井戸 1469 番地の3ほかに所在している。

境町は茨城県の南西部に位置し、北は古河市、東は坂東市とそれぞれ境を接し、北西から南東にかけて利根川が流れ込み、対岸に五霞町が位置している。地形は、洪積台地である標高 16 ~ 24 m の猿島台地と、利根川沿岸低地からなっている。町域の猿島台地は、西方を岩井低地に、東方を飯沼川低地に挟まれ、現利根川の河道氾濫原に位置する太日川低地により、北方の古河台地と分断された。東西約 38 km、南北約 12 km の台地である。台地面は北から南、東から西方向に緩やかに傾斜している。主な河川は利根川支流である宮戸川・鶴戸川などがあり、これらにより境町内は北部、西部、中央部、東部と 4 つの小台地に分断されている<sup>1)</sup>。これを旧長井戸沼周辺に当てはめると、沼西岸が西部台地、沼北部が北部台地、沼東岸が中央台地となる。

当地域の地質は新生代第四期洪積世古東京湾時代に堆積した海生の砂層である成田層を基盤とし、その上に竜ヶ崎層と呼ばれる斜交層理の顯著な砂礫層、さらに常総粘土層と呼ばれる泥質粘土層、厚さ 2.0 ~ 3.0 m の関東ローム層が連続して堆積し、最上部は腐植土層となっている。

当遺跡群は、利根川支流の旧長井戸沼（現宮戸川）東岸の標高 16 m の台地上に広がっている。遺跡群の範囲は南北 1.1 km、東西 0.75 km あり、遺跡群の中央部には長井戸城跡とされる香取神社が所在している。調査区域は遺跡群の南西部であり、北部から東部に向かって小さな谷津が入り込んでいる。調査前の現況は山林・雑種地である。

### 第2節 歴史的環境

当遺跡の所在する境町域では、旧石器時代から近世までの 53 か所の遺跡が『茨城県遺跡地図』<sup>2)</sup>に登載されている。ここでは周辺に分布している遺跡を中心に概要を記述する。

旧石器時代の遺跡は、境町域からは未確認であるが、岩井町・古河市（旧総和町）などから後期旧石器時代に属する遺跡・遺物が確認されているため、今後確認される可能性がある。宮戸川上・中流域では、おおよそ 14 か所の遺跡が確認され、すべて後期旧石器時代の遺物を出土している。旧総和町に所在する宮戸川東岸の行屋西遺跡においては、後期旧石器時代に属する石器未成品などが多く出土したことから、当時の人々がこの地で石器つくりの仕上げや補修を行ったと考えられている。また、下流へ 2 km 下った西岸台地上の権現久保遺跡からは、切出形ナイフ形石器や細石刃などが 2 か所から表面採集されている。ほかにも、香取西遺跡、磯之木遺跡、糸廻才伝遺跡、原遺跡などからも石器が表面採集されていることから、当時、旧長井戸沼周辺において、石器を用いた人々が生活を営んでいた痕跡を見て取ることができる。

縄文時代の遺跡は、境町域で 32 か所が登載されており、旧長井戸沼周辺でもおおよそ 5 か所が存在している。境町域には縄文時代早期から晩期にかけての遺跡が確認されている。最も海水面が上昇した前期の縄文海進時には、町域台地縁辺部には海水が浸入していたことが遺跡や貝塚の分布から想定される。時代別に概観してみると、早期の遺跡は主に西部台地に分布し、遺物のみが確認されている状態である。前期の遺跡は西部台地に 4 遺跡、中央台地に 9 遺跡、東部台地に 3 遺跡所在している。特に、西部台地の西側、現利根川の低地を望む台地の斜面

から低地に立地する南坪遺跡(19)からは、3軒の住居跡が確認され、中葉(黒浜期)の土器が出土している<sup>4)</sup>。中央台地に立地する下小島遺跡(7)は、下水道工事に伴う調査が行われ、前期の集落および地点貝塚が確認された。東部台地にも当期の遺物が出土する遺跡は存在しているが、詳細は不明である。旧総和町には当財団が昭和57年から60年度にかけて一般国道4号線改築工事に伴う調査が行われたことにより、南坪A遺跡(20)、南坪B遺跡(21)、南坪C遺跡(22)、萬野遺跡(23)、西坪A遺跡(24)、西坪B遺跡(25)などの遺跡の詳細が明らかになっている。これらの遺跡では、遺構の検出は少なかったが、黒浜期に比定された繩文土器片が多く見つかっている。中期は遺跡数が少なくなるが、集落は大形化する傾向にある。また、貝塚の貝もヤマトシジミやアサリなどの淡水の貝が主体となることから、海退現象が徐々に進行していたようである。遺跡としては中央台地に青木遺跡、大歩遺跡群などがある。青木遺跡は谷を中心とした掘り鉢状の斜面部と、上部の平坦面に住居跡や地点貝塚を配置した大規模集落である。集落は前期黒浜期ころから営まれはじめ、当期に貝塚や多くの祭祀遺物などが出土し、ピークを迎えることとなる。東部台地には下砂井遺跡群、穴辺遺跡群などがあるが、未発掘である。後期の遺跡数は増加しているが、中期に比べて集落は分散して小形化する傾向がある。西部台地は本田遺跡(17)などがある。本田遺跡は平成19年度に当財団による調査が行われ、後・晚期を中心とした大規模集落であることが明らかとなり、当時の集落構造を考える上で好資料となった。北部台地には田ノ台遺跡が位置し、中央台地には南長井戸遺跡(12)、かわい山遺跡(11)、金岡遺跡群、染谷香取神社貝塚、染谷遺跡、青木遺跡、百戸遺跡群、宿遺跡、元屋敷遺跡などがある。晚期の遺跡は中央台地に百戸遺跡群、青木遺跡がある。青木遺跡は中期を経て後・晚期にも集落が継続し、遺跡南側の台地縁辺部からは石鏡の未成品が多数出土し、黒曜石を用いた石鏡生産が行われていたと推測されている。

弥生時代の遺跡は境町域で2か所、旧長井戸沼周辺でも1か所と非常に数が少ないので現状である。周辺地域でも、旧三和町域に7か所、旧総和町域に7か所、古河市域に1か所、猿島町域に1か所とやはり少ない。これらはそのほとんどが後期に属するものであり、古河市のラントウ裏遺跡と旧総和町域の古内遺跡の2か所から中期の遺物が確認されている。北部台地の南東部に位置する志鳥遺跡(5)の南部から後期の装飾壺の体部片が表面採集で確認されている。また、東部台地の中ノ芝遺跡からは個人墓地の改修工事の際、偶然にも完形の弥生土器の壺が出土した。後期の二軒式に属するものと考えられ、後の調査により、住居跡の可能性がある遺構と、二軒式土器の破片が確認された。以上の状況から、当地域の弥生時代の様相は未だ不明瞭な状況にある。

古墳時代の遺跡は境町域で31か所、古墳・古墳群が6か所登載されている。弥生時代に比べると集落の規模も大きくなっている。このことは沼周辺においても言えることで、30か所以上の遺跡と10か所ほどの古墳・古墳群が分布している。前期の様相としては、北部に稲尾遺跡(4)、志鳥遺跡、中央部に長井戸遺跡群、末広遺跡(10)、かわい山遺跡、金岡遺跡群、青木遺跡、若林遺跡群、宿遺跡などが確認されている。特に、志鳥遺跡においては、前期前半の元屋敷系の高壙を模倣した在地の土器が出土していることから、他地域との交流が行われていた可能性を示し、この地域の中心的役割を担っていたとされている。中・後期においては、遺跡数が減少する傾向にある。中期の遺跡は、西部台地で南坪遺跡、北部台地で田ノ台遺跡、志鳥遺跡、中央台地で青木遺跡が確認され、後期の遺跡は北部台地で田ノ台遺跡、稲尾遺跡、志鳥遺跡、中央台地で猿山遺跡群、東部台地で福原遺跡が確認されている。これらの遺跡の中では南坪遺跡が発掘調査され、中期に比定される5軒の堅穴住居跡が確認されている。また、利根川東岸の低位段丘に立地している清水遺跡は、当財団によって平成18年に調査が行われ、中期と後期の住居跡が2軒確認されている。2軒の住居跡は、焼失住居で、炭化材の精密な観察から上層構造の復元を試みている。古墳・古墳群は、西部台地に横塚古墳群、塚崎古墳(14)、北部台地に稲尾古墳群、中央台地に小金井古墳群(6)、板山古墳群(8)、山神町古墳群(9)はかかるか所、東部台地からも大熊山遺跡群内から

埴輪の破片が見つかっている。古墳・古墳群の多くは後世の開拓などにより湮滅を受けていることが多く、その詳細は明らかではないが、小金井古墳群の1号墳のように、保存状態が良好なものも存在する。これらの古墳・古墳群の時期は、桜山古墳群が前期に築造が開始された可能性があり、ほかは中期から後期にかけて築造されたと考えられている。

奈良・平安時代の遺跡は、境町域では10か所が登載され、旧長井戸沼周辺では25か所ほど確認されている。当地域は律令期には下総国猿島郡色益郷に属していたと考えられている。この時期の町域の遺跡は、そのほとんどが表面採集によるもので、発掘調査による詳細な情報は得られていない。西部台地には南坪遺跡、中央台地には猿島遺跡群、かわい山遺跡、大歩遺跡群、東部台地には穴辺遺跡群、内門新田遺跡群、中ノ芝遺跡などがある。これらの遺跡のうち、穴辺遺跡群は猿島郡衙跡と想定されている。また、分布調査の所見として、大規模集落が中央台地と東部台地に存在していた可能性を指摘している。

中世の遺跡は、境町域で6か所が登載され、旧長井戸沼周辺では12か所確認されている。町域内の遺跡は北部台地に鶴尾城跡(3)、中央台地に長井戸城跡(2)、田向の城跡、東部台地には大照院遺跡群などが存在している。長井戸城跡や田向の城跡は保存状態が良好であり、鶴尾城跡や大照院遺跡群は掘削の一部が確認できるのみで、年代を推定する資料が乏しい。当地域は中世期、下河辺莊として、藤原秀郷の後裔とされる下河辺氏の支配下にあった。その後、北条氏一門の金沢家の所領となる。戦国期には後北条氏と北闇東諸勢力との最前線となり、当遺跡群内の長井戸城は逆井城や栗橋城などとともに後北条氏方の城として機能していたとされている。ただし、長井戸城に関しての文書史料は現在のところ確認されておらず、発掘調査による情報に頼るしかない。

近世の遺跡は、境町域では東部台地の山崎遺跡群の1か所のみで、旧長井戸沼周辺には15か所ほどの遺跡が確認されている。江戸時代、境町域は関宿藩に所属していた。関宿藩は家康の江戸入府の際、異父弟である康元に2万石を与えて立藩させた。藩庁は関宿城に置かれ、後の藩主も幕府内で信頼の厚い譜代諸侯が任命されている。鬼怒川、利根川、江戸川などの分岐点という立地条件から、利根川の水運の拠点として、「境河岸」を形成し、繁栄をもたらすこととなった。

旧長井戸沼は江戸時代から明治時代にかけてもたびたび利根川からの洪水を受け、付近の住民に大きな被害をもたらしていた。このため、大正初年に沼周辺に大規模な堤防改修工事を行った。これに続き、大正4年から本格的な干拓事業が行われ、同13年に工事は完了した。これにより、耕地面積は増大することになったが、沼の魚介類は姿を消し、周辺に何十軒もあったと言われる魚屋も暖簾を下ろしていく。

※ 文中の＜＞内の番号は、表1及び第1図の該当遺跡番号と同じである。

註

- 1) 境町史編さん委員会「下総境の生活史 史料編 原始・古代・中世」2004年3月
- 2) 茨城県教育庁文化課「茨城県遺跡地図」茨城県教育委員会 2001年3月
- 3) 総和町教育委員会「都市計画道路西牛谷・大和田線（町道6号線）改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 蔵王遺跡・行屋西遺跡」2002年
- 4) 寺門義範・西宮一男「南坪遺跡」新四号国道遺跡発掘調査会 1978年
- 5) 中沢時宗・桜井一美・和田雄次「一般国道4号改築工事地内埋蔵文化財調査報告書1（総合地区）南坪A・B・C遺跡・高野遺跡 西坪A・B遺跡 向坪A・B遺跡 北新田A・B・C遺跡 潤原遺跡」「財團法人茨城県教育財團文化財調査報告」第38集 1986年6月
- 6) 註1に同じ
- 7) 江原奈美子・大間武「本田遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」「茨城県教育財團文化財調査報告」第313集 2008年3月
- 8) 註1に同じ
- 9) 註1に同じ

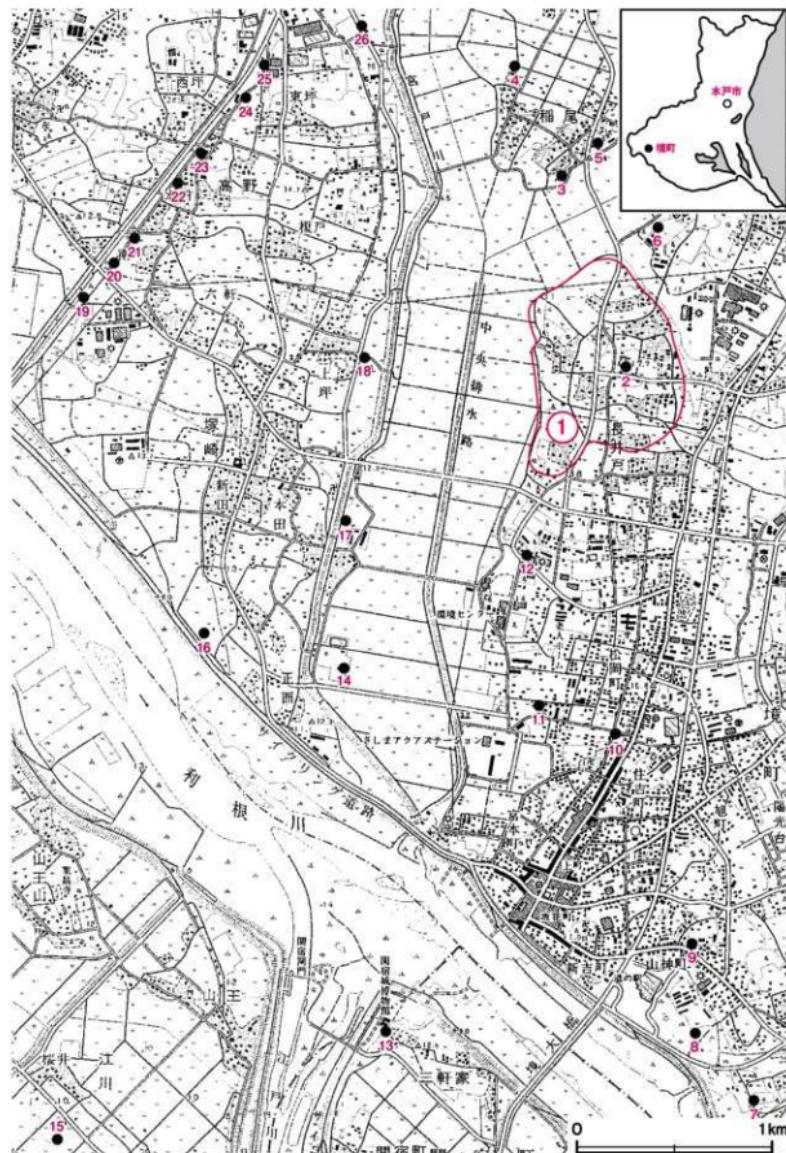
- 10) 深谷昇「茨城県境町伏木出土の後期弥生土器」「下総さかい」5号 1999年10月  
 11) 註1と同じ  
 12) 註4と同じ  
 13) 桑村裕「清水遺跡 同所新田遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」「茨城県教育財团文化財調査報告」第290集 2008年3月  
 14) 註1と同じ  
 15) 西ヶ谷恭弘『長井戸城』 1986年

#### 参考文献

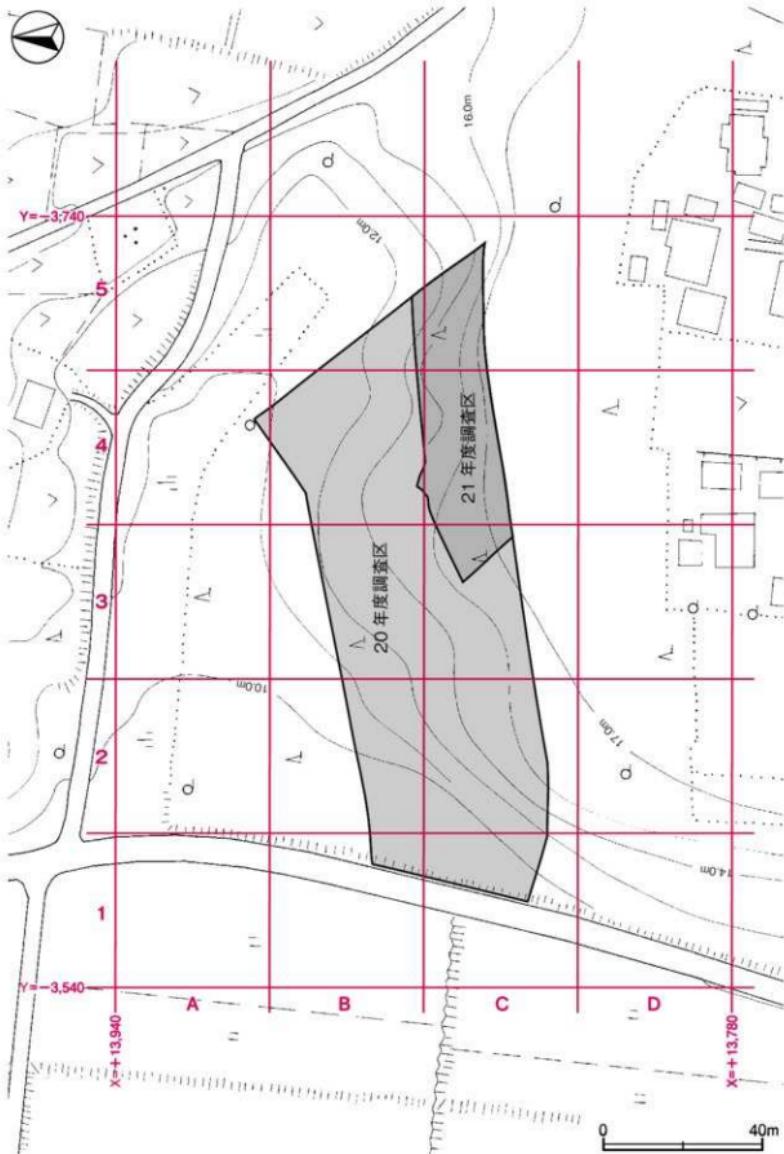
- ・境町史編さん委員会『下総境の生活史 地誌編 自然・動植物』2004年3月
- ・總和町史編さん委員会『總和町史 通史編 原始・古代・中世』總和町 2005年3月
- ・總和町史編さん委員会『總和町史 資料編 原始・古代・中世』總和町 2002年3月
- ・今井謙助『北下総地方史』嵩書房 1974年12月
- ・椎名仁『境町の歴史散歩』筑波書林 1985年5月

表1 長井戸遺跡群周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代					番号	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良		中世	近世	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良
①	長井戸遺跡群	○	○	○			○	14	塙崎古墳			○		
2	長井戸城跡				○		15	桜井前遺跡		○			○	○
3	稲尾城跡				○		16	清水遺跡			○			○
4	稲尾遺跡			○			17	本田遺跡		○	○	○		
5	志鳥遺跡		○	○			18	上坪遺跡群		○				
6	小金井古墳群			○			19	南坪遺跡		○	○	○		
7	下小橋遺跡	○	○				20	南坪A遺跡		○	○	○		
8	桜山古墳群			○			21	南坪B遺跡		○				○
9	山神町古墳群			○			22	南坪C遺跡		○				
10	末広遺跡			○			23	高野遺跡		○				
11	かわい山遺跡	○	○	○			24	西坪A遺跡		○				○
12	南長井戸遺跡	○	○			○	25	西坪B遺跡		○				
13	間宿城跡				○	○	26	横塙古墳群			○			○



第1図 長井戸遺跡群周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000分の1「下総・境」）



第2図 長井戸遺跡群調査区設定図（境町都市計画図 2,500 分の 1 から作成）

# 第3章 調査の成果

## 第1節 調査の概要

長井戸遺跡群は、宮戸川（旧長井戸沼）東岸の標高16mの台地上に立地している。調査面積は6.388m<sup>2</sup>で、調査前の現況は山林・雑種地である。

調査によって、縄文時代早期から前期、弥生時代後期の集落跡を中心とする複合遺跡であることが分かった。確認できた遺構は、堅穴住居跡36軒（縄文時代12、弥生時代24）、土坑143基（縄文時代71、古墳時代1、時期不明71）、溝跡3条（時期不明）、炉穴7基（縄文時代）、炉跡4基（縄文時代）、井戸跡1基（時期不明）、ピット群9か所（時期不明）である。

遺物は、遺物コンテナ（60×40×20cm）に16箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢・浅鉢）、弥生土器（壺）、土師器（壺）、陶器（土瓶）、土製品（紡錘車）、石器・石製品（尖頭器・鎌・磨石・敲石・凹石）などである。

## 第2節 基本層序

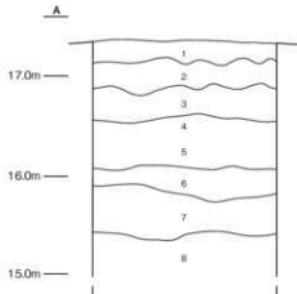
調査区北部中央（B3e2区）にテストピットを設定し、地表面から2mほど掘り下げて基本土層（第3図）の堆積状況の観察を行った。土層観察は色調・構成粒子・含有物・粘性・締まり具合などから分層を行った。結果は、以下の通りである。

第1層は暗褐色を呈する耕作土層である。ロームブロックを含み、粘性は弱く、締まりは普通である。層厚は16～25cmである。

第2層は暗褐色を呈する耕作土層からソフトローム層への漸移層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は20～36cmである。

第3層は褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は24～38cmである。

第4層は褐色を呈するソフトローム層からハードローム層への漸移層である。火山ガラスを微量に含み、粘性・締まりともに普通で、層厚は14～18cmである。火山ガラスが集中していることからAT層相当か、色調がやや暗いことから第2黒色帶（BBII）上層と考えられる。



第3図 基本土層図

第5層は暗褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は30～45cmである。第2黒色帶（BBII）下層と考えられる。

第6層は褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は10～18cmである。

第7層は褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で、締まりが強い。層厚は15～30cmである。

第8層は褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強い。層厚は25cm以上である。

なお、遺構は第3層上面で確認され、第3層から第8層にかけて各層とも白色スコリアをわずかに含んでいる。

### 第3節 遺構と遺物

#### 1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は竪穴住居跡12軒、炉穴7基、炉跡4基、土坑71基が確認されている。以下、検出した遺構と遺物について記述する。

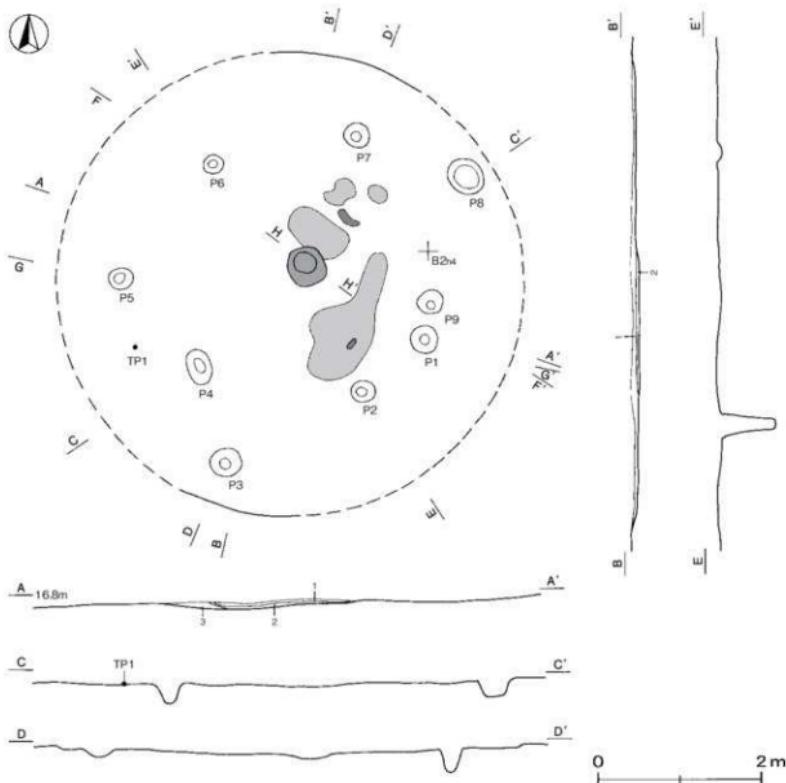
##### (1) 竪穴住居跡

###### 第5号住居跡（第4～6図）

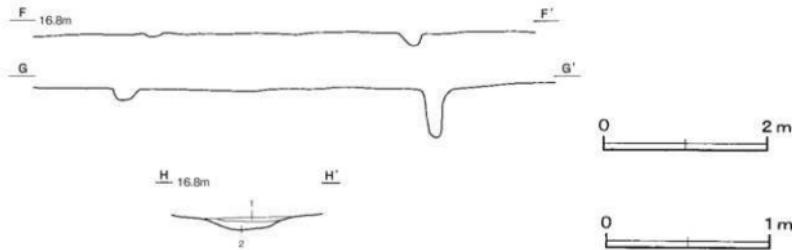
位置 調査区北西部のB2h3区。標高16.7 mの台地縁辺部の平坦面に位置している。

確認状況 壁は削平を受けており、床面と炉およびピットを確認した。

規模と形状 ピットの配置から、径5.70 mほどの円形と推定される。



第4図 第5号住居跡実測図(1)



第5図 第5号住居跡実測図(2)

**床** ほぼ平坦で、硬化面は認められない。中央部やや東寄りの覆土下層から床面にかけて、炭化材や焼土が確認できた。

**炉** 中央部に付設されている地床炉で、長径50cm、短径48cmの円形である。床面を若干掘り込み、炉床は火を受けて赤変硬化している。

#### 炉土層解説

1 明赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子微量

2 にぶい赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

**ピット** 9か所。P 1～P 3、P 5～P 9は深さ5～65cmで、配置から柱穴と考えられる。P 4は深さ25cmで、性格は不明である。

**覆土** 3層に分層できる。ロームブロック、焼土ブロックなどを含んだ堆積状況から埋め戻されている。

#### 土層解説

1 明赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子  
微量

2 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量、ロームブロック  
微量

**遺物出土状況** 繩文土器片8点(深鉢)、剥片2点が出土している。TP 1は西部の床面から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から早期と考えられる。また、床面から焼土や炭化材が確認されていることから、焼失住居の可能性がある。



第6図 第5号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表(第6図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP 1	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	口縁部折向裏、外面斜傾の桑原文縦位の沈縄を施文、底位の縫帶を貼り付ける内縫斜傾位の沈縄と貼付文を施文	床面	早期 PL.23

#### 第15号住居跡(第7図)

**位置** 調査区北部中央寄りのB 3fl 区、標高16.9mの台地平坦部に位置している。

**確認状況** 壁は削平を受けており、床面とピットを確認した。

**重複関係** 第164号土坑に掘り込まれている。

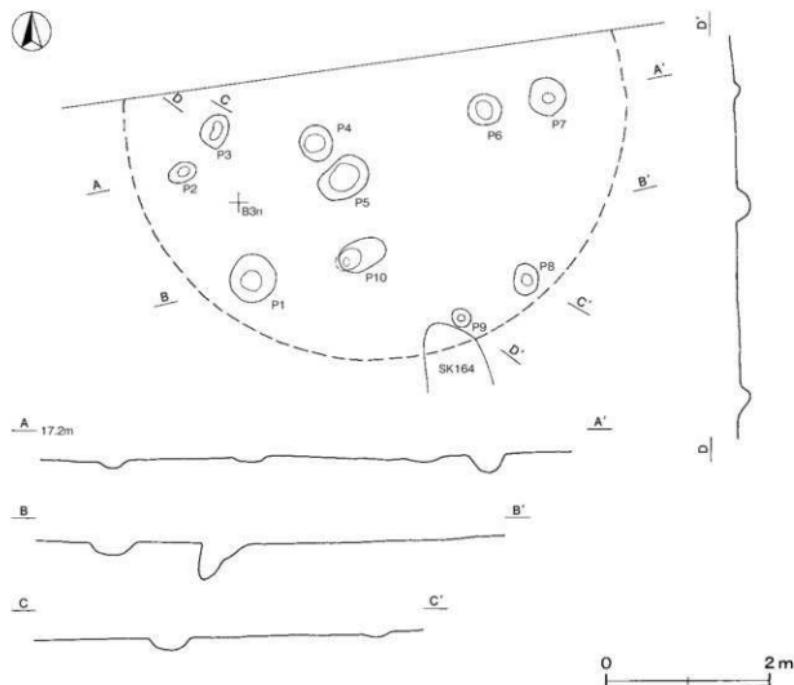
**規模と形状** 北部が調査区域外に延びているため、東西軸は6.14mで、南北軸は3.75mしか確認できなかった。形状は円形もしくは梢円形と推測できる。

**床** 南から北に向かって若干傾斜しているが平坦で、硬化面は認められない。

**ピット** 10か所。P1・2・7～P9は深さ6～22cmで、配置から柱穴と考えられる。P3～P6・10は、深さ6～44cmで、性格は不明である。

**遺物出土状況** 繩文土器片6点（深鉢）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

**所見** 時期は、出土土器片に貝殻条痕文が施文されていることから、早期と考えられる。



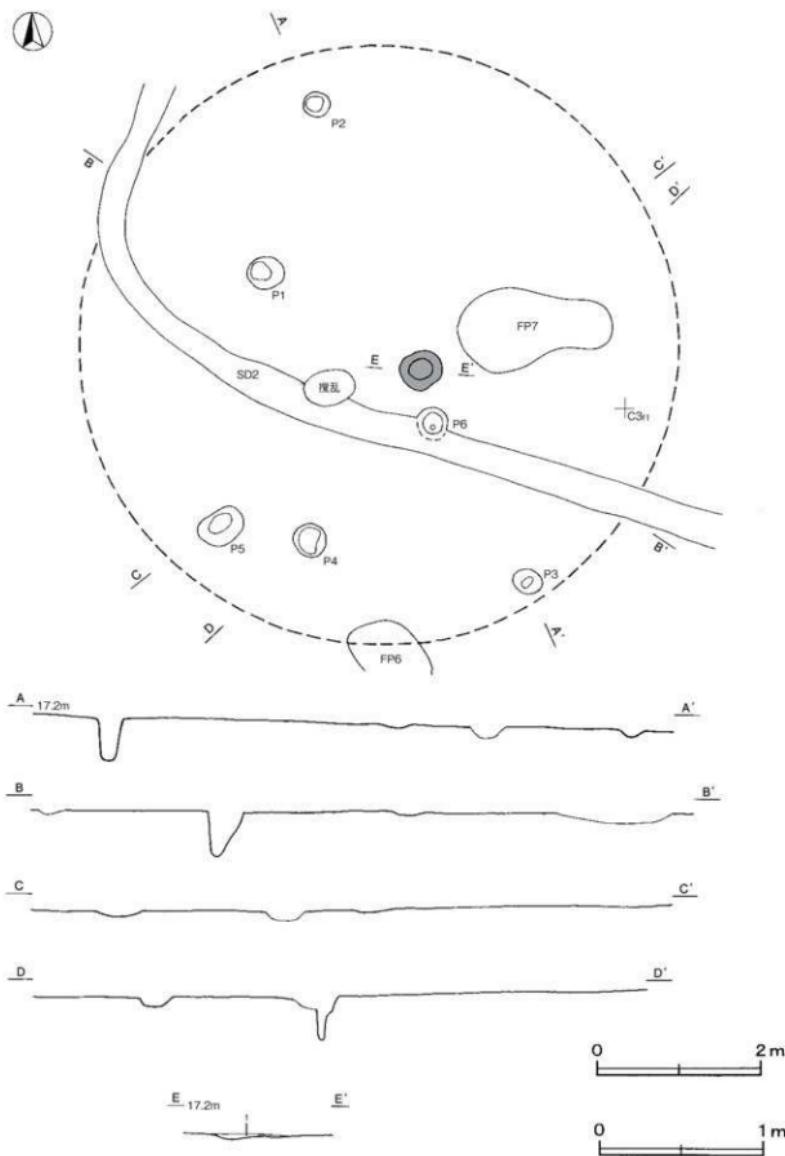
第7図 第15号住居跡実測図

#### 第19号住居跡（第8・9図）

**位置** 調査区南西部のC200区、標高17.1mの台地平坦部に位置している。

**確認状況** 壁は削平を受けており、床面と炉およびピットを確認した。

**重複関係** 第7号炉穴を掘り込み、第2号溝に掘り込まれ、第6号炉穴との関係は不明である。



第8図 第19号住居跡実測図

**規模と形状** ピットの配置から、径 7.36 m ほどの円形と推測できる。

**床** 北から南に向かって若干傾斜しているが平坦で、硬化面は認められない。

**炉** 中央部に付設されている地床炉で、径 50cm ほどの円形である。床面を若干掘り込み、炉床は火を受けて赤変硬化している。

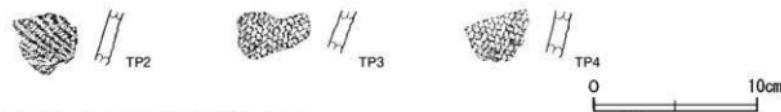
#### 炉土層解説

1 赤 土 色 燃土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量

**ピット** 6か所。P 2～P 5は深さ 8～51cm で、配置から柱穴と考えられる。P 1・6は深さ 55cm・52cm で、性格は不明である。

**遺物出土状況** 繩文土器片 14 点（深鉢）、剥片 2 点が出土している。TP 2～TP 4 は、いずれも P 4 の覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から前期と考えられる



第 9 図 第 19 号住居跡出土遺物実測図

第 19 号住居跡出土遺物観察表（第 9 図）

番号	種別	器種	胎	土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP 2	縄文土器	深鉢	長石	土	褐	普通	単節縄文 RL を施文	P4 覆土中	前期
TP 3	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい土	普通	普通	単節縄文 LR・RL の 2 種類の原体を施文	P4 覆土中	前期
TP 4	縄文土器	深鉢	長石	土	褐	普通	単節縄文 LR・RL の 2 種類の原体を施文	P4 覆土中	前期

#### 第 25 号住居跡（第 10・11 図）

**位置** 調査区中央部の C 3 a5 区。標高 17.2 m の台地平坦部に位置している。

**確認状況** 壁は削平を受けており、東壁を若干と床面、ピットを確認した。

**規模と形状** ピットの配置から、長径 5.80 m、短径 4.80 m の楕円形で、主軸方向は N - 4° - W と推定される。

壁高は 4 cm ほどで、緩斜して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で、硬化面は認められない。

**ピット** 5 か所。P 1・3～P 5 は深さ 34～66cm で、配置から柱穴と考えられる。P 2 は深さ 49cm で、性格は不明である。

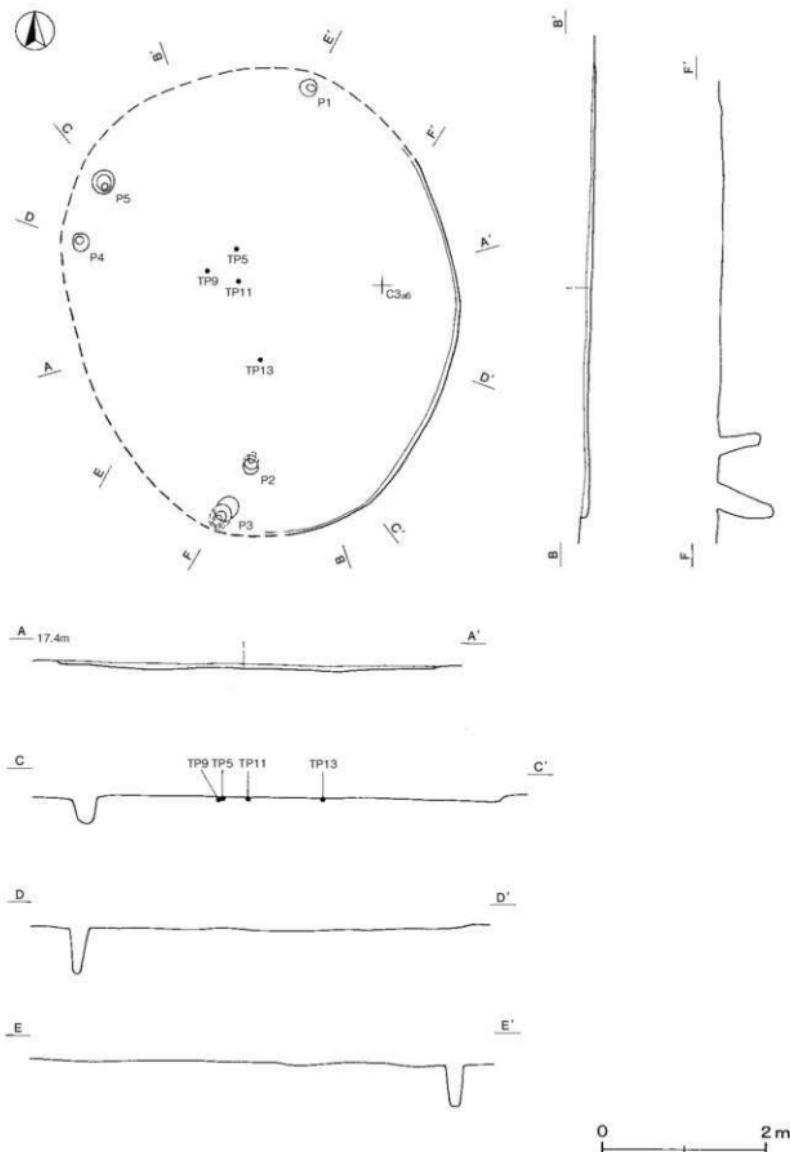
**覆土** 単一層である。ロームブロックを含んだ堆積状況から、埋め戻されている。

#### 土層解説

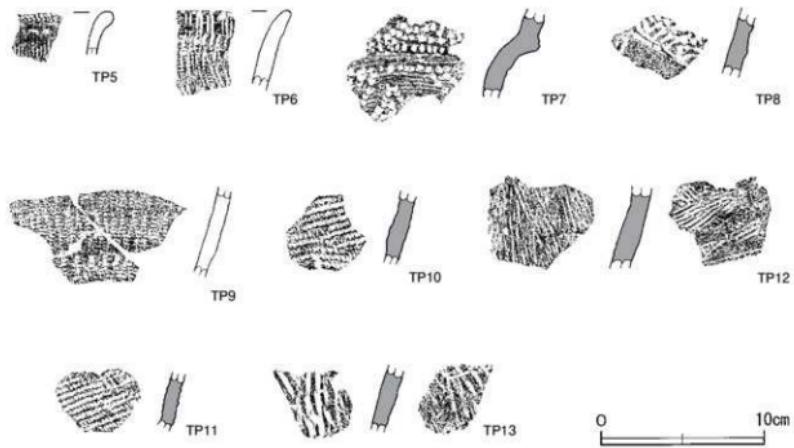
1 色 ロームブロック中量、燃土粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器片 64 点（深鉢）、剥片 2 点が出土している。TP 5・TP11・TP13 は中央部の床面、TP 9 は覆土中から中央部の床面にかけて出土し、TP 6～TP 8・TP10・TP12 は覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から前期後半である。



第10図 第25号住居跡実測図



第11図 第25号住居跡出土遺物実測図

第25号住居跡出土遺物観察表（第11図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
TP 5	陶文土器	深鉢	長石・雲母	橙	普通	口縁部裏位の撻糸文を施文	床面	前期前半 PL23
TP 6	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部に複数の竹管による沈線施文 脚部外面裏位の呂鉛張り文	覆土中	前期後半 PL23
TP 7	陶文土器	深鉢	長石・赤色粒子	橙	普通	外周目筋余痕文を地文に竹管状工具による押捺文を幾何学的に施文	覆土中	早期後半 PL23
TP 8	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	長い細長紺文で複数枚状に区画 区画内に刺突文を充てし 呂鉛張り文で複数枚状に区画 内面に竹管状工具による押捺文を付加	覆土中	早期後半 PL23
TP 9	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	貝殻条痕文を地文 貝殻腹縫文を裏位に施文	床面	前期後半 PL23
TP10	陶文土器	深鉢	長石・石英・纖維	にぶい橙	普通	単節繩文LRを施文	覆土中	前期
TP11	陶文土器	深鉢	長石・石英・纖維	にぶい橙	普通	単節繩文LRを施文	床面	前期
TP12	陶文土器	深鉢	長石・雲母・纖維	橙	普通	外・内面貝殻条痕文を施文	覆土中	早期
TP13	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子・纖維	明赤褐	普通	外・内面貝殻条痕文を施文	床面	早期

第26号住居跡（第12図）

位置 調査区中央部北寄りのB34区。標高17.0mの台地平坦部に位置している。

確認状況 壁は削平を受けており、床面と炉およびピットを確認した。

規模と形状 ピットの配置から、径4.76mほどの円形と推測できる。

床 平坦で、硬化面は認められない。

炉 中央部に付設されている地床炉で、長径60cm、短径50cmの楕円形である。床面を若干掘り込み、炉床は火を受けて赤変硬化している。

#### 炉土層解説

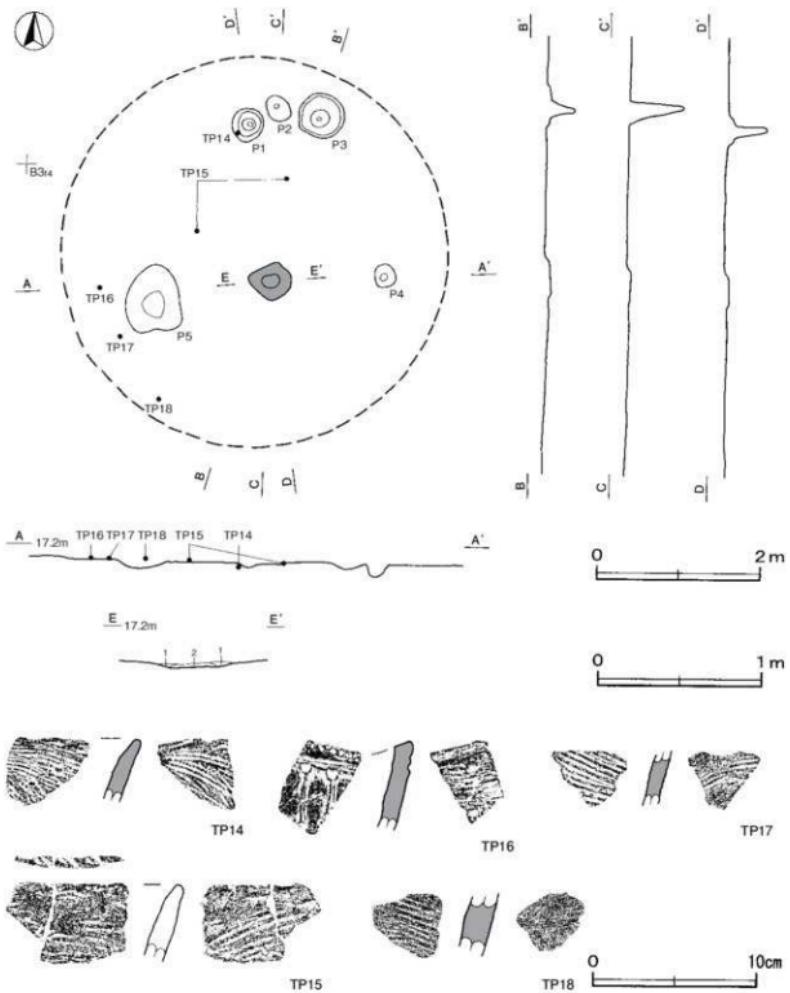
1 細赤褐色 ローム粒子・燒土粒子少量、炭化粒子微量

2 明赤褐色 燃土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量

ピット 5か所。P1～P5は深さ16～66cmで、配置から柱穴と考えられる。

**遺物出土状況** 繩文土器片 18点(深鉢), 剥片 3点が出土している。TP15は中央部の床面から散乱した状態で、TP18は南部の床面, TP17は南西部の床面, TP16は西部の床面, TP14はP1の覆土上層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から早期後半である。



第12図 第26号住居跡・出土遺物実測図

第 26 号住居跡出土遺物観察表（第 12 図）

番号	種別	器種	胎	土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP14	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色 粒子・繊維	橙	普通	外・内面貝殻条痕文を施文		P1 上層	早期
TP15	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部太いキザミ外・内面貝殻条痕文を施文		床面	早期
TP16	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	普通	口縁部キザミ模様の尤縄文・胴部外面細い隆起文で櫛掛け状に区画・縫隙起文に竹管状工具で押捺文を付加・内面貝殻条痕文を施文		床面	早期後半 PL23
TP17	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外・内面貝殻条痕文を施文		床面	早期
TP18	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	外・内面貝殻条痕文を施文		床面	早期

第 27 号住居跡（第 13・14 図）

位置 調査区中央部南寄りの C 3b7 区、標高 17.3 m の台地平坦部に位置している。

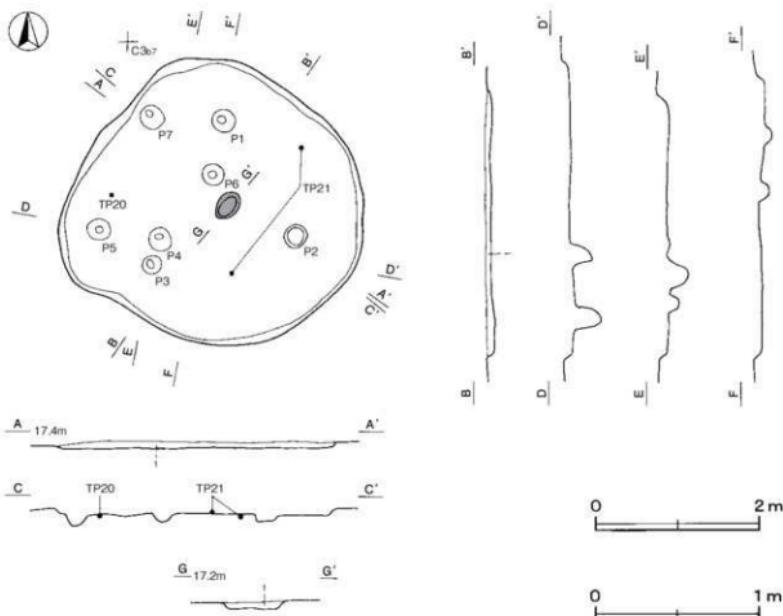
規模と形状 長径 3.75 m、短径 3.51 m の不整円形で、壁高は 8 cm ほどで、外傾して立ち上がっている。

床 やや凹凸があり、硬化面は認められない。

炉 中央部に付設されている地床炉で、長径 38cm、短径 26cm の橢円形である。床面を若干掘り込み、炉床は火を受けて赤茶色化している。

#### 炉土層解説

1 明赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量



第 13 図 第 27 号住居跡実測図

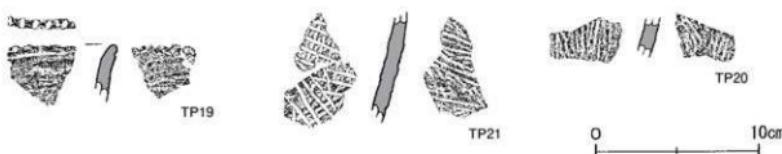
**ビット** 7か所。P 1～P 3・5・7は深さ7～31cmで、配置から柱穴と考えられる。P 4・6は深さ22cm・13cmで、性格は不明である。

**覆土** 単一層である。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

**土層解説**

1 種 颗 色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 繩文土器片23点(深鉢)、剥片1点が出土している。TP21は北東部の床面と中央部南寄りの床面から出土した土器片が接合したもので、TP19は南西部の覆土中、TP20は西部の床面から出土している。  
**所見** 時期は、出土土器から早期と考えられる。



第14図 第27号住居跡出土遺物実測図

第27号住居跡出土遺物観察表（第14図）

番号	種別	器種	胎	土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP19	縄文土器	深鉢	長石・繊維	にぶい程	普通	口縁部キザミ外・内面貝殻条文を施文		覆土中	早期
TP20	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい程	普通	外・内面貝殻条文を施文		床面	早期
TP21	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄褐	普通	外面格子状の沈線を施文		床面	早期後半 PL23

第31号住居跡（第15図）

**位置** 調査区中央部北寄りのB 3h2区、標高17.1mの台地平坦部に位置している。

**確認状況** 東部は木の根による擾乱を受けている。壁の大部分は削平を受けており、床面とビットを確認した。

**重複関係** 第16号住居に掘り込まれている。

**規模と形状** ビットの配置から、長径5.60m、短径4.60mの楕円形で、主軸方向はN-53°-Eと推定される。

壁高は4cmほどで、外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で、一部硬化面が認められる。

**ビット** 5か所。P 1・4・5は深さ13～48cmで、配置から柱穴と考えられる。P 2・3は深さ19cm・18cmで、性格は不明である。

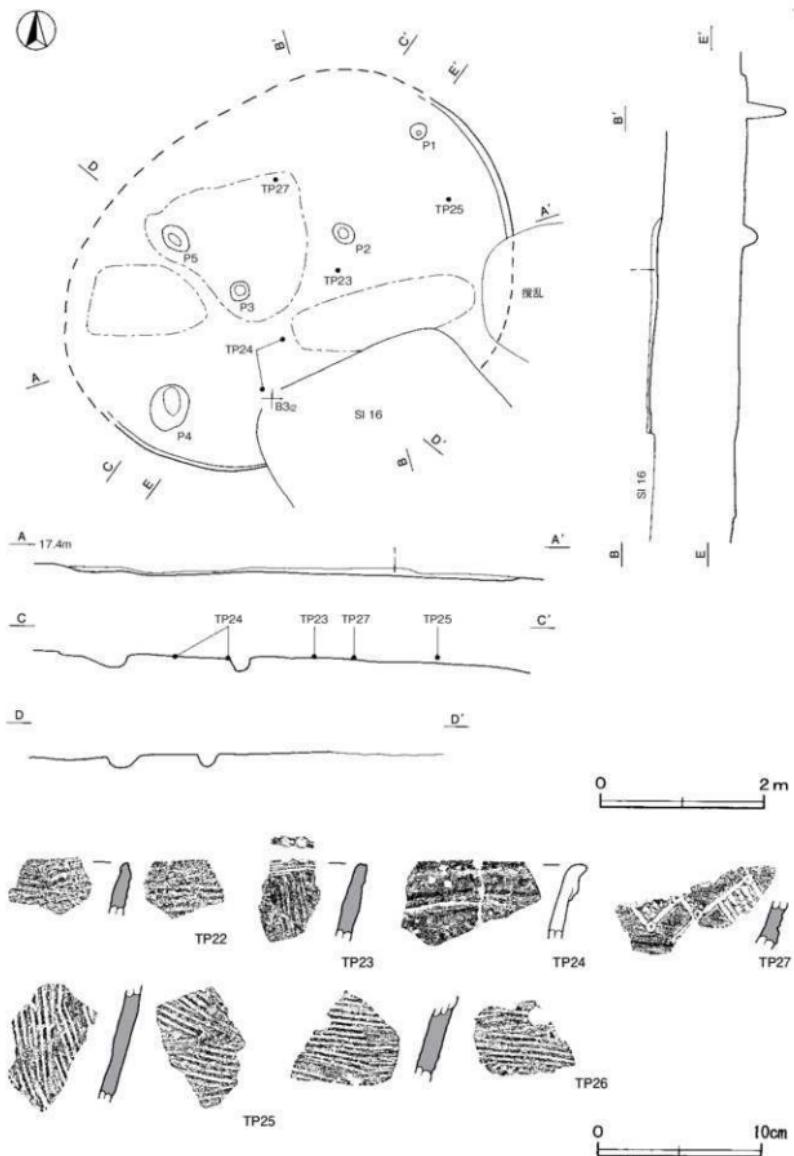
**覆土** 単一層である。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

**土層解説**

1 種 颗 色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器片105点(深鉢)、剥片5点が出土している。TP23は中央部の床面、TP25は北東部の覆土下層、TP24は中央部やや南寄りの床面、TP22は北西部の覆土中、TP27は北西部の床面、TP26は覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から早期後半と考えられる。



第15図 第31号住居跡・出土遺物実測図

第31号住居跡出土遺物観察表（第15図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP22	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にふい黄褐	普通	外・内面貝殻条文を施文	覆土中	早期
TP23	縄文土器	深鉢	石英・雲母・繊維	にふい黄褐	普通	口縁部キザミ・口辺部横帯の条文直・脇部外面貝殻条文を施文	床面	早期
TP24	縄文土器	深鉢	長石	にふい黄褐	普通	口縁部折り返し	床面	PL23
TP25	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にふい黄褐	普通	外・内面貝殻条文を施文	下層	早期
TP26	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にふい黄褐	普通	外・内面貝殻条文を施文	覆土中	早期 補修痕あり
TP27	縄文土器	深鉢	長石・雲母・繊維	にふい黄褐	普通	外・内面貝殻条文を施文 外縁沈継にて格子状に区画・区画内に半軸竹管の平行化 縫を充填・区画交点に竹管工具による神轔文を行加	床面	早期後半 PL23

第32号住居跡（第16図）

位置 調査区東部北寄りのB3 d0区、標高17.1mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸2.43m、短軸1.90mの隅丸長方形で、長軸方向はN=0°である。壁高は5~10cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、南西部に硬化面が認められる。

ピット P1は深さ10cmで、性格は不明である。

覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

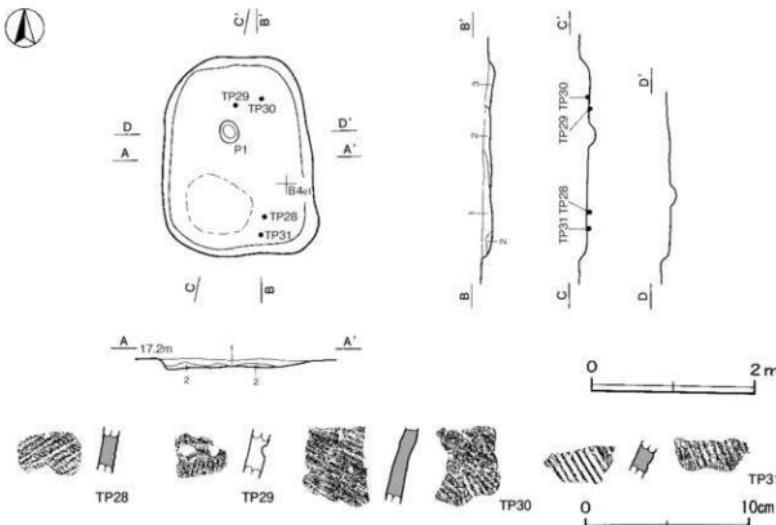
1 黒褐色 土 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量  
2 灰褐色 土 ロームブロック微量

3 棕褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器12点（深鉢）が出土している。TP29は北部中央の床面、TP30は北部東寄りの床面。

TP28は南部の床面、TP31は南部中央の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期である。



第16図 第32号住居跡・出土遺物実測図

第32号住居跡出土遺物觀察表（第16図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP28	縄文土器	深鉢 絞り・繩目	長石・石英・赤色	にぶい橙	普通	単節縄文LRを施文	床面	前期
TP29	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面部斜面施文後、竹管状工具で刺突	床面	早期
TP30	縄文土器	深鉢 繩目	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外・内面部斜面施文	床面	早期
TP31	縄文土器	深鉢 繩目	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外・内面部斜面施文	床面	早期

第33号住居跡（第17・18図）

位置 調査区東部北寄りのB4 g4区、標高17.1mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径4.42m、短径3.50mの梢円形で、主軸方向はN-23°-Eである。壁高は9cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、硬化面は認められない。

ピット 3か所。P1・2は深さ40cm・12cmで、配置から柱穴と考えられる。P3は深さ13cmで、性格は不明である。

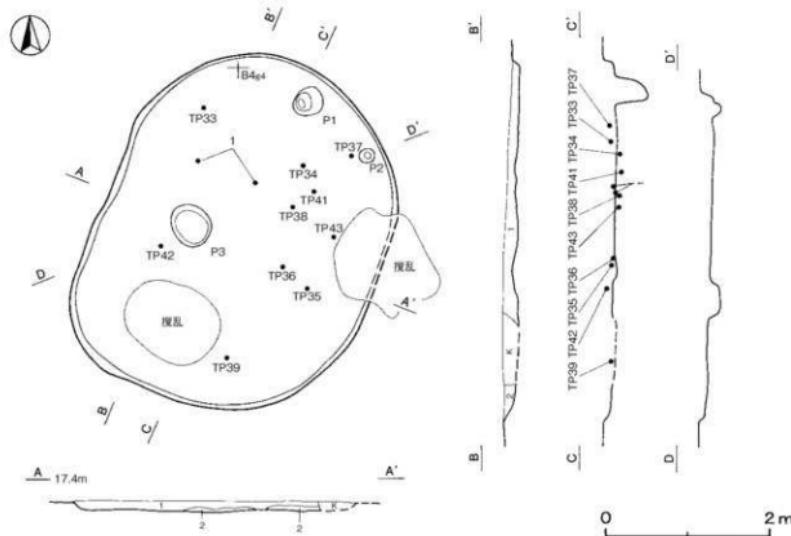
覆土 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

1 黑褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

2 にぶい褐色 ロームブロック少量

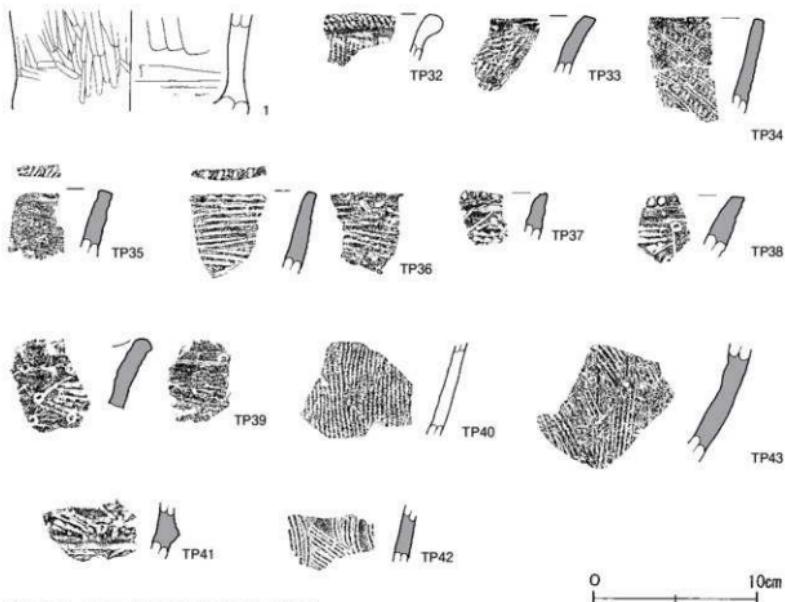
遺物出土状況 縄文土器片69点（深鉢）、洞片3点が出土している。TP38は中央部の床面、TP36は中央部南東寄りの床面、1は北部中央の床面、TP34・TP41は北東部の床面、TP37は北東部の覆土下層、TP43は



第17図 第33号住居跡実測図

東部中央の床面、TP35は南東部の覆土下層、TP39は南部中央の覆土下層、TP42は西部中央の覆土下層、TP33は北部西寄りの覆土下層、TP32・TP40は覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から前期前半である。



第18図 第33号住居跡出土遺物実測図

第33号住居跡出土遺物観察表（第18図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎	土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考	
1	織文土器	深鉢	-	(6.1)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面ヘラ磨き	床面	5%	前期	
TP32	織文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐色	普通	口縁部斜位の熱系文	胴部に織位の熱系文を施文	普通	口縫部斜位の熱系文	覆土中	前期前半	PL23	
TP33	織文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐色	普通	2条1組の熱系文を施文	下層	前期前半					
TP34	織文土器	深鉢	長石・石英	織織	普通	直前段合撃の縄文を施文	床面	前期前半	直前段合撃の縄文を施文	PL23	前期前半		
TP35	織文土器	深鉢	長石・石英	織織	普通	にぶい小粒	普通	口唇部貝殻腹縫文	外面貝殻腹縫文	下層	早期		
TP36	織文土器	深鉢	長石・石英	織織	普通	にねり黄物	普通	口唇部キザミ	胴部内外面貝殻条文を施文	床面	早期	PL23	
TP37	織文土器	深鉢	長石・石英	織織	にぶい褐色	普通	口縫部キザミ	胴部外側沈縫にて区画	区画内に半截竹管の平行沈縫を施文	下層	早期後半		
TP38	織文土器	深鉢	長石・石英	赤色粒子	普通	にぶい褐色	普通	口縫部キザミ	胴部外側沈縫にて区画	区画内に半截竹管の平行沈縫を施文	床面	早期後半	
TP39	織文土器	深鉢	長石・石英	織織	にぶい褐色	普通	口縫部キザミ	口唇部貝殻腹縫文	外面貝殻条文を施文	下層	早期後半		
TP40	織文土器	深鉢	長石・石英	普通	普通	口縫部キザミ	口唇部貝殻腹縫文	普通	口唇部貝殻腹縫文を施文	覆土中	前期	PL23	
TP41	織文土器	深鉢	長石・石英	赤色粒子	織織	にぶい褐色	普通	口縫部キザミ	口縫部キザミ	口縫部外側沈縫による格子状に区画	床面	早期後半	
TP42	織文土器	深鉢	長石・石英	赤色粒子	織織	にぶい褐色	普通	半截竹管	口縫部外側沈縫による格子状に区画	区画内に半截竹管の平行沈縫を施文	下層	早期	PL23
TP43	織文土器	深鉢	長石・石英	普通	普通	口縫部外側沈縫	普通	口縫部外側沈縫	口縫部外側沈縫	口縫部外側沈縫	床面	前期	PL23

### 第34号住居跡（第19図）

**位置** 調査区東部北寄りのB45区、標高16.9mの台地縁辺部の平坦面に位置している。

**規模と形状** 長軸330m、短軸260mの隅丸長方形で、主軸方向はN-62°-Wである。標高は10~13cmで、緩斜して立ち上がっている。

**床** やや北側に傾斜しているがほぼ平坦であり、硬化面は認められない。

**ピット** P1は深さ18cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

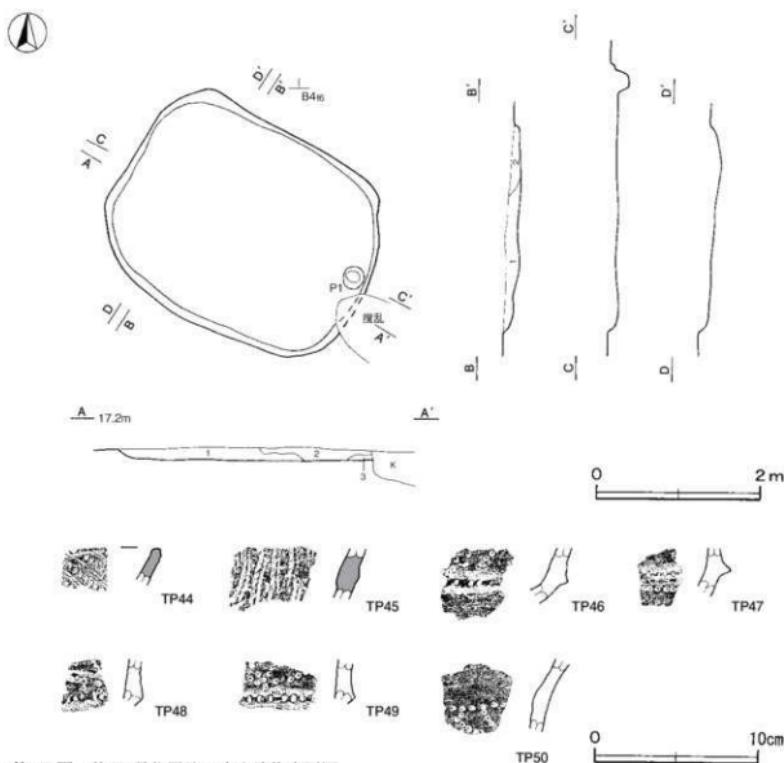
**覆土** 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	3	褐	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量			

**遺物出土状況** 繩文土器片17点（深鉢）が出土している。TP44~TP50はすべて覆土中からの出土である。

**所見** 時期は、出土土器から前期前半と考えられる。



第19図 第34号住居跡・出土遺物実測図

第34号住居跡出土物観察表（第19図）

番号	種別	器種	胎	土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
TP44	縄文土器	深鉢	石英・赤色粒子・ 鐵石・石英・赤色 粒子	褐	普通	直前段合撫の縄文を施文		覆土中	前期前半
TP45	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色 粒子	にぶい褐	普通	2条1組の撫糸文を施文		覆土中	早期 PL24
TP46	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色 粒子	にぶい褐	普通	竹管状工具による刺突文		覆土中	早期後半 PL24
TP47	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色 粒子	にぶい褐	普通	竹管状工具による刺突文		覆土中	早期後半 PL24
TP48	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐	普通	竹管状工具による刺突文		覆土中	早期後半 PL24
TP49	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色 粒子	にぶい褐	普通	竹管状工具による刺突文		覆土中	早期後半 PL24
TP50	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒	普通	竹管状工具による刺突文		覆土中	早期後半 PL24

第35号住居跡（第20・21図）

位置 調査区中央部北寄りのB3d9区、標高17.0mの台地平坦部に位置している。

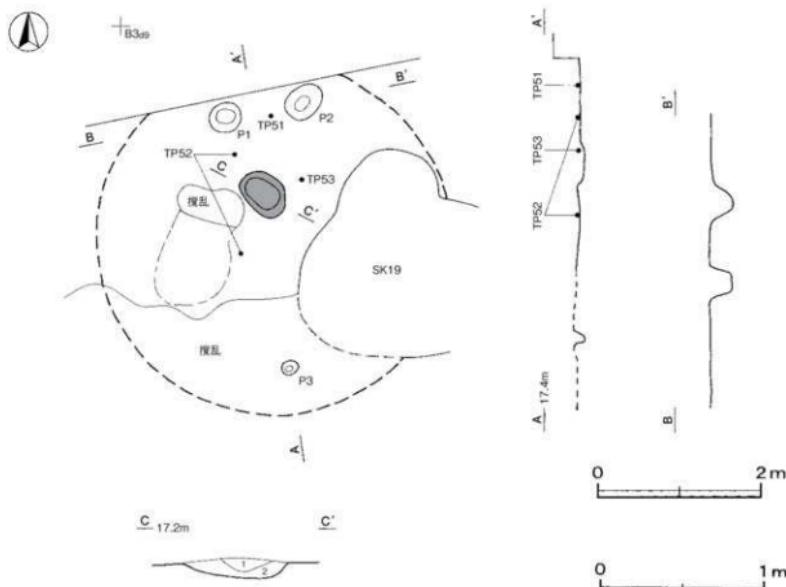
確認状況 壁は削平を受けており、床面と炉およびピットを確認した。

重複関係 第19号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 ピットの配置から、径4.36mほどの円形と推測できる。

床 平坦で、中央部西寄りに硬化面が認められる。

炉 中央部や北寄りに付設されている地床炉で、長径62cm、短径48cmの梢円形である。床面を若干掘り込み、炉床は火を受けて赤変硬化している。



第20図 第35号住居跡実測図

#### 炉土層解説

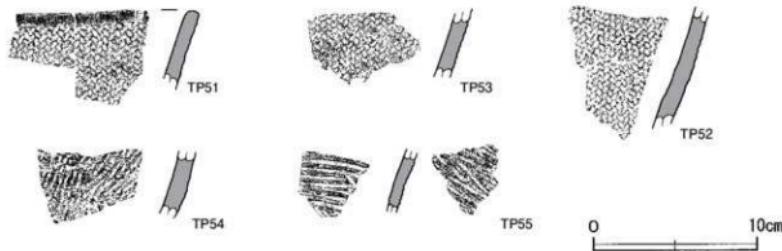
1 細 市 極 色 焼土ブロック中量、炭化粒子微量

2 にい赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子、炭化粒子微量

**ピット** 3か所。P 1～P 3は深さ 14～27cm で、配置から柱穴と考えられる。

**遺物出土状況** 繩文土器片 27点（深鉢）、剥片 1点が出土している。TP52は中央部南寄りの床面と、中央部北寄りの床面から出土した土器片が接合したもので、TP51は北部の床面。TP53は中央部東寄りの床面、TP54・TP55は覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から前期前半と考えられる。



第21図 第35号住居跡出土遺物実測図

第35号住居跡出土遺物観察表（第21図）

番号	種別	器種	胎 土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
TP51	縄文土器	深鉢	長石・雲母・鐵錐	橙	普通	粗縦による縄文を施文	床面	前期前半 PL24
TP52	縄文土器	深鉢	長石・石英・鐵錐	橙	普通	粗縦による縄文を施文	床面	前期前半
TP53	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・鐵錐	にいの橙	普通	粗縦による縄文を施文	床面	前期前半
TP54	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・鐵錐	にいの橙	普通	外表面般横縦文を施文	覆土中	早期 PL24
TP55	縄文土器	深鉢	長石・石英・鐵錐	にいの黄澄	普通	外・内表面般状痕文を施文	覆土中	早期

第36号住居跡（第22図）

**位置** 調査区北西部のB 2 h0 区、標高 17.0 m の台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径 4.12 m、短径 3.95 m の不整円形で、壁高は 4 cm ほどで、緩斜して立ち上がっている。

**床** ほば平坦であり、硬化面は認められない。壁際で焼土が確認できた。

**ピット** 3か所。P 1・2は深さ 10cm・16cm で、配置から柱穴と考えられる。P 3は深さ 14cm で、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

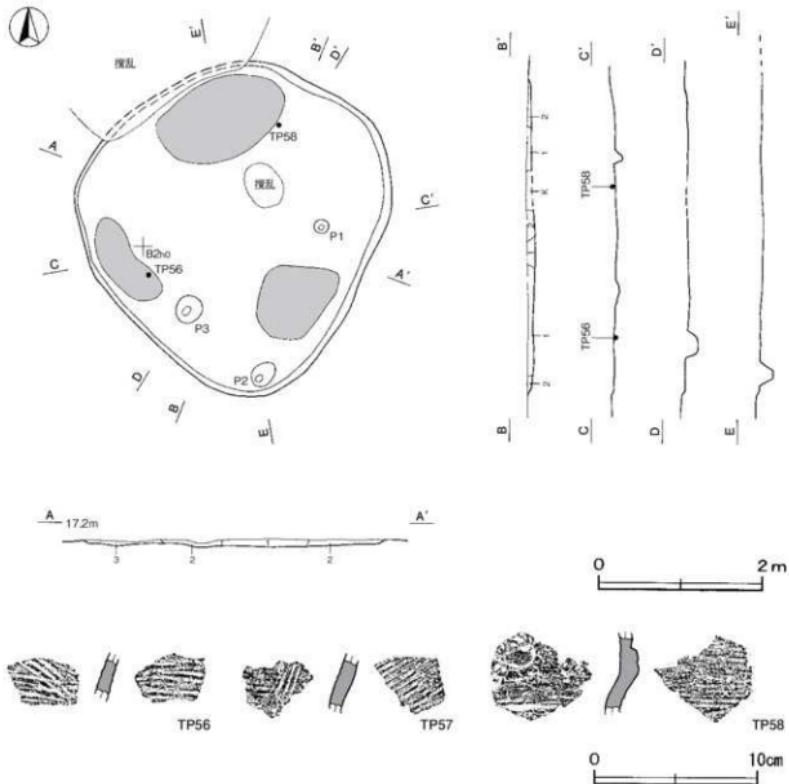
**覆土** 3層に分層できる。ロームブロックや焼土、炭化物を含んだ堆積状況から埋め戻されている。

#### 土層解説

1 細 黄 色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 3 極 色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量  
2 細 赤 極 色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物少量

**遺物出土状況** 縄文土器片 16点（深鉢）が出土している。TP58は北東部の床面、TP56は南西部の床面、TP57は覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から早期後半である。また、床面から焼土や炭化材が確認されていることから、焼失住居の可能性がある。



第22図 第36号住居跡・出土遺物実測図

第36号住居跡出土遺物観察表（第22図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP56	縄文土器	深鉢	長石・繊維	にぶい橙	普通	外・内面貝殻条文を施文	床面	早期
TP57	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外・内面貝殻条文を施文	覆土中	早期
TP58	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外面竹管状工具による押捺文を付加 内面貝殻条文を施文	床面	早期後半

表2 縄文時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高(cm)	床面	壁溝	内部施設			覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係 (古→新)	
								柱穴	山戸口	竪窓穴(数)					
5	B 2.3	-	[円形]	[5.70] × [5.70]	-	平坦	-	8	-	1	-	丸瓦	縄文土器、調片	早期	地先住居
15	B 3.1	-	[円形・椭円形]	[6.14] × [3.75]	-	平坦	-	5	-	5	-	-	縄文土器	早期	本跡→SK164
19	C 2.0	-	[円形]	[7.26] × [7.36]	-	平坦	-	4	-	2	-	丸瓦	縄文土器、調片	前期	FPT → 本跡 → SD2/FPT
25	C 3.6	[N-4'-W]	[椭円形]	[5.80] × [4.80]	4	平坦	-	4	-	1	-	-	縄文土器、調片	前期後半	
26	B 3.4	-	[円形]	[4.76] × [4.76]	-	平坦	-	5	-	-	-	丸瓦	縄文土器、調片	早期後半	

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) 長径×短軸	壁高 (cm)	床面	壁溝 (柱穴 ビロ)	内部施設			覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係 (古→新)	
								出入口	ピロ	防風窓・炉					
27	C 3b7	-	不整円形	3.75×3.51	8	凹凸	-	5	-	2	-	炉	不明	縄文土器、調片	早期
31	B 3b2 [N - 52° - E]	[楕円形]	[楕円形]	[5.60] × [4.60]	4	平坦	-	3	-	2	-	不明	縄文土器、調片	早期後半	本跡→ SD16
32	B 3d9	N - 0°	楕円形	2.43 × 1.90	5-10	平坦	-	-	-	1	-	-	自然	縄文土器	中期
33	B 4g4	N - 23° - E	楕円形	4.42 × 3.50	9	平坦	-	2	-	1	-	-	自然	縄文土器、調片	中期前半
34	B 4d5	N - 62° - W	楕円形	3.30 × 2.60	10-13	平坦	-	-	1	-	-	-	自然	縄文土器	中期前半
35	B 3d9	-	[円形]	[4.26] × [3.6]	-	平坦	-	3	-	-	炉	-	縄文土器、調片	中期	本跡→ SK19
36	B 2b6	-	不整円形	4.12 × 3.95	4	平坦	-	2	1	-	-	人骨	縄文土器	早期後半	後述

## (2) 炉穴

### 第1号炉穴 (第23図)

**位置** 調査区中央部南寄りのC 3d9区、標高17.0 mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径0.88 m、短径0.62 mの楕円形で、長径方向はN - 74° - Eである。中央部が火焚部で、東側または西側に足場が敷設されていたと考えられる。深さは火焚部が28 cm、足場が10 cmで、壁は外傾して立ち上がっている。火焚部は椀状で、火熱を受けて赤変硬化している。足場は火焚部に向かって緩やかに傾斜している。

**覆土** 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。火床面は第4層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。

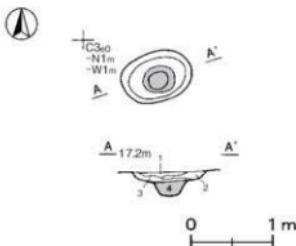
#### 土層解説

- 1 級 黒色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 級 黑色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
- 3 級 赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 4 明赤褐色 焼土ブロック多量、炭化物・灰微量

**遺物出土状況** 縄文土器片1点(深鉢)が出土している

が、細片のため図示できない。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代と考えられる。



第23図 第1号炉穴実測図

### 第2号炉穴 (第24図)

**位置** 調査区東部中央のB 4i3区、標高17.0 mの台地平坦部に位置している。

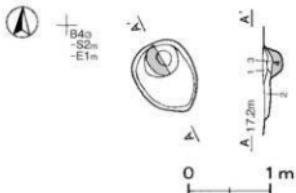
**規模と形状** 長径0.94 m、短径0.72 mの楕円形で、長径方向はN - 27° - Wである。北西部が火焚部で、南東部に足場が敷設されている。深さは火焚部が24 cm、足場が8 cmで、壁は外傾して立ち上がっている。火焚部は椀状で、火熱を受けて赤変硬化している。足場は

ほぼ平坦につくられている。

**覆土** 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。火床面は第4層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。

#### 土層解説

- 1 級 赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 級 黒色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 級 黒色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 級 黒色 ローム粒子中量、焼土粒子微量



第24図 第2号炉穴実測図

**遺物出土状況** 繩文土器片 1 点（深鉢）が出土しているが、細片のため図示できない。

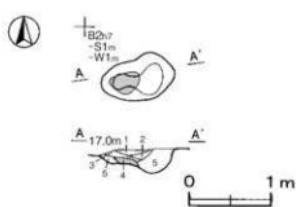
**所見** 時期は、出土土器片の外面に貝殻条痕文が施文されていることから、早期と考えられる。

### 第3号炉穴（第25図）

**位置** 調査区西部北寄りの B 2h6 区、標高 16.9 m の台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径 0.90 m、短径 0.51 m の楕円形で、長径方向は N - 101° - W である。西部が火焚部で、東部に足場が敷設されている。深さは火焚部が 18cm、足場が 30cm で、壁は外傾して立ち上がっている。火焚部は皿状で、火熱を受けて赤変硬化している。足場は火焚部より低くつくられている。

**覆土** 5 層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。火床面は第 4 層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。第 1 ~ 3 層は焼けた天井部の崩落土である。



第25図 第3号炉穴実測図

#### 土層解説

1	黒	褐	色	ロームブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量
2	暗	褐	色	焼土ブロック中量、ローム粒子、炭化粒子微量
3	赤	褐	色	焼土ブロック多量、炭化粒子微量
4	暗	赤	褐	焼土粒子中量、ローム粒子、炭化粒子微量
5	褐	褐	色	ロームブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量

**遺物出土状況** 繩文土器片 1 点（深鉢）、剥片 1 点（チャート）が出土しているが、細片のため図示できない。

**所見** 時期は、出土土器片の外面に貝殻条痕文が施文されていることから、早期と考えられる。

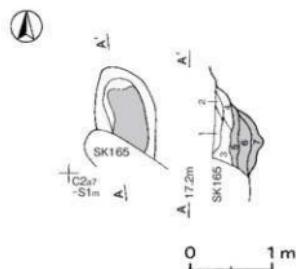
### 第4号炉穴（第26図）

**位置** 調査区西部中央の C 2a7 区、標高 17.0 m の台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第 165 号土坑に南部を掘り込まれている。

**規模と形状** 長径 1.34 m、短径 0.74 m の楕円形と推測され、長径方向は N - 11° - W である。中央部が火焚部で、南部に足場が敷設されていた可能性がある。深さは火焚部が 62cm で、壁は外傾して立ち上がっている。火焚部は皿状で、火熱を受けて赤変硬化している。

**覆土** 7 層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。火床面は第 5 ~ 7 層の各上面で、火熱を受けて赤変硬化している。



第26図 第4号炉穴実測図

#### 土層解説

1	褐	色	ローム粒子中量、焼土粒子、炭化粒子微量	
2	暗	褐	色	ローム粒子多量、焼土粒子微量
3	褐	色	ローム粒子中量、焼土ブロック、炭化粒子微量	
4	暗	褐	色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
5	赤	褐	色	焼土ブロック中量、ロームブロック、炭化粒子微量
6	暗	赤	褐	焼土ブロック多量、炭化物、ローム粒子少量、炭化粒子微量
7	赤	褐	色	ローム粒子、焼土粒子少量、炭化粒子微量

**遺物出土状況** 繩文土器片 4 点（深鉢）、細礫が出土しているが、細片のため図示できない。

**所見** 時期は、出土土器片の外面に貝殻条痕文が施文されていることから、早期と考えられる。また、火床部の焼土の堆積状況から複数回用いられた可能性がある。

### 第5号炉穴（第27図）

**位置** 調査区西部中央のB 2j8区、標高16.9mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第10号住居に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径1.80m、短径0.98mの楕円形で、長径方向はN-28°-Wである。北西部が火焚部で、南東部に足場が敷設されている。深さは火焚部が46cm、足場が8cmで、壁は外傾して立ち上がっている。火焚部は純状で、火熱を受けて赤変硬化している。足場は火焚部に向かって若干の高まりを設けている。

**覆土** 5層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。火床面は第3層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。

#### 土層解説

1	褐	色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
2	褐	色	ローム粒子中量、焼土粒子少量
3	赤	褐	焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子微量
4	褐	色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
5	褐	色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 繩文土器片1点（深鉢）が出土しているが、細片のため図示できない。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代と考えられる。



第27図 第5号炉穴実測図

### 第6号炉穴（第28図）

**位置** 調査区西部南寄りのC 2e0区、標高17.0mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第19号住居跡との重複関係は不明である。

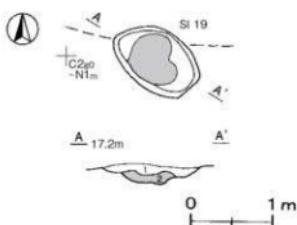
**規模と形状** 長径1.20m、短径0.74mの楕円形で、長径方向はN-58°-Wである。中央部が火焚部で、南東部もしくは北西部に足場が敷設されている。深さは火焚部が22cm、足場が10cmで、壁は外傾して立ち上がっている。火焚部は皿状で、火熱を受けて赤変硬化している。足場は平坦である。

**覆土** 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。火床面は第2層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。

#### 土層解説

1	暗	褐	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子微量
2	赤	褐	焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子微量

**所見** 時期は、遺物が出土していないため不明であるが、遺構の形態などから縄文時代と考えられる。



第28図 第6号炉穴実測図

### 第7号炉穴（第29図）

**位置** 調査区西部南寄りのC 2e0区、標高17.0mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第19号住居に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径1.90m、短径1.06mの楕円形で、長径方向はN-99°-Wである。西部が火焚部で、東部に足場が敷設されている。深さは火焚部が34cm、足場が48cmで、壁は外傾して立ち上がっている。火焚部

は皿状で、火熱を受けて赤変硬化している。足場は火焚部に向かって緩やかに傾斜している。

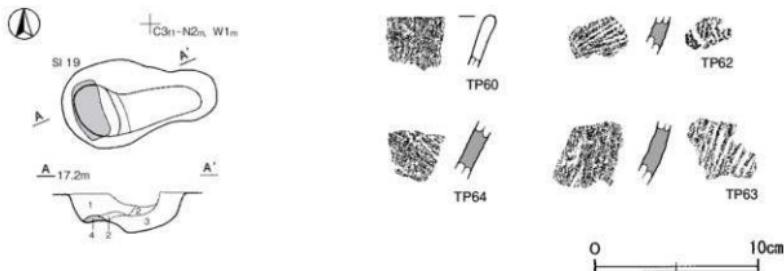
**覆土** 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。火床面は第4層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。

#### 土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量	3 單褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
2 赤褐色 烧土粒子・炭化粒子少量。ローム粒子微量	4 単褐色 烧土ブロック多量。ローム粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 織文土器片 11点（深鉢）が出土している。TP60・TP62～TP64はすべて覆土中からの出土である。

**所見** 時期は、出土土器から早期である。



第29図 第7号炉穴・出土遺物実測図

第7号炉穴出土遺物観察表（第29図）

番号	種別	器種	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP60	織文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	縦位の撫糸文	覆土中	早期前半 PL24
TP62	織文土器	深鉢	長石・織維	橙	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	早期
TP63	織文土器	深鉢	長石・織維	橙	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	早期
TP64	織文土器	深鉢	長石・石英・織維	にぶい橙	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	早期

表3 炉穴一覧表

番号	位置	長幅(面)方向	平面形	規模(m) 長径×短径	深さ・規模(cm)		壁面	火焚部 底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)		
					火焚部	足場							
1	C 3 d9	N-74°-E	楕円形	0.88×0.62	28	36×38	10	18×35	外傾	楕状	自然	織文土器	
2	B 4 i3	N-27°-W	楕円形	0.94×0.72	24	42×45	8	44×60	外傾	楕状	自然	織文土器	
3	B 2 b6	N-101°-W	楕円形	0.90×0.51	18	26×38	30	30×38	外傾	盤状	自然	織文土器 潛片	
4	C 2 a7	N-11°-W	【楕円形】(1.34)×0.74	62	50×80	-	-	外傾	盤状	自然	織文土器	早期 本跡→SK165	
5	B 2 j8	N-28°-W	楕円形	1.80×0.98	46	80×80	8	66×60	外傾	楕状	自然	織文土器	織文時代 本跡→SI 10
6	C 2 f0	N-38°-W	楕円形	1.20×0.74	22	60×64	10	23×50	外傾	盤状	自然	-	織文時代
7	C 2 e0	N-99°-W	楕円形	1.90×1.06	34	44×96	48	60×66	外傾	盤状	自然	織文土器	早期 本跡→SI 19

#### (3) 炉跡

##### 第1号炉跡（第30図）

**位置** 調査区東部南寄りのC 4 c1 区、標高17.1 m の台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径 0.58 m 、短径 0.48 m の楕円形で、長径方向は N-38°-W である。深さは 14 cm で、壁は外傾

して立ち上がり。底面は皿状で、火熱を受けて赤変硬化している。

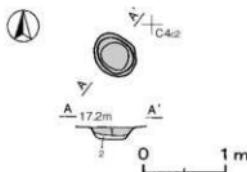
**覆土** 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

火床面は第1層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。

#### 土層解説

- 1 半 紅 色 燃土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 細 紅 色 ロームブロック中量、燃土粒子・炭化粒子微量

**所見** 時期は、遺物が出土していないため不明であるが、遺構の形状から縄文時代と考えられる。



第30図 第1号炉跡実測図

#### 第2号炉跡 (第31図)

**位置** 調査区西部中央のB 219区、標高 17.0 m の台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第10号住居に掘り込まれている。

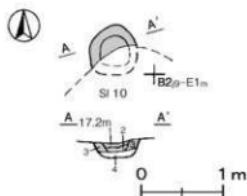
**規模と形状** 径 0.60 m の円形と推測でき、深さは 22cm である。壁は外傾して立ち上がり、底面は皿状で、火熱を受けて赤変硬化している。

**覆土** 4層に分層できる。不自然な堆積状況から、埋め戻されている。火床面は第1～3層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。

#### 土層解説

- 1 半 紅 色 燃土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 明 半 紅 色 燃土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 赤 紅 色 ローム粒子・燃土粒子中量、炭化粒子微量
- 4 黒 色 ローム粒子中量、燃土粒子微量

**所見** 時期は、遺物が出土していないため不明であるが、遺構の形状から縄文時代と考えられる。



第31図 第2号炉跡実測図

#### 第3号炉跡 (第32図)

**位置** 調査区西部中央のB 218区、標高 17.0 m の台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径 0.72 m、短径 0.56 m の楕円形で、長径方向は N - 62° - E である。深さは 12cm で、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦で、火熱を受けて赤変硬化している。

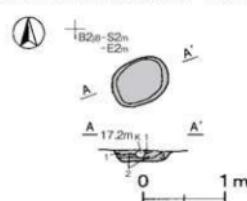
**覆土** 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

火床面は第1～3層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。

#### 土層解説

- 1 明 半 紅 色 燃土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 半 紅 色 燃土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 ぶい赤黒色 ローム粒子・燃土粒子少量

**所見** 時期は、遺物が出土していないため不明であるが、遺構の形状から縄文時代と考えられる。

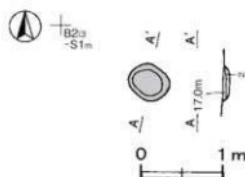


第32図 第3号炉跡実測図

#### 第4号炉跡 (第33図)

**位置** 調査区西部中央のB 213区、標高 16.7 m の台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径 0.50 m、短径 0.43 m の椭円形で、長径方向は N - 46° - W である。深さは 8 cm で、壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦で、火熱を受けて赤変硬化している。



**覆土** 2 層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。火床面は第 1 層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。

#### 土層解説

- 1 赤褐色 漢土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量  
2 にい赤褐色 ロームブロック・漢土粒子少量、炭化粒子微量

**所見** 時期は、遺物が出土していないため不明であるが、遺構の形状から縄文時代と考えられる。

第 33 図 第 4 号炉跡実測図

表 4 炉跡一覧表

番号	位置	長軸 (m) 方向	平面形	規模 (m) 長径 × 短径	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
1	C 4 cl	N - 38° - W	椭円形	0.58 × 0.48	14	外傾	皿状	自然	-	縄文時代
2	B 2.9	-	[円形]	[0.60 × 0.60]	22	外傾	皿状	人為	-	縄文時代、本蔵 → SI 10
3	B 2.8	N - 62° - E	椭円形	0.72 × 0.56	12	外傾	平坦	自然	-	縄文時代
4	B 2.13	N - 46° - W	椭円形	0.50 × 0.43	8	外傾	平坦	自然	-	縄文時代

#### (4) 土坑

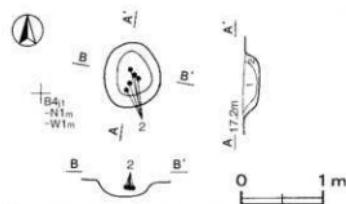
確認された土坑のうち、主なものを取り上げ解説し、それ以外のものは実測図、拓影図、土層解説、遺物観察表、遺構一覧表を掲載する。

第 28 号土坑 (第 34 図)

**位置** 調査区中央部の B 4 ii 区、標高 17.1 m の台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径 0.80 m、短径 0.70 m の椭円形で、長径方向は N - 7° - W である。深さは 20cm、底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 2 層に分層できる。覆土の不自然な堆積状況と、遺物の出土状況から埋め戻されたと考えられる。



#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 縄文土器片 1 点 (深鉢) が出土している。

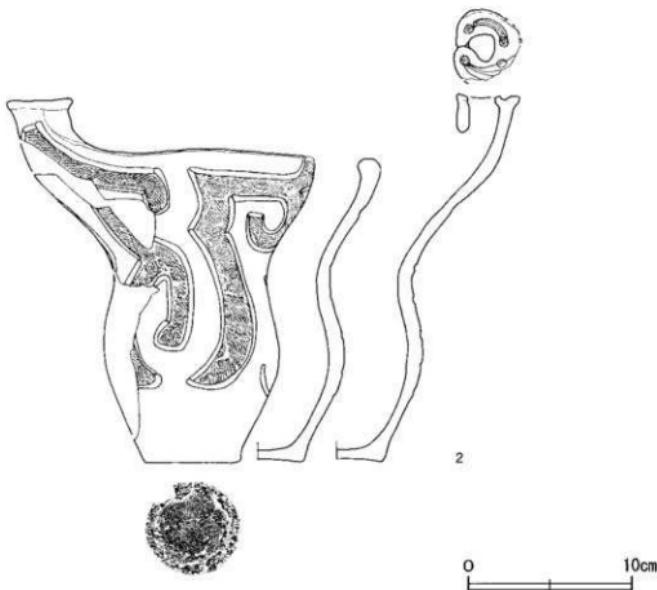
2 は覆土中層に散乱した状態で出土している。

**所見** 時期は、出土土器から後期前半である。

第 34 図 第 28 号土坑実測図

第 28 号土坑出土遺物観察表 (第 35 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
2	縄文土器	深鉢	13.5	22.5	5.8	長石・石英	明褐	普通	突起部を円筒状に形成し、底部に円形刺突文と沈線を有する。胴部は北側で区画後、区画内にR字の半周圓文を施す区画外を焼り残している。	中層 PL22	後期前半 60% PL22



第35図 第28号土坑出土遺物実測図

#### 第112号土坑（第36・37図）

**位置** 調査区中央部南寄りのC 3d9区、標高17.0mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径0.94m、短径0.76mの橢円形で、長径方向はN-58°-Wである。深さ10cm、底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 2層に分層できる。周囲からの土の流入を示す堆積状況と均質な含有物の様相から自然堆積と考えられる。

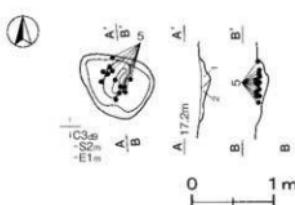
##### 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量、ローム粒子・燒土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 繩文土器片10点（深鉢）、剥片1点

（チャート）が出土している。5は覆土中層から下層にかけて散乱した状態で出土している。

**所見** 時期は、出土土器から早期後半である。



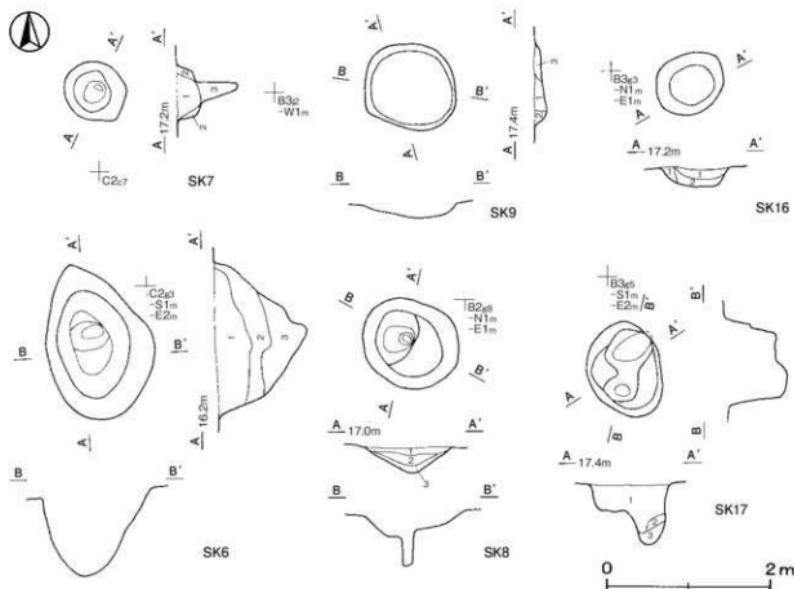
第36図 第112号土坑実測図

#### 第112号土坑出土遺物観察表（第37図）

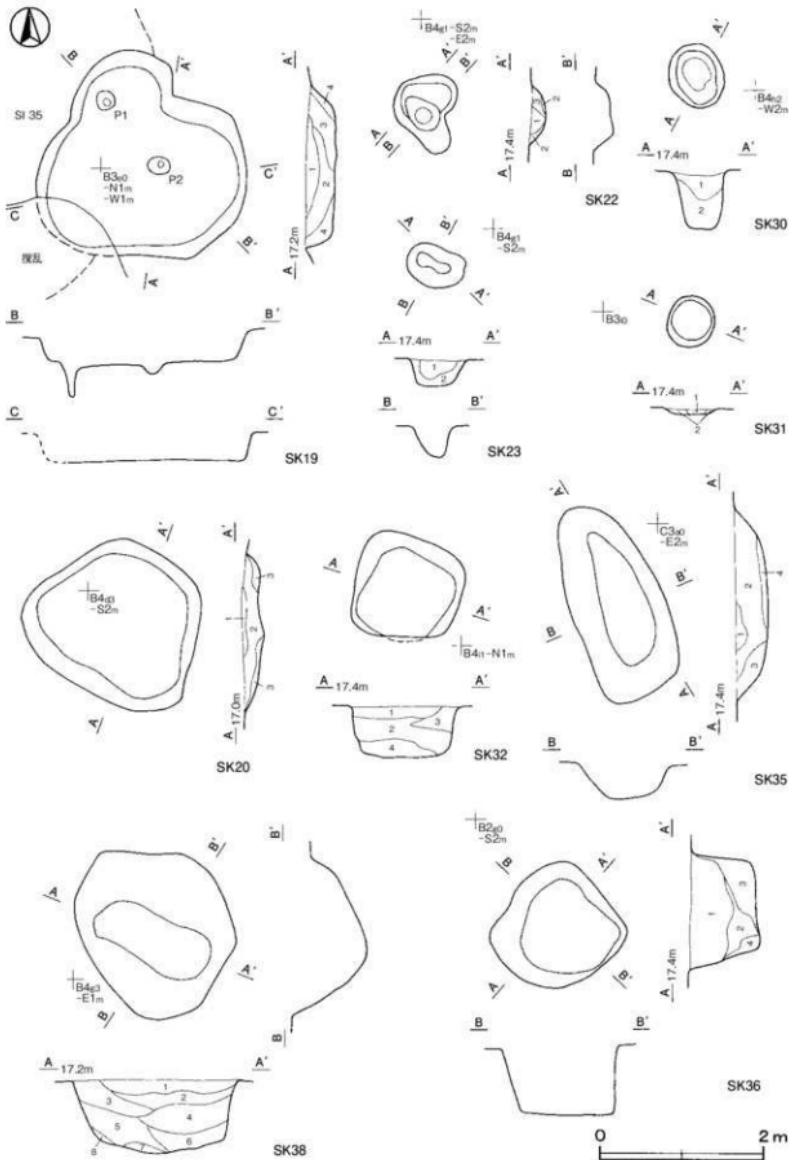
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎	土	色調	焼成	文様の特徴	ほか	出土位置	備考
5	縄文土器	深鉢	[33.0]	(39.1)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面貝殻沈線文を施文			中～下層	早期後半 40%



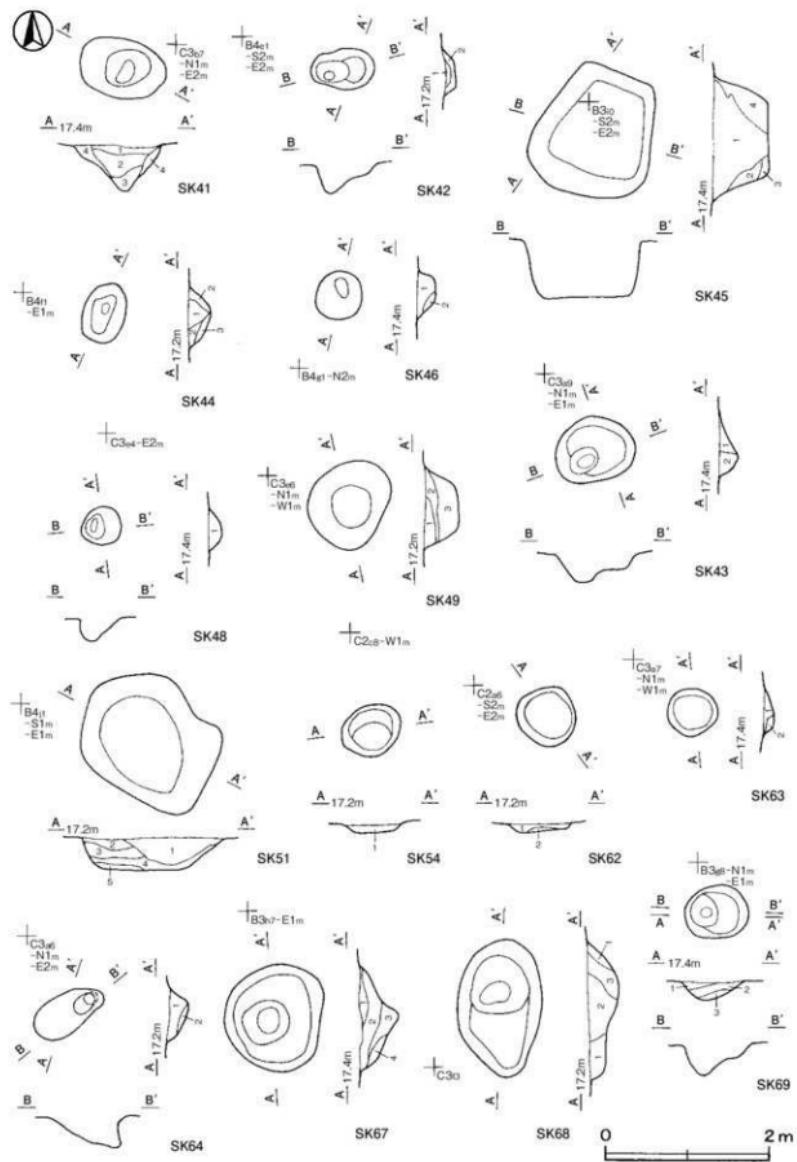
第37図 第112号土坑出土遺物実測図



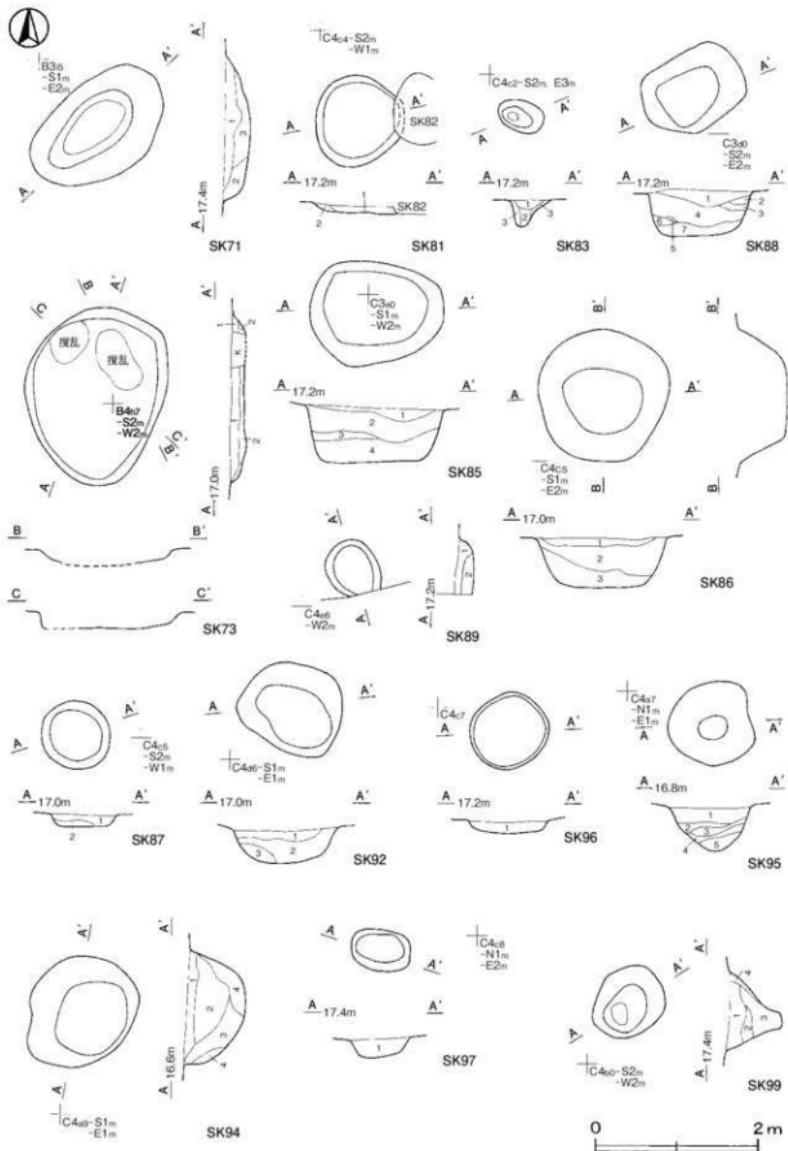
第38図 その他の土坑実測図(1)



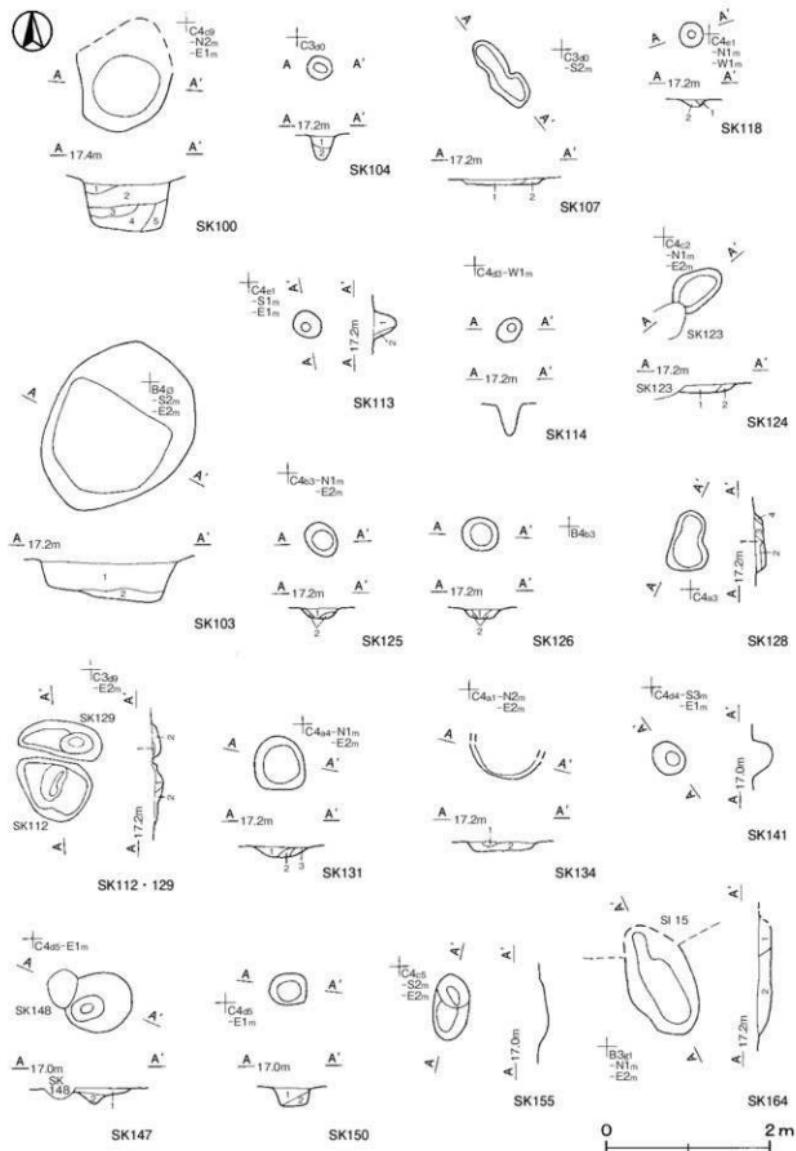
第39図 その他の土坑実測図 (2)



第40図 その他の土坑実測図(3)



第41図 その他の土坑実測図(4)



第42図 その他の土坑実測図 (5)



第43図 その他の土坑実測図(6)

第6号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒 色 ローム粒子中量
- 3 黒 色 ロームブロック少量

第7号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒 色 ローム粒子中量
- 3 黒 色 ロームブロック少量

第8号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子少量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 2 黒 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 黒 色 ローム粒子中量

第9号土坑土層解説

- 1 黒 色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 明 暗 色 ローム粒子多量
- 3 黒 色 ロームブロック中量、焼土粒子、炭化粒子微量

第16号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子少量
- 2 黒 色 ローム粒子微量

第17号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子、焼土粒子、炭化粒子微量
- 2 黒 色 ロームブロック中量
- 3 黒 色 ロームブロック少量

第19号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子、焼土粒子、炭化粒子微量
- 2 黒 色 ロームブロック中量
- 3 黒 色 ロームブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 4 黑 色 ロームブロック中量

第20号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子微量
- 2 黒 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 黑 色 ロームブロック微量

第22号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子、炭化粒子微量
- 2 黑 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 黑 色 ローム粒子、炭化粒子微量

第23号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子、炭化粒子微量
- 2 黑 色 ローム粒子少量

第30号土坑土層解説

- 1 黒 色 ロームブロック少量
- 2 黑 色 ローム粒子微量

第32号土坑土層解説

- 1 にい・褐色 ロームブロック、炭化物少量
- 2 にい・褐色 色 化物少量、ローム粒子、焼土粒子微量
- 3 黑 色 ローム粒子、炭化粒子微量
- 4 黑 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第35号土坑土層解説

- 1 黑 色 ローム粒子中量
- 2 黑 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 明 暗 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 にい・褐色 ローム粒子中量

第36号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子少量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 2 黑 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 明 暗 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 にい・褐色 ローム粒子多量

第38号土坑土層解説

- 1 黑 色 ローム粒子少量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 2 黑 色 ローム粒子微量
- 3 明 暗 色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 4 黑 色 ローム粒子中量
- 5 黑 色 ローム粒子少量
- 6 黑 色 ローム粒子少量
- 7 明 暗 色 ロームブロック中量
- 8 にい・褐色 ローム粒子多量

第41号土坑土層解説

- 1 黑 色 ローム粒子少量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 2 黑 色 ローム粒子微量
- 3 明 暗 色 ローム粒子少量
- 4 黑 色 ロームブロック中量

第42号土坑土層解説

- 1 黑 色 ローム粒子、焼土粒子、炭化粒子微量
- 2 明 暗 色 ローム粒子少量

第43号土坑土層解説

- 1 黑 色 ローム粒子微量
- 2 明 暗 色 ローム粒子微量

第44号土坑土層解説

- 1 黑 色 ローム粒子、焼土粒子、炭化粒子微量
- 2 黑 色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子微量
- 3 黑 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第45号土坑土層解説

- 1 黑 色 ローム粒子、焼土粒子、炭化粒子微量
- 2 黑 色 ロームブロック少量
- 3 黑 色 ローム粒子、炭化粒子微量
- 4 黑 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第46号土坑土層解説

- 1 黑 色 炭化物、ローム粒子、焼土粒子微量
- 2 黑 色 ロームブロック中量

第48号土坑土層解説

- 1 黑 色 ローム粒子、炭化粒子微量

第49号土坑土層解説

- 1 黑 色 ローム粒子微量
- 2 黑 色 ローム粒子、焼土粒子微量
- 3 にい・褐色 ロームブロック少量

第51号土坑土層解説

- 1 黑 色 ローム粒子中量、焼土ブロック、炭化物微量
- 2 黑 色 ロームブロック、ローム粒子微量
- 3 黑 色 ローム粒子、ロームブロック、炭化粒子微量
- 4 黑 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 明 暗 色 ローム粒子微量

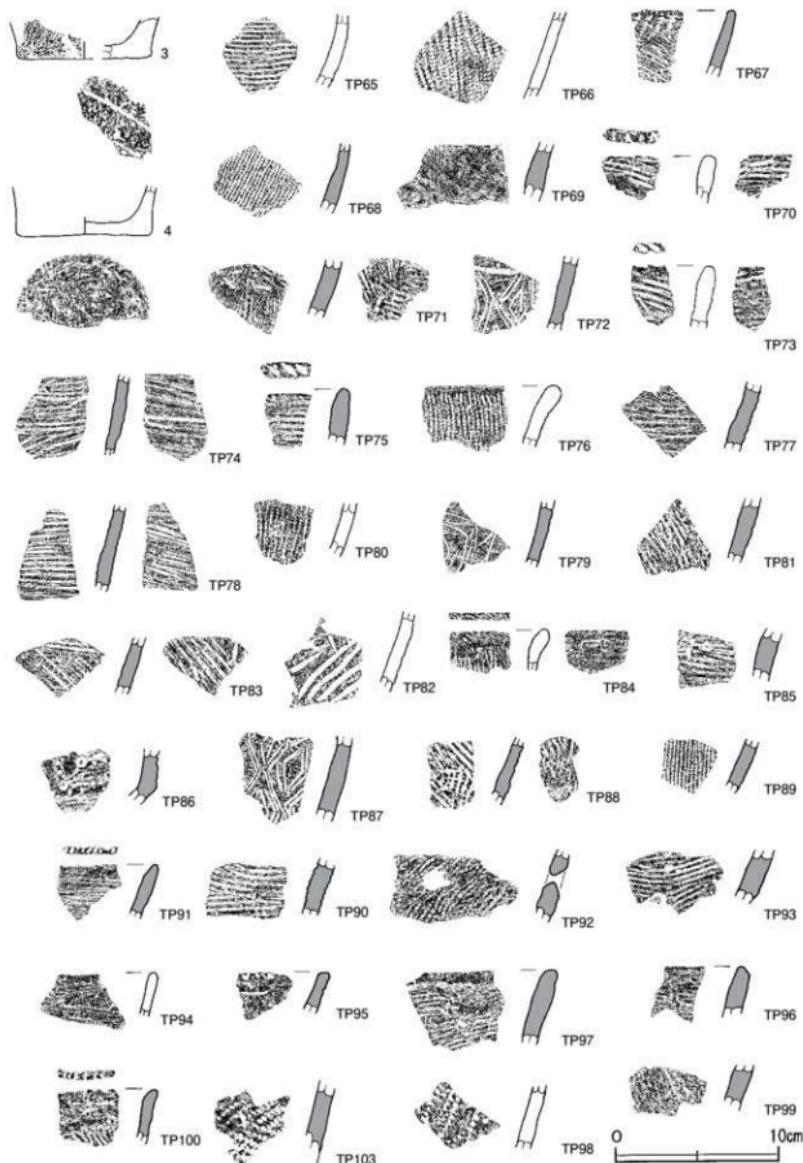
第54号土坑土層解説

- 1 明 暗 色 ロームブロック微量

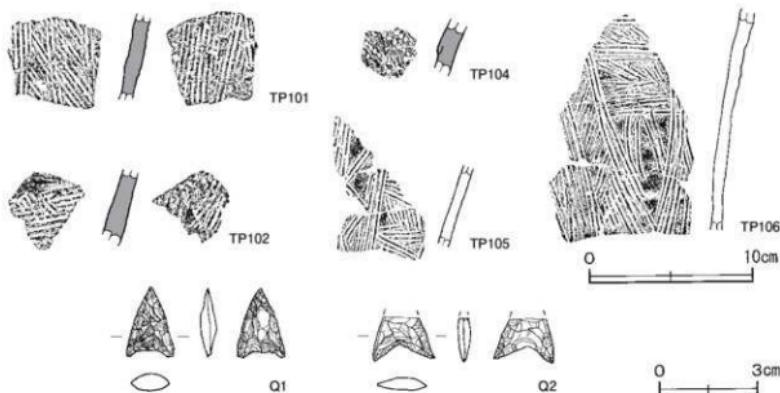
第62号土坑土層解説

- 1 黑 色 ローム粒子微量
- 2 黑 色 ローム粒子少量

- 第 63 号土坑土層解説**  
1 にふい褐色 ロームブロック少量  
2 明 褐 色 ローム粒子中量
- 第 64 号土坑土層解説**  
1 黒 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量  
2 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 第 67 号土坑土層解説**  
1 褐 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量  
2 褐 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量  
3 褐 褐 色 ロームブロック中量  
4 にふい褐色 ローム粒子中量
- 第 68 号土坑土層解説**  
1 にふい褐色 ロームブロック少量  
2 暗 褐 色 ローム粒子少量  
3 黑 褐 色 ローム粒子微量
- 第 69 号土坑土層解説**  
1 暗 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
2 黑 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量  
3 明 褐 色 ローム粒子中量
- 第 71 号土坑土層解説**  
1 楊 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量  
2 暗 褐 色 ローム粒子少量  
3 褐 褐 色 ローム粒子中量
- 第 73 号土坑土層解説**  
1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量  
2 褐 褐 色 ロームブロック少量
- 第 81 号土坑土層解説**  
1 暗 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子微量  
2 褐 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 第 83 号土坑土層解説**  
1 黑 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子微量  
2 暗 褐 色 ローム粒子少量  
3 褐 褐 色 ロームブロック中量
- 第 85 号土坑土層解説**  
1 黑 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量  
2 暗 褐 色 ローム粒子少量  
3 暗 褐 色 ローム粒子少量  
4 暗 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 第 86 号土坑土層解説**  
1 黑 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
2 明 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量  
3 にふい褐色 ロームブロック中量
- 第 87 号土坑土層解説**  
1 にふい褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量  
2 褐 褐 色 ローム粒子中量
- 第 88 号土坑土層解説**  
1 にふい褐色 ロームブロック中量  
2 褐 褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量  
3 明 褐 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量  
4 明 褐 褐 色 ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量  
5 明 褐 褐 色 ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量  
6 暗 褐 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
7 明 褐 褐 色 ロームブロック中量
- 第 89 号土坑土層解説**  
1 にふい褐色 ロームブロック中量  
2 明 褐 褐 色 ロームブロック多量
- 第 92 号土坑土層解説**  
1 暗 褐 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量、燒土粒子微量  
2 褐 褐 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量  
3 褐 褐 褐 色 ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 第 94 号土坑土層解説**  
1 にふい褐色 ロームブロック中量、粘土粒子少量、燒土粒子微量  
2 にふい褐色 粘土粒子中量、ロームブロック微量  
3 暗 褐 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
4 暗 褐 褐 色 ロームブロック中量、粘土粒子少量  
5 にふい褐色 ロームブロック中量、粘土粒子微量
- 第 96 号土坑土層解説**  
1 褐 褐 色 ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 第 97 号土坑土層解説**  
1 褐 褐 色 ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 第 99 号土坑土層解説**  
1 明 褐 褐 色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量  
2 褐 褐 褶 色 ローム粒子中量、白色粒子微量  
3 褐 褶 褶 色 ロームブロック少量、白色粒子微量  
4 明 褐 褶 色 ローム粒子多量
- 第 100 号土坑土層解説**  
1 暗 褐 褶 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量  
2 褐 褶 褶 色 ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量  
3 暗 褶 褶 色 ロームブロック中量、燒土粒子微量  
4 明 褶 褶 色 ローム粒子微量  
5 暗 褶 褶 色 ロームブロック少量
- 第 103 号土坑土層解説**  
1 にふい褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量  
2 褐 褶 褶 色 ローム粒子多量
- 第 104 号土坑土層解説**  
1 暗 褶 褶 色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量  
2 明 褶 褶 色 ローム粒子多量
- 第 107 号土坑土層解説**  
1 暗 褶 褶 色 ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量  
2 褐 褶 褶 色 ローム粒子多量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 第 112 号土坑土層解説**  
1 黑 褶 褶 色 炭化粒子中量、ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量  
2 暗 褶 褶 色 ローム粒子多量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 第 113 号土坑土層解説**  
1 暗 褶 褶 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量  
2 明 褶 褶 色 ローム粒子多量
- 第 119 号土坑土層解説**  
1 暗 褶 褶 色 ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量  
2 褐 褶 褶 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 第 124 号土坑土層解説**  
1 暗 褶 褶 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量  
2 明 褶 褶 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 第 125 号土坑土層解説**  
1 暗 褶 褶 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量  
2 明 褶 褶 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 第 126 号土坑土層解説**  
1 暗 褶 褶 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
2 褐 褶 褶 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 第 129 号土坑土層解説**  
1 暗 褶 褶 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量  
2 褐 褶 褶 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量  
3 暗 褶 褶 色 ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量  
4 明 褶 褶 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 第 129 号土坑土層解説**  
1 黑 褶 褶 色 ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量  
2 明 褶 褶 色 ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 第 131 号土坑土層解説**  
1 暗 褶 褶 色 ロームブロック少量  
2 褐 褶 褶 色 ロームブロック中量  
3 暗 褶 褶 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 第 134 号土坑土層解説**  
1 暗 褶 褶 色 ローム粒子少量  
2 暗 褶 褶 色 ロームブロック少量
- 第 147 号土坑土層解説**  
1 にふい褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量  
2 褐 褶 褶 色 ローム粒子多量
- 第 150 号土坑土層解説**  
1 暗 褶 褶 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
2 褐 褶 褶 色 ローム粒子中量
- 第 161 号土坑土層解説**  
1 暗 褶 褶 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 第 164 号土坑土層解説**  
1 暗 褶 褶 色 ローム粒子多量、炭化粒子微量  
2 にふい褐色 ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 第 167 号土坑土層解説**  
1 暗 褶 褶 色 ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量
- 第 169 号土坑土層解説**  
1 暗 褶 褶 色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量  
2 褐 褶 褶 色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量  
3 暗 褶 褶 色 ローム粒子少量、燒土ブロック・炭化粒子微量  
4 明 褶 褶 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量



第44図 その他の土坑出土遺物実測図(1)



第45図 その他の土坑出土遺物実測図(2)

第7号土坑出土遺物観察表(第44図)

番号	種別	器種	胎 土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP65	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	単節縄文RLを施文	覆土中	前期前半

第8号土坑出土遺物観察表(第44図)

番号	種別	器種	胎 土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP66	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	単節縄文RLを施文	覆土中	前期前半 PL24

第17号土坑出土遺物観察表(第44図)

番号	種別	器種	胎 土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP67	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色 粒子・繊維	赤	普通	外面貝殻条痕文を施文後、口縁部に単節縄文を押印	覆土中	早期後半 PL24
TP68	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	赤	普通	単節縄文LRを施文	覆土中	前期前半 PL24

第19号土坑出土遺物観察表(第44図)

番号	種別	器種	胎 土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP69	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色 粒子・繊維	灰赤	普通	斜行沈線文	覆土中	早期 PL24

第20号土坑出土遺物観察表(第44図)

番号	種別	器種	胎 土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP70	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部キザミ・胴部内・外面貝殻条痕文	覆土中	早期後半
TP71	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外・内面部貝殻沈線文	覆土中	早期

第22号土坑出土遺物観察表(第44図)

番号	種別	器種	胎 土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP72	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母 繊維	にぶい黄橙	普通	外面貝殻条痕文を地文に沈線を格子状に施文	覆土中	早期前半 PL24

第23号土坑出土遺物観察表(第44図)

番号	種別	器種	胎 土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP73	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口野部キザミ・胴部外・内面部貝殻沈線文を施文	覆土中	早期
TP74	縄文土器	深鉢	長石・雲母・繊維	灰黄赤	普通	外・内面部貝殻沈線文を施文	覆土中	早期

第30号土坑出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	胎 土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 は か	出土位置	備考
TP75	縄文土器	深鉢 縄縦	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部キザミ、胴部外面貝殻沈線文を施文	覆土中	早期

第35号土坑出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	胎 土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 は か	出土位置	備考
TP76	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	外面縦縫の撫系文を施文	覆土中	早期前半 PL.25
TP77	縄文土器	深鉢 縄縦	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	外面貝殻沈線文を施文	覆土中	早期

第36号土坑出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	胎 土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 は か	出土位置	備考
TP78	縄文土器	深鉢	赤色粒子・縄縦	にぶい橙	普通	外・内腹貝殻条痕文を施文	覆土中	早期
TP79	縄文土器	深鉢 縄縦	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	外面細い沈線で幾何学的に区画した後、区画内に貝殻 腹縫文を施文	覆土中	早期後半 PL.25

第38号土坑出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	胎 土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 は か	出土位置	備考
TP80	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	外面縦縫の撫系文を施文	覆土中	早期前半 PL.25
TP81	縄文土器	深鉢	長石・石英・縄縦	橙	普通	外面貝殻条痕文を施文	覆土中	早期
TP82	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	外面斜條の太い凹縫文を施文	覆土中	早期後半 PL.25

第41号土坑出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	胎 土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 は か	出土位置	備考
TP83	縄文土器	深鉢	赤色粒子・縄縦	橙	普通	外・内腹貝殻条痕文を施文	覆土中	早期

第45号土坑出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 は か	出土位置	備考
3	縄文土器	深鉢	-	(2.4)	(8.2)	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	胴部下位撫系文を施文 底部木葉痕あり	覆土中	早期 5%

第48号土坑出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	胎 土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 は か	出土位置	備考
TP84	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	口唇部斜面の撫系文、胴部外面縦縫の撫系文 脇内 面且収斂丸文	覆土中	早期前半 PL.25
TP85	縄文土器	深鉢 縄縦	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	外面貝殻条痕文を施文	覆土中	早期

第51号土坑出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	胎 土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 は か	出土位置	備考
TP86	縄文土器	深鉢	長石・石英・縄縦	にぶい橙	普通	外面縦縫に珠形名格子状に貼り付け、隙縫に刺突文、隣 部又点に竹管状工具に由来	覆土中	早期後半 PL.25
TP87	縄文土器	深鉢	長石・石英・縄縦	にぶい橙	普通	外面貝殻条痕文を地文とし、沈線を格子状に施文	覆土中	早期後半 PL.25

第62号土坑出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 は か	出土位置	備考
4	縄文土器	深鉢	-	(3.2)	8.0	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	橙	普通	胴部下位ナダ調整 底部なで調整	覆土中	前期 5%

第63号土坑出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	胎 土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 は か	出土位置	備考
TP88	縄文土器	深鉢	長石・縄縦	橙	普通	外・内腹貝殻条痕文を施文	覆土中	早期

第67号土坑出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	胎 土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 は か	出土位置	備考
TP89	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	橙	普通	外面縦縫に撫系文を施文	覆土中	早期前半 PL.25

第69号土坑出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	胎 土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 は か	出土位置	備考
TP90	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・鐵錐	にぶい橙	普通	外面に貝殻条痕文を施文	覆土中	早期

第71号土坑出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	胎 土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 は か	出土位置	備考
TP91	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・鐵錐	にぶい黄褐	普通	口唇部キザミ 腹部外面貝殻条痕文を施文	覆土中	早期

第73号土坑出土遺物観察表（第44・45図）

番号	種別	器種	胎 土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 は か	出土位置	備考	
TP92	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色 粒子	にぶい橙	普通	外面貝殻条痕文を地文とし、撚糸文を斜位に施文	覆土中	早期 PL25 補修孔	
TP93	縄文土器	深鉢	長石・石英・鐵錐	にぶい橙	普通	外面貝殻条痕文を施文	覆土中	早期	
番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石礫	2.1	15	0.5	0.94	黒曜石	凹基無茎端 両面調整	覆土中	PL28

第81号土坑出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	胎 土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 は か	出土位置	備考
TP94	縄文土器	深鉢	長石	にぶい橙	普通	外面貝殻条痕文を施文	覆土中	早期

第83号土坑出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	胎 土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 は か	出土位置	備考
TP95	縄文土器	深鉢	長石・石英・鐵錐	にぶい橙	普通	口縁部外面キザミ 脚部外面貝殻条痕文を施文	覆土中	早期

第86号土坑出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	胎 土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 は か	出土位置	備考
TP96	縄文土器	深鉢	砂粒・鐵錐	橙	普通	外・内面貝殻条痕文を施文	覆土中	早期
TP97	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・鐵錐	橙	普通	外・内面貝殻条痕文を施文	覆土中	早期
TP98	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・にぶい黄	普通	普通	外面貝殻復縫文を施文	覆土中	前期 PL25

第92号土坑出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	胎 土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 は か	出土位置	備考
TP99	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・明赤褐 鐵錐	普通	普通	外面貝殻条痕文を施文	覆土中	早期

第100号土坑出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	胎 土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 は か	出土位置	備考
TP100	縄文土器	深鉢	長石・鐵錐	橙	普通	口唇部キザミ 脚部外面貝殻条痕文を施文	覆土中	早期

第103号土坑出土遺物観察表（第45図）

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
Q 2	石礫	(1.3)	19	0.36	(0.85)	黒曜石	凹基無茎端 両面調整 先端部欠損	覆土中	

第128号土坑出土遺物観察表（第45図）

番号	種別	器種	胎 土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 は か	出土位置	備考
TP101	縄文土器	深鉢	長石・石英・鐵錐 にぶい黄褐	普通	普通	外面斜位の沈線を施文後、擬似の沈線を施文	覆土中	早期後半 PL25

第134号土坑出土遺物観察表（第45図）

番号	種別	器種	胎 土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 は か	出土位置	備考
TP102	縄文土器	深鉢	長石・石英・鐵錐 明赤褐	普通	普通	外・内面貝殻条痕文を施文	覆土中	早期

第141号土坑出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	胎 土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 は か	出土位置	備考
TP103	縄文土器	深鉢	赤色粒子・織維	にほい橙	普通	外面単節縄文を羽状構成	覆土中	前期 PL25

第147号土坑出土遺物観察表（第45図）

番号	種別	器種	胎 土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 は か	出土位置	備考
TP104	縄文土器	深鉢	赤色粒子・織維	橙	普通	外面単節縄文 RL を施文	覆土中	前期

第161号土坑出土遺物観察表（第45図）

番号	種別	器種	胎 土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 は か	出土位置	備考
TP105	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	外面半截竹管による集合沈縄文	覆土中	前期後半 PL25
TP106	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	外面半截竹管による集合沈縄文	覆土中	前期後半 PL25

表5 縄文時代土坑一覧表

番号	位置	長軸(往)方向	平面形	規模(m) 長径×短径	深さ(cm)	覆面	底面	覆土	主な出土物	備考 重複関係(古→新)
6	C 2 g3	N - 18° - W	楕円形	1.94 × 1.33	113	外傾	皿状	自然	縄文土器	
7	C 2 b7	N - 40° - W	楕円形	0.82 × 0.70	76	外傾	皿状	自然	縄文土器	
8	B 2 g8	N - 62° - W	楕円形	1.25 × 1.03	68	外傾	皿状	自然	縄文土器	
9	B 3 i2	N - 56° - W	楕円形	1.18 × 1.05	20	外傾	皿状	人為	縄文土器	
16	B 3 d2	N - 52° - E	楕円形	0.92 × 0.73	20	緩斜	平底	自然	縄文土器	
17	B 3 g5	N - 14° - W	楕円形	1.20 × 0.90	73	外傾	皿状	自然	縄文土器	
19	B 3 d9	N - 0°	不定形	2.57 × 2.55	35	外傾	平底	自然	縄文土器	SI 35 → 本路
20	B 4 d3	N - 33° - W	不定形	2.20 × 1.88	25	外傾	平底	自然	縄文土器	
22	B 4 g1	N - 22° - W	不定形	1.00 × 0.82	18	緩斜	皿状	自然	縄文土器	
23	B 3 g0	N - 69° - W	楕円形	0.73 × 0.50	40	外傾	平底	自然	縄文土器	
28	B 4 i1	N - 7° - W	楕円形	0.80 × 0.70	20	外傾	皿状	人為	縄文土器	後期前半
30	B 4 g1	N - 30° - W	楕円形	0.80 × 0.65	70	外傾	平底	自然	縄文土器	
31	B 3 i0	N - 27° - E	楕円形	0.65 × 0.56	6	緩斜	平底	自然	縄文土器	
32	B 3 h0	N - 71° - E	隅丸方形	1.30 × 1.30	60	外傾	平底	自然	縄文土器	
35	C 3 a9	N - 24° - W	楕円形	2.47 × 1.15	42	緩斜	平底	自然	縄文土器	
36	B 3 g0	N - 80° - E	隅丸方形	1.70 × 1.54	85	外傾	平底	人為	縄文土器	
38	B 4 i3	-	不整円形	2.00 × 2.00	85	緩斜	皿状	人為	縄文土器	
41	C 3 a7	N - 80° - W	楕円形	1.08 × 0.73	55	緩斜	皿状	自然	縄文土器	
42	B 4 e1	N - 85° - E	楕円形	0.75 × 0.50	35	外傾	皿状	自然	縄文土器	
43	B 3 j9	N - 72° - E	楕円形	1.00 × 0.80	34	緩斜	皿状	自然	縄文土器	
44	B 4 f1	N - 20° - E	楕円形	0.73 × 0.50	26	緩斜	皿状	自然	縄文土器	
45	B 3 i0	N - 24° - E	隅丸方形	1.60 × 1.50	70	外傾	平底	人為	縄文土器	
46	B 4 f1	-	円形	0.62 × 0.60	21	外傾	平底	人為	縄文土器	
48	C 3 e4	-	円形	0.48 × 0.48	26	緩斜	皿状	自然	縄文土器	
49	C 3 d5	N - 39° - E	楕円形	1.10 × 0.94	43	緩斜	平底	自然	縄文土器	
51	B 4 j1	N - 48° - W	不整椭円形	1.83 × 1.43	40	外傾	平底	自然	縄文土器	
54	C 2 c7	N - 60° - E	楕円形	0.80 × 0.63	10	緩斜	平底	自然	縄文土器	
62	C 2 a6	N - 32° - W	楕円形	0.76 × 0.68	13	外傾	平底	自然	縄文土器	
63	C 2 j6	-	円形	0.60 × 0.58	12	緩斜	皿状	自然	縄文土器	
64	C 2 j6	N - 55° - E	楕円形	0.92 × 0.48	38	外傾	皿状	人為	縄文土器	
67	B 3 h7	N - 2° - W	楕円形	1.34 × 1.20	45	緩斜	皿状	人為	縄文土器	
68	C 3 e3	N - 0°	楕円形	1.70 × 1.05	38	外傾	皿状	自然	縄文土器	
69	B 3 a8	N - 87° - W	楕円形	0.79 × 0.62	39	緩斜	皿状	自然	縄文土器	

番号	位 置	長軸(径) 方向	平面形	規 模 (m) 長径×短径	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
71	B 3 d5	N - 51° - E	楕円形	1.86 × 1.17	30	緩斜	平坦	自然	縄文土器	
73	B 4 b6	N - 1° - E	楕円形	2.23 × 1.73	18	緩斜	平坦	自然	縄文土器	
81	C 4 c3	-	【円形】	1.12 × [1.10]	9	外傾	平坦	自然	縄文土器	本跡→SK82
83	C 4 c2	N - 70° - W	楕円形	0.58 × 0.40	35	外傾	平坦	人為	縄文土器	
85	C 3 d9	N - 87° - W	楕円形	1.66 × 1.29	68	外傾	平坦	人為	縄文土器	
86	C 4 c5	-	円形	1.64 × 1.62	62	外傾	平坦	人為	縄文土器	
87	C 4 c4	-	円形	0.85 × 0.82	15	外傾	平坦	自然	縄文土器	
88	C 3 d0	N - 58° - E	楕円形	1.38 × 0.94	56	外傾	平坦	人為	縄文土器	
89	C 4 d5	N - 16° - W	楕円形	(0.68) × 0.64	23	緩斜	平坦	人為	縄文土器	
92	C 4 d6	N - 61° - W	楕円形	1.26 × 1.11	43	緩斜	平坦	人為	縄文土器	
94	B 4 j9	-	不整円形	1.50 × 1.23	70	外傾	皿状	人為	縄文土器	
95	B 4 j7	-	不整円形	1.05 × 1.03	54	緩斜	皿状	人為	縄文土器	
96	C 4 c7	-	円形	0.97 × 0.95	17	外傾	平坦	自然	縄文土器	
97	C 4 b8	N - 80° - W	楕円形	0.73 × 0.51	23	外傾	平坦	自然	縄文土器	
99	C 4 b9	N - 58° - E	楕円形	0.95 × 0.80	74	外傾	椀状	人為	縄文土器	
100	C 4 b9	N - 20° - E	【楕円形】	[1.43] × 1.19	57	外傾	平坦	人為	縄文土器	
103	B 4 j3	N - 26° - E	楕円形	2.10 × 1.67	45	外傾	平坦	人為	縄文土器	
104	C 3 d9	-	円形	0.27 × 0.27	30	外傾	椀状	自然	縄文土器	
107	C 3 d9	N - 38° - W	不整楕円形	0.97 × 0.36	5	緩斜	平坦	自然	縄文土器	
112	C 3 d9	N - 58° - W	楕円形	0.94 × 0.76	10	外傾	皿状	人為	縄文土器 刃片	早期後半
113	C 4 e1	-	円形	0.35 × 0.34	27	外傾	椀状	人為	縄文土器	
114	C 4 d2	N - 35° - E	楕円形	0.30 × 0.26	40	外傾	椀状	-	縄文土器	
118	C 3 d0	-	円形	0.29 × 0.27	12	外傾	椀状	自然	縄文土器	
124	C 2 b2	N - 65° - E	楕円形	[0.65] × 0.43	10	緩斜	平坦	自然	縄文土器	本跡→SK123
125	C 4 b3	-	円形	0.42 × 0.42	10	緩斜	平坦	自然	縄文土器	
126	C 4 a3	N - 36° - W	楕円形	0.43 × 0.36	10	緩斜	平坦	自然	縄文土器	
128	B 4 j3	N - 23° - E	不整楕円形	0.72 × 0.50	14	外傾	平坦	自然	縄文土器	
129	C 3 d9	N - 84° - W	楕円形	1.02 × 0.44	8	外傾	皿状	自然	縄文土器	
131	B 4 j4	-	円形	0.65 × 0.63	12	緩斜	皿状	人為	縄文土器	
134	B 4 j4	N - 74° - W	【楕円形】	0.85 × (0.27)	12	緩斜	平坦	自然	縄文土器	
141	C 4 d4	N - 34° - W	楕円形	0.44 × 0.37	24	外傾	椀状	-	縄文土器	
147	C 4 d5	N - 69° - E	楕円形	0.85 × 0.73	19	緩斜	椀状	自然	縄文土器	本跡→SK148
150	C 4 c5	N - 85° - W	楕円形	0.45 × 0.37	22	外傾	平坦	人為	縄文土器	
155	C 4 c5	N - 14° - E	楕円形	0.78 × 0.44	12	緩斜	平坦	-	縄文土器	
161	C 4 c6	N - 80° - E	楕円形	(1.00) × 0.75	24	緩斜	平坦	人為	縄文土器	本跡→SK160
164	B 3 f1	N - 26° - W	楕円形	[1.46] × 0.81	15	緩斜	平坦	自然	縄文土器	SI 15 → 本跡
167	C 2 a7	-	【楕円形】	(0.92) × 0.31	20	外傾	皿状	自然	縄文土器	本跡→SK165
168	C 2 b6	N - 41° - W	不整楕円形	1.79 × 0.90	56	外傾	平坦	自然	縄文土器	

## 2 弥生時代の遺構と遺物

当時代の遺構は竪穴住居跡 24 軒が確認されている。以下、検出した遺構と遺物について記述する。

### 竪穴住居跡

#### 第 1 号住居跡 (第 46 図)

位置 調査区西部の B 214 区、標高 16.9 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第 34 号土坑に掘り込まれている。

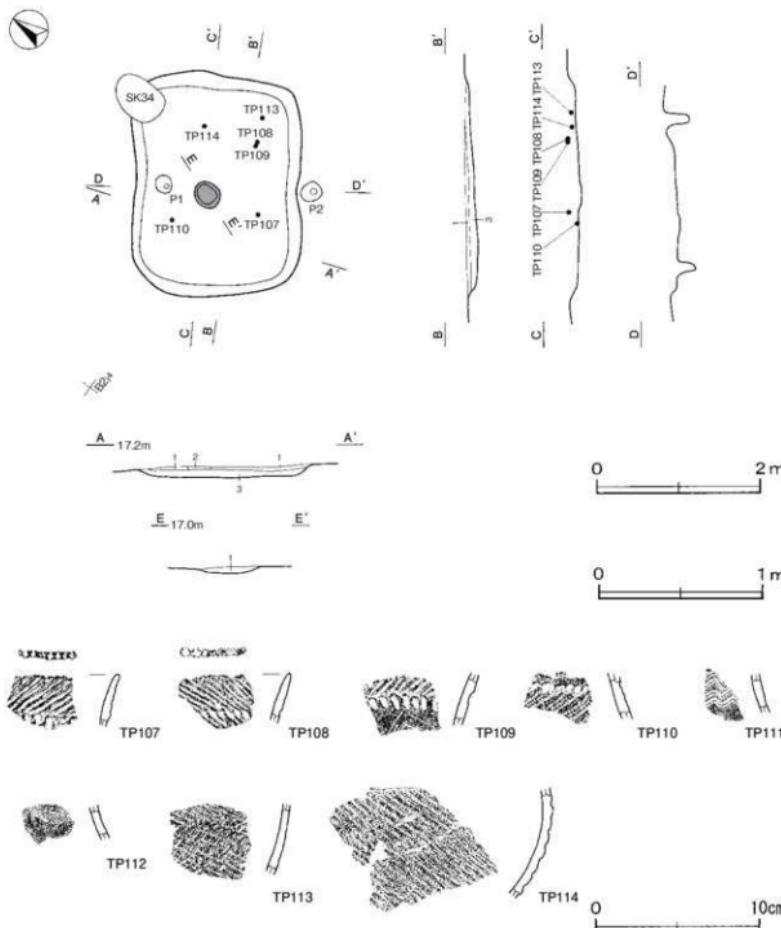
**規模と形状** 長軸 2.76 m、短軸 2.06 m の隅丸長方形で、長軸方向は N - 54° - E である。壁高は 10cm ほどで、傾斜して立ち上っている。

**床** ほぼ平坦で、硬化面は認められない。

**炉** ほぼ中央部に付設されている地床炉である。径 32cm ほどの円形で、床面を若干掘り込み、炉床は火を受けて赤変硬化している。

#### 炉土層解説

1 赤 橙 色 ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子微量



第46図 第1号住居跡・出土遺物実測図

**ピット** 2か所。P 1・2は深さ22cm・30cmで、配置から主柱穴と考えられる。

**覆土** 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

**土層解説**

- 1 黒 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量  
2 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 弥生土器片16点(壺類)が出土している。TP114は北部の覆土中層、TP108・109・113は東部の覆土中層、TP112は東部の覆土中、TP107は南部の覆土中層、TP110は西部の床面、TP111は西部の覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から後期後半である。

第1号住居跡出土遺物観察表(第46図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP107	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口唇部縦文原体押印、口縁部附加条一種(附加2条)の織文を施文、下端織文原体押印	中層	後期後半 PL26
TP108	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇部縦文原体押印、口縁部附加条一種(附加2条)の織文を施文、中位に縫文原体押印	中層	後期後半
TP109	弥生土器	壺	長石・石英	灰褐色	普通	胴部上段附加条一種(附加2条)の織文を施文、下位7本以上の単位を有する櫛歯状工具を用いた山形文を施文、中位棒状工具を用いた縫文を施文	中層	後期後半 PL26
TP110	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい黃褐色	普通	胴部上位4本以上の単位を有する櫛歯状工具を用いた山形文(上段)と波状文(下段)を施文	床面	後期後半
TP111	弥生土器	壺	長石・雲母	にぶい褐色	普通	胴部6本単位の櫛歯状工具を用いた連弧文を施文、下位3本以上の単位の櫛歯状工具を用いた文様を施文、中位縫文原体押印	覆土中	後期後半 PL26
TP112	弥生土器	壺	長石・雲母	にぶい褐色	普通	胴部5本単位の櫛歯状工具を用いた連弧文を施文、下位3本以上の単位の櫛歯状工具を用いた文様を施文	覆土中	後期後半
TP113	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	胴部附加条一種(附加2条)の織文を羽状に施文	中層	後期後半
TP114	弥生土器	壺	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	胴部附加条一種(附加2条)の織文を施文後、横位の沈線を施文	中層	後期後半

第2号住居跡(第47図)

**位置** 調査区西部中央寄りのC 2a4区、標高16.9mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸528m、短軸370mの隅丸長方形で、長軸方向はN-31°-Eである。壁高は12~20cmで、緩斜して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で、硬化面は認められない。壁際と中央部で焼土が確認できた。

**炉** 中央部やや北寄りに付設されている地床炉である。長径44cm、短径38cmの不整梢円形で、床面を若干掘り込み、炉床は火を受けて赤変硬化している。

**炉土層解説**

- 1 赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子微量

**ピット** 2か所。P 1は深さ38cm、P 2は深さ61cmで、配置から主柱穴と考えられる。

**覆土** 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

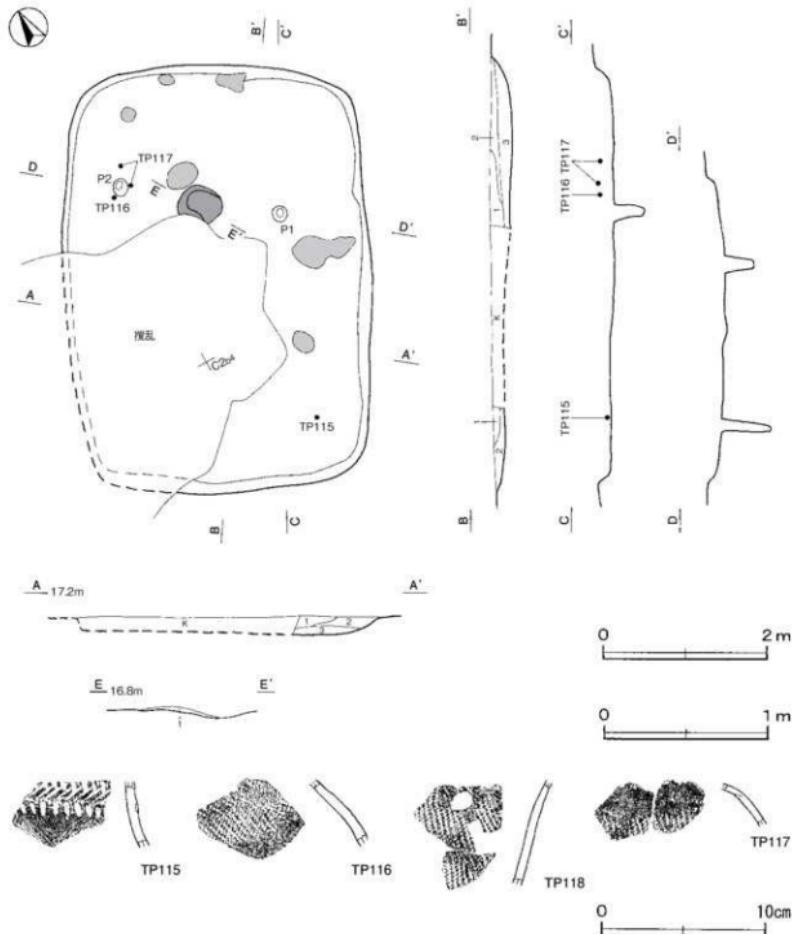
**土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子微量  
2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

3 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 弥生土器片18点(壺類)が出土している。TP115は南東部の覆土下層、TP116・TP117は北西部の覆土中層、TP118は北西部の覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から後期後半である。また、床面から焼土が確認されていることから焼失住居の可能性がある。



第47図 第2号住居跡・出土遺物実測図

第2号住居跡出土遺物観察表（第47図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴は	出土位置	備考
TP115	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい橙	普通	腹部上位附加彫一縦（附加2条）の縄文を施文。下位8本以上の櫛状工具を用いた山形文を施文後、棒状工具を用いた刺突文を2段に施文。	下層	後期後半 PL26
TP116	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	胴部上位單節縄文RLを施文。下位無文帶	中層	後期後半
TP117	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	胴部下位單節縄文RLを施文後、上位無文帶	中層	後期後半
TP118	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	橙	普通	胴部單節縄文RLを施文	覆土中	後期後半

#### 第4号住居跡（第48・49図）

**位置** 調査区西部のC 2a2区、標高16.8mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸3.00m、短軸2.44mの隅丸長方形で、長軸方向はN-25°-Eである。壁高は8~20cmで、傾斜して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で、硬化面は認められない。中央部から西部にかけて焼土が確認できた。

**炉** 2か所。炉1は中央部北西寄りに付設されている地床炉で、径40cmほどの円形である。炉2は中央部南寄りに付設されている地床炉で、長径36cm、短径30cmの楕円形である。どちらも床面を若干掘り込み、炉床は火を受け赤変硬化している。

##### 炉1 土層解説

1 塗赤褐色 燃土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量

##### 炉2 土層解説

1 塗褐色 ローム粒子中量、燃土粒子少量

**ピット** 3か所。P1~P3は深さ9~48cmで、配置から主柱穴と考えられる。

**覆土** 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

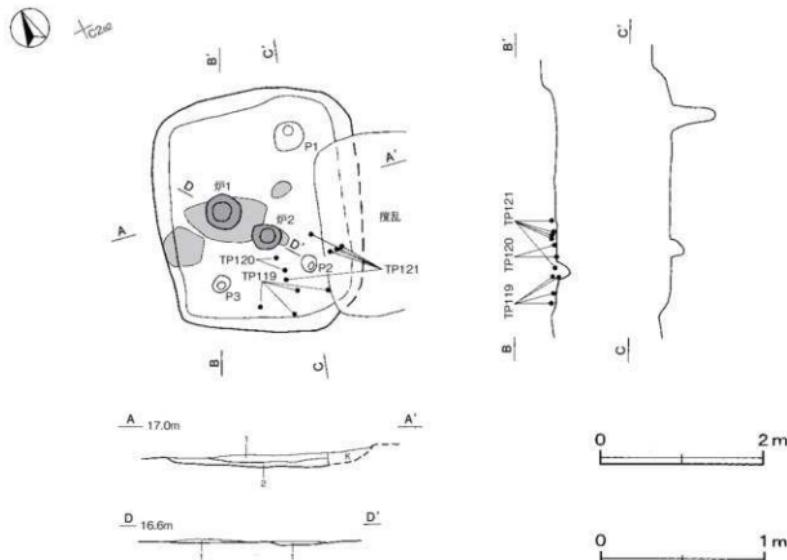
##### 土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

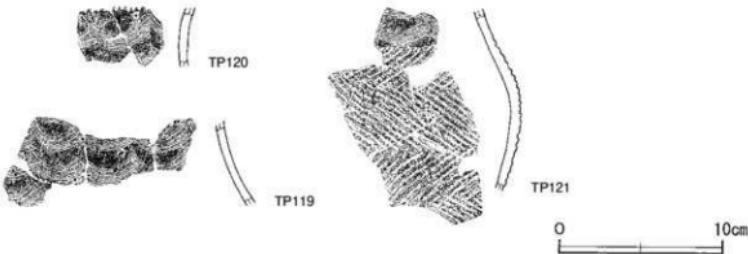
2 塗褐色 ローム粒子少量、燃土粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 弥生土器片14点（壺類）、剥片4点が出土している。TP119~TP121は南東部の覆土下層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から後期後半である。また、床面から焼土が確認されることから焼失住居の可能性がある。



第48図 第4号住居跡実測図



第49図 第4号住居跡出土遺物実測図

第4号住居跡出土遺物観察表（第49図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP119	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	腹部8本の櫛歯状工具を用いた連弧文を3段に施文	下層	後期後半 PL.26
TP120	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	腹部上位に棒状工具を用いた刺突文施文 中～下位に8本の櫛歯状工具を用いた連弧文を2段に施文	下層	後期後半 PL.26
TP121	弥生土器	壺	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	腹部8本の櫛歯状工具を用いた連弧文を2段に施文 腹部附加条一種（附加2条）の網文を羽状に施文	下層	後期後半 PL.26

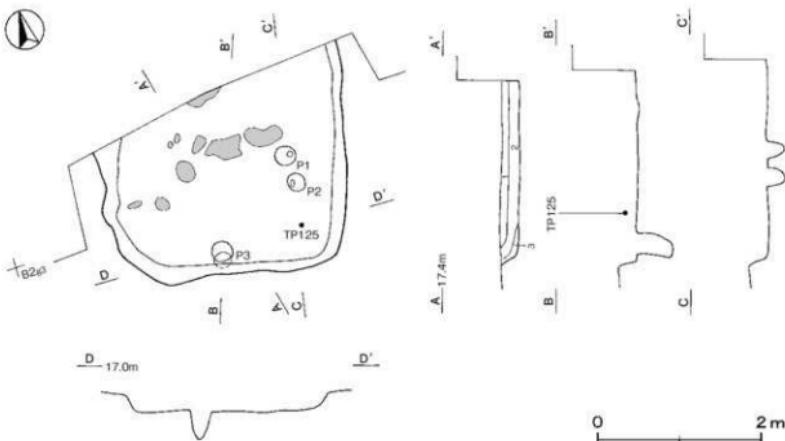
第6号住居跡（第50・51図）

位置 調査区北西部のB2B3区、標高16.7 mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 北部が調査区域外に延びているため、東西軸は3.10 m、南北軸は2.46 mしか確認できなかった。

形状は長方形と推測でき、南北軸方向はN - 20° - Eである。壁高は20cmほどで、直立している。

床 ほぼ平坦で、硬化面は認められない。中央部で焼土が散乱した状態で確認できた。



第50図 第6号住居跡実測図

**ピット** 3か所。P 3は深さ40cmで、南壁際中央部に位置することから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 1・2は深さ19cm・20cmで性格は不明である。

**覆土** 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

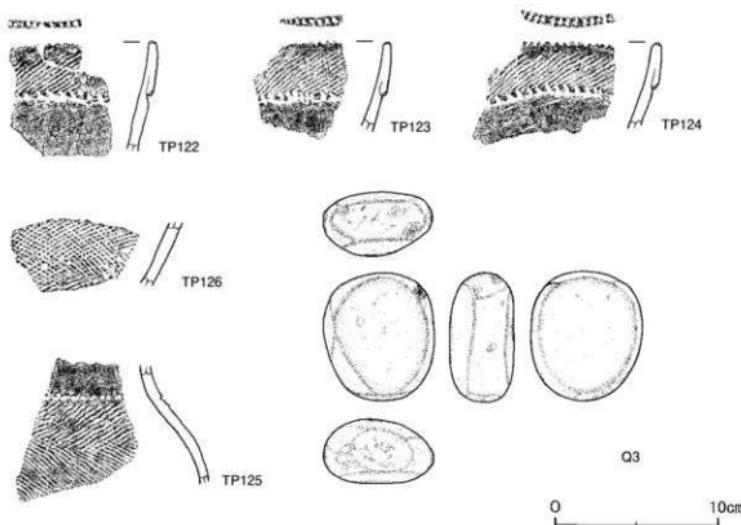
**土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量  
2 褐褐色 ローム粒子・焼土粒子少量・炭化粒子微量

- 3 暗褐色 ローム粒子少量・焼土粒子微量

**遺物出土状況** 弥生土器片33点(壺類)、石器1点(磨石)、剥片5点が出土している。TP125は南東部の下層、TP122～TP124・TP126、Q 3は覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から後期後半である。また、床面から焼土が確認されていることから、焼失住居の可能性がある。



第51図 第6号住居跡出土遺物実測図

第6号住居跡出土遺物観察表（第51図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP122	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい褐	普通	複合口縁口唇部繩文原体押圧口縁部附加条一種(附加2条)の繩文を施文後、段の下端に繩文原体押圧、頭部無文帯	覆土中	早期前半PL.26
TP123	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい褐	普通	複合口縁口唇部繩文原体押圧口縁部附加条一種(附加2条)の繩文を施文後、段の下端に繩文原体押圧、頭部無文帯	覆土中	後期後半
TP124	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい褐	普通	複合口縁口唇部繩文原体押圧口縁部附加条一種(附加2条)の繩文を施文後、段の下端に繩文原体押圧、頭部無文帯	覆土中	後期後半PL.26
TP125	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい黄褐	普通	頭部無文帯、胴部附加条一種(附加2条)の繩文を羽柔に施文	下層	後期後半PL.26
TP126	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい黄褐	普通	胴部附加条一種(附加2条)の繩文を羽柔に施文	覆土中	後期後半PL.26

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 3	磨石	7.8	6.8	3.9	3131	安山岩	全面研磨	覆土中	PL.28

### 第7号住居跡（第52・53図）

**位置** 調査区西部寄りのB 2h4 区、標高 16.8 m の台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸 354 m、短軸 252 m の隅丸長方形で、長軸方向は N - 53° - E である。壁高は 8 ~ 14 cm で、緩斜して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で、中央部に硬化面が認められる。中央部や壁際で焼土や炭化材が確認できた。

**炉** 中央部に付設されている地床炉である。長径 46 cm、短径 37 cm の楕円形で、床面を若干掘り込み、炉床は火を受けて赤変硬化している。

#### 炉土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量

**ピット** 6か所。P 1 ~ P 4 は深さ 16 ~ 71 cm で、配置から主柱穴と考えられる。P 5・6 は深さ 21 cm・36 cm で、壁外に位置しているが、上屋を支えた補助柱穴と考えられる。

**覆土** 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

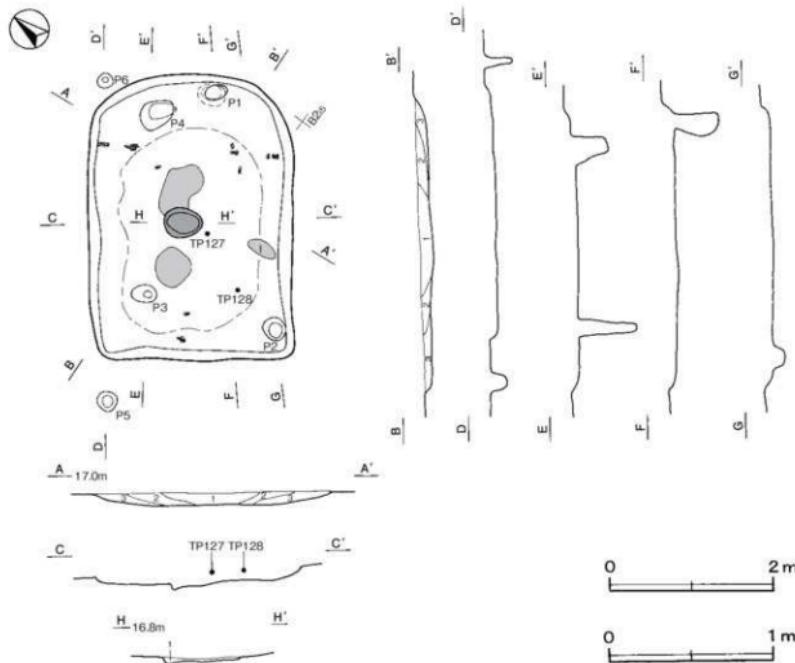
#### 土層解説

1 暗褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量

2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量

3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 弥生土器片 10 点（壺類）が出土している。TP127 は中央部の覆土中層、TP128 は南東部の覆土中層、TP129 は覆土中から出土している。



第52図 第7号住居跡実測図

**所見** 時期は、出土土器から後期後半である。また、床面から焼土や炭化材が確認されていることから、焼失住居の可能性がある。



第53図 第7号住居跡出土遺物実測図

第7号住居跡出土遺物観察表（第53図）

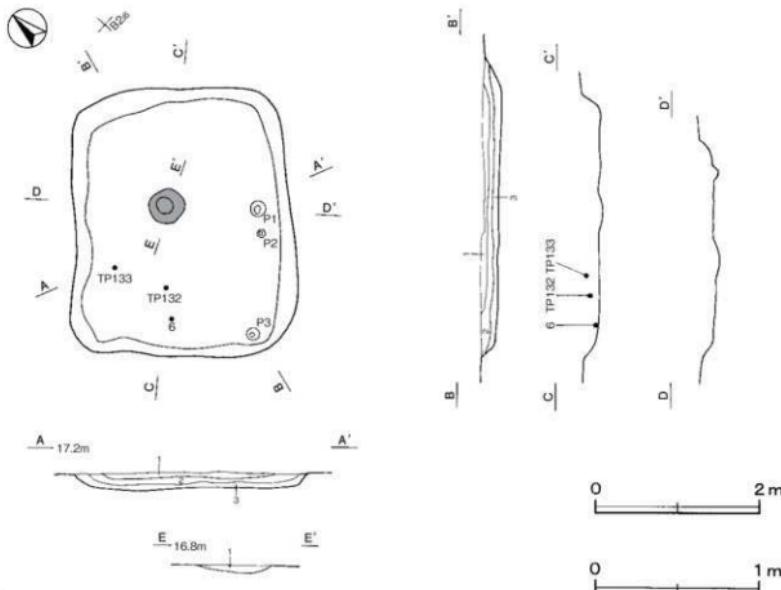
番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP127	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい褐	普通	腹部5本単位の撫衝状工具を用いた山形文を2段に施文	中層	後期後半
TP128	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい褐	普通	胴部単節圓文RLを施文	中層	後期後半
TP129	弥生土器	壺	長石・石英・赤色 粒子	にぶい褐	普通	胴部附加条一種（附加2条）の圓文を施文	覆土中	後期後半

第8号住居跡（第54・55図）

**位置** 調査区西部のB215区、標高16.9mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸3.32m、短軸2.76mの長方形で、長軸方向はN-47°-Eである。壁高は15~23cmで、外傾して立ち上っている。

**床** 平坦で、硬化面は認められない。



第54図 第8号住居跡実測図

**炉** 中央部に付設されている地床炉である。径45cmほどの円形で、床面を若干掘り込み、炉床は火を受けて赤変硬化している。

#### 炉土層解説

1 黒 無 色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

**ピット** 3か所。P1・2は深さ8cm・10cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P3は深さ32cmで性格は不明である。

**覆土** 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

#### 土層解説

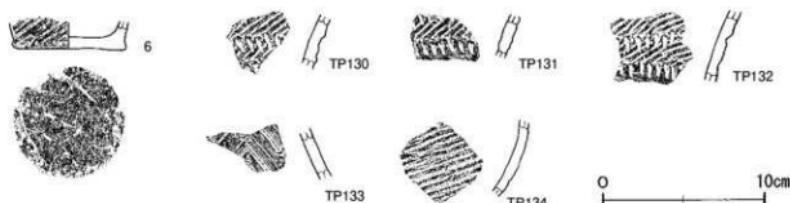
1 黒 無 色 ローム粒子・焼土粒子・灰化粒子微量

2 紫暗 紫色 ローム粒子微量

3 暗 無 色 ロームブロック微量

**遺物出土状況** 弥生土器片20点(壺類)が出土している。6は南西部の覆土下層、TP132は南西部の覆土中層、TP133は北西部の覆土中層、TP130・TP131・TP134は覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から後期後半である。



第55図 第8号住居跡出土遺物実測図

第8号住居跡出土遺物観察表(第55図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調	焼 成	文 様 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
6	弥生土器	壺	-	(18)	7.0	長石・石英・雲母	にぶい 赤褐色	普通	胴部附加条一種(附加2条)の縄文を施文	下層	後期後半 10%
TP130	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい	普通	胴部附加条一種(附加2条)の縄文を施文後、棒状工具を用いた刺突文を2段に施文	覆土中	後期後半			
TP133	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい	普通	胴部附加条一種(附加2条)の縄文を施文後、棒状工具を用いた刺突文を2段に施文	覆土中	後期後半			
TP132	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい	普通	胴部附加条一種(附加2条)の縄文を施文後、棒状工具を用いた刺突文を2段に施文	中層	後期後半 PL26			
TP134	弥生土器	壺	長石・石英・赤色 粒子	暗褐	普通	胴部附加条一種(附加2条)の縄文を施文	覆土中	後期後半			

#### 第9号住居跡(第56・57図)

**位置** 調査区西部のB217区、標高170mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第22号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸4.60m、短軸4.20mの方形で、長軸方向はN-36°-Eである。壁高は24~30cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** 中央部に向かって若干傾斜している。硬化面は認められない。中央部から壁際にかけて焼土と炭化材が確認できた。

**炉** 2か所。炉1は西部中央寄りに付設されている地床炉で、長径72cm、短径42cmの楕円形である。炉2は中央部南寄りに付設されている地床炉で、径34cmほどの円形である。どちらも床面を若干掘り込み、炉床は火を受けて赤変硬化している。

**炉1 土層解説**

1 暗赤褐色 燃土ブロック・炭化粒子少量

2 赤褐色 燃土ブロック中量、炭化粒子微量

**炉2 土層解説**

1 深暗赤褐色 燃土ブロック少量、炭化粒子微量

2 明赤褐色 燃土ブロック中量、炭化粒子微量

**ピット** 3か所。P1・3は深さ52cm・34cmで、主柱穴と考えられる。P2は深さ17cmで性格は不明である。

**覆土** 7層に分層できる。炭化材や焼土が混入した不自然な堆積状況から埋め戻されている。

**土層解説**

1 黒褐色 ローム粒子・燃土粒子・炭化粒子微量

5 赤褐色 燃土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量

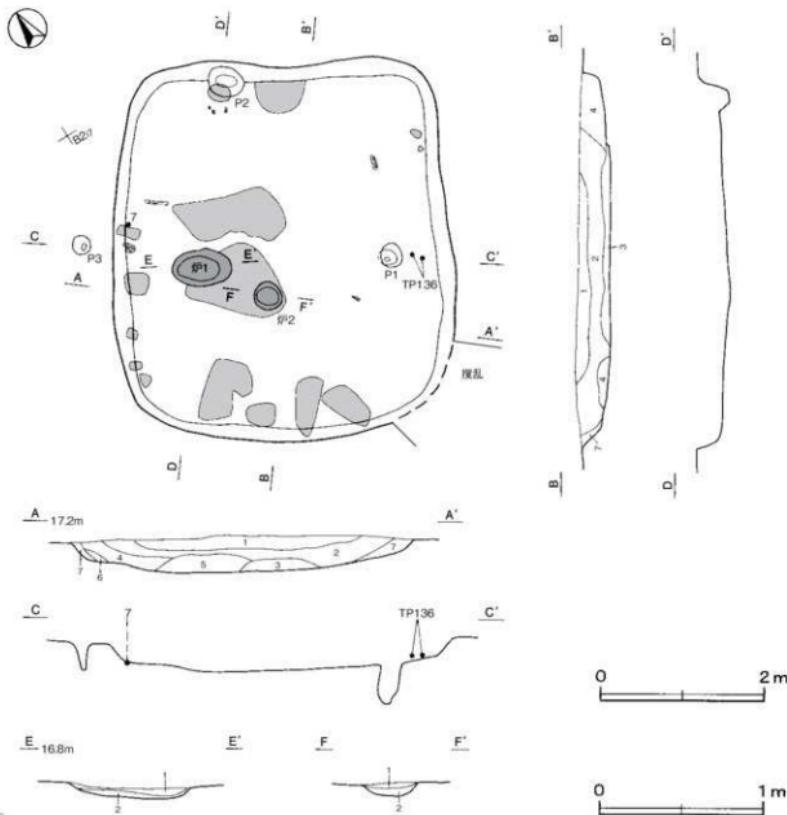
2 黒褐色 ローム粒子微量

6 明赤褐色 燃土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量

3 暗褐色 ローム粒子少量、燃土粒子・炭化粒子微量

7 棕褐色 ローム粒子中量、燃土粒子・炭化粒子微量

4 棕褐色 ロームブロック・燃土粒子少量、炭化粒子微量



第56図 第9号住居跡実測図

**遺物出土状況** 弥生土器片 19 点(壺類)が出土している。TP136 は東部の覆土下層、TP135 は南東部の覆土中、7 は北西部の覆土下層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から後期後半である。また、床面から焼土や炭化材が確認されていることから焼失住居の可能性がある。



第 57 図 第 9 号住居跡出土遺物実測図

第 9 号住居跡出土遺物観察表 (第 57 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
7	弥生土器	壺	-	(3.2)	(6.8)	長石・石英	褐	普通	胴部附加条一種(附加 2 条)の縦文を羽状に施文	下層	後期後半 5%

番号	種別	器種	胎 土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
TP135	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にひ黄褐色	普通	頭部 4 本單位の櫛歯状工具を用いた波状文と山形文を施文後、棒状工具を用いた斜交文を施文	覆土中	後期後半
TP136	弥生土器	壺	長石・石英	明赤褐	普通	胴部附加条一種(附加 2 条)の縦文を羽状に施文	下層	後期後半 PL26

第 10 号住居跡 (第 58 図)

**位置** 調査区西部の B 2 j9 区、標高 17.1 m の台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第 5 号炉穴、第 2 号炉跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸 3.35 m、短軸 2.60 m の隅丸長方形で、長軸方向は N - 45° - E である。壁高は 20 ~ 25cm で、外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦であり、硬化面は認められない。中央部と壁際で焼土と炭化材が確認できた。

**炉** 中央部の北西寄りに付設されている地床炉である。長径 53cm、短径 40cm の楕円形で、床面を若干掘り込み、炉床は火を受けて赤変硬化している。

#### 炉土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量

**ピット** 5 か所。P 3・4 は深さ 10cm・22cm で、配置から主柱穴と考えられる。P 1 は深さ 18cm で、南東壁の壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 5 は深さ 20cm で、壁外に位置しているが、上屋を支えた補助柱穴と考えられる。P 2 は深さ 46cm で性格は不明である。

**覆土** 2 層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

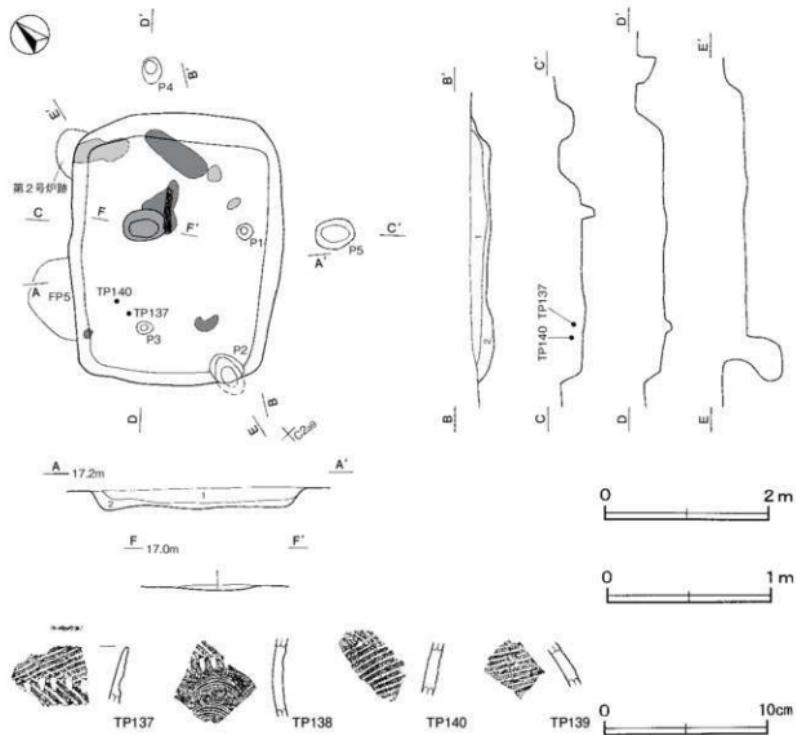
#### 土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 弥生土器片 9 点(壺類)が出土している。TP137・TP140 は西部の覆土中層、TP138・TP139 は覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から後期後半と考えられる。また、床面から焼土や炭化材が確認されていることから焼失住居の可能性がある。



第58図 第10号住居跡・出土遺物実測図

第10号住居跡出土遺物観察表（第58図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP137	弥生土器	甕	長石・石英・雲母	黒褐	普通	腹部附加条一種（附加2条）の縄文を羽状に施文後、棒状工具を用いて割突支を施文。	中層	後期後半 PL26
TP138	弥生土器	甕	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	腹部上位附加条二種（附加2条）の縄文を施文後、棒状工具を用いて割突支を施文。6本単位の御歯状工具を用いた波状文を施文。	覆土中	後期後半 PL26
TP139	弥生土器	甕	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	腹部附加条一種（附加2条）の縄文を施文	覆土中	後期後半
TP140	弥生土器	甕	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	腹部附加条一種（附加2条）の縄文を羽状に施文	中層	後期後半

第11号住居跡（第59図）

位置 調査区西部のB 2h8区、標高16.8mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第37号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸280m、短軸240mの楕円長方形で、長軸方向はN-50°-Eである。壁高は8~10cmで、緩斜して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦であり、中央部に硬化面が認められる。北部から西部にかけて焼土と炭化材が確認できた。

**炉** 北西部に付設されている地床炉である。径42cmほどの円形で、床面を若干掘り込み、炉床は火を受けて赤変硬化している。

**ピット** 3か所。P3は深さ11cmで、北東部の壁際に位置することから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P1・2は深さ42cm・30cmで、性格は不明である。

**貯蔵穴** 北東コーナー部に付設されている。長径58cm、短径52cmの楕円形で、深さ20cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

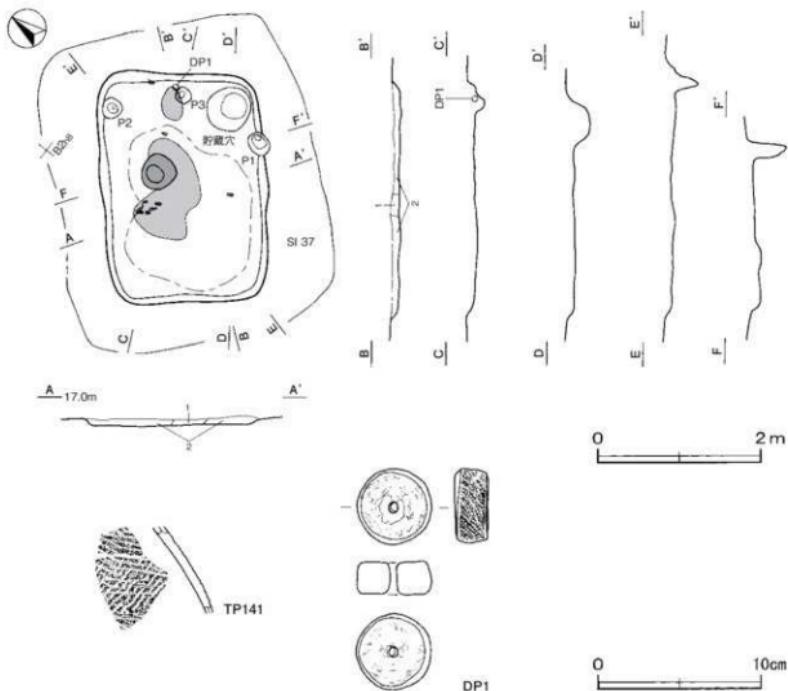
**覆土** 2層に分層できる。焼土のブロックや粒子を含んでいることから埋め戻されている。

#### 土層解説

1 楠暗褐色 焼土粒子・炭化物少量、ローム粒子微量、締まり強 2 暗赤褐色 焼土ブロック少量、締まり強

**遺物出土状況** 弥生土器片8点（壺類）、土製品1点（紡錘車）が出土している。DP1は北部P3付近の覆土下層、TP141は貯蔵穴内の覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から後期後半と考えられる。また、床面から焼土と炭化材が確認されることから焼失住居の可能性がある。



第59図 第11号住居跡・出土遺物実測図

第 11 号住居跡出土遺物観察表（第 59 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
TP141	弥生土器	甕	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	胴部附加条一種（附加 2 条）の縄文を羽状に施文	貯藏穴内 壁土中	後期後半
DPI	筋鉢草	4.6	21	0.6	55.1	粘土	片面穿孔、側面附加条一種（附加 2 条）の縄文を施文	下層 PL28

第 12 号住居跡（第 60・61 図）

位置 調査区北西部の B 20 区、標高 169 m の台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 332 m、短軸 292 m の隅丸長方形で、長軸方向は N - 31° - E である。壁高は 22 ~ 28 cm で、外傾して立ち上っている。

床 ほぼ平坦で、硬化面は認められない。中央部と壁際で焼土が確認できた。

炉 2 か所。炉 1 は西部南寄りに付設されている地床炉で、長径 56 cm、短径 45 cm の楕円形である。炉 2 は西部北寄りに付設されている地床炉で、長径 40 cm、短径 30 cm の楕円形である。どちらも床面を若干掘り込み、炉床は火を受けて赤変硬化している。

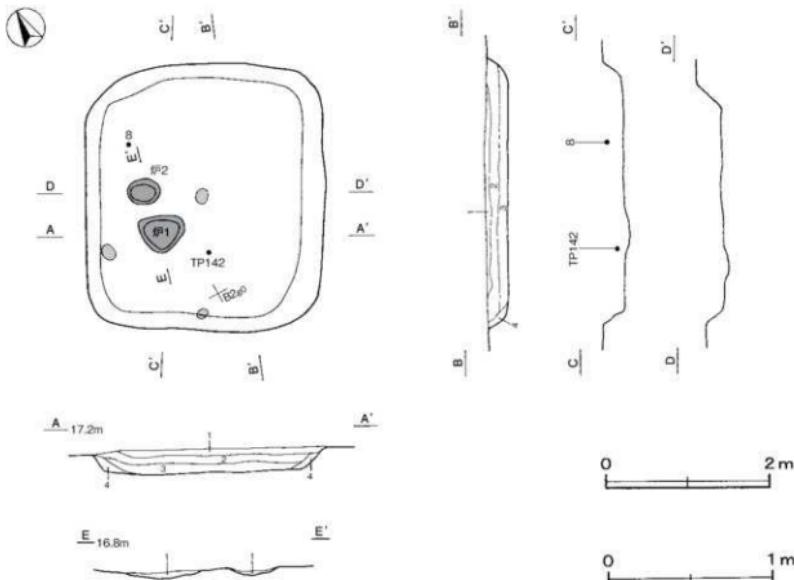
#### 炉 1 土層解説

1 細赤褐色 焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量

#### 炉 2 土層解説

1 細褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

覆土 4 層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。



第 60 図 第 12 号住居跡実測図

**土層解説**

- |                            |                 |
|----------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量    | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 無暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック中量  |

**遺物出土状況** 弥生土器片 3 点(壺類)が出土している。TP142は中央部南寄りの覆土中層、8は北壁コーナー部の覆土上層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から後期後半と考えられる。また、床面から焼土が確認されていることから焼失住居の可能性がある。



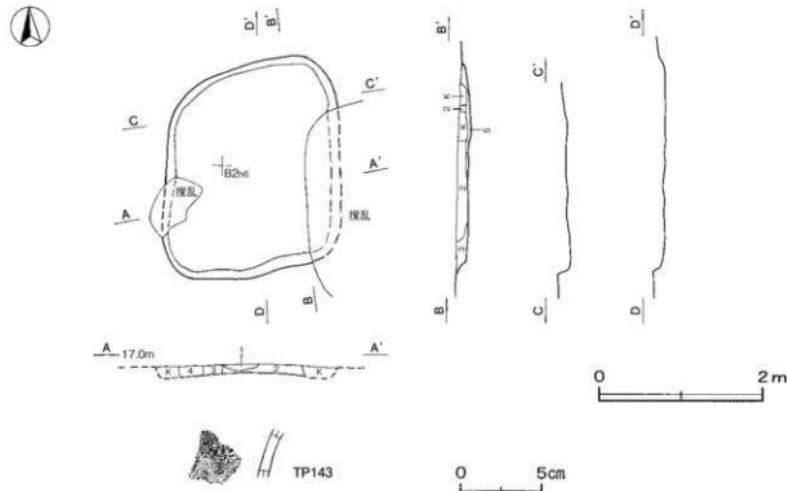
第 61 図 第 12 号住居跡出土遺物実測図

第 12 号住居跡出土遺物観察表 (第 61 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
8	弥生土器	壺	-	(8.5)	-	長石・雲母	にぶい褐色	普通	胴部下端ナデ	上層	後期後半 5%
TP142	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい褐色	普通	胴部附加条一種(附加 2 条)の縦文を施文				中層	後期後半

第 13 号住居跡 (第 62 図)

**位置** 調査区西部の B 2h6 区、標高 16.9 m の台地平坦部に位置している。



第 62 図 第 13 号住居跡・出土遺物実測図

**規模と形状** 長軸 2.66 m、短軸 2.12 m のやや歪んだ隅丸長方形で、長軸方向は N - 2° - W である。壁高は 7 ~ 15 cm で、緩斜して立ち上がっている。

**床** 平坦で、硬化面は認められない。

**覆土** 5 層に分層できる。ブロック状の含有物が堆積していることから埋め戻されている。

#### 土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量	4 暗褐色 ローム粒子中量
2 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量	5 明褐色 ロームブロック中量
3 褐褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	

**遺物出土状況** 弥生土器片 20 点（壺類）が出土している。TP143 は覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から後期後半と考えられる。

第 13 号住居跡出土遺物観察表（第 62 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP143	弥生土器	壺	長石・雲母	灰褐色	普通	額部 9 本単位の橢円状工具を用いた波状文を施文	覆土中	後期後半

#### 第 14 号住居跡（第 63・64 図）

**位置** 調査区北西部の B 2 8 区、標高 17.3 m の台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 北部が調査区域外に延びているため、東西軸は 3.62 m で、南北軸は 1.28 m しか確認できなかった。形状は長方形もしくは方形と推測でき、南北軸方向は N - 6° - W である。壁高は 35 ~ 50 cm で、直立している。

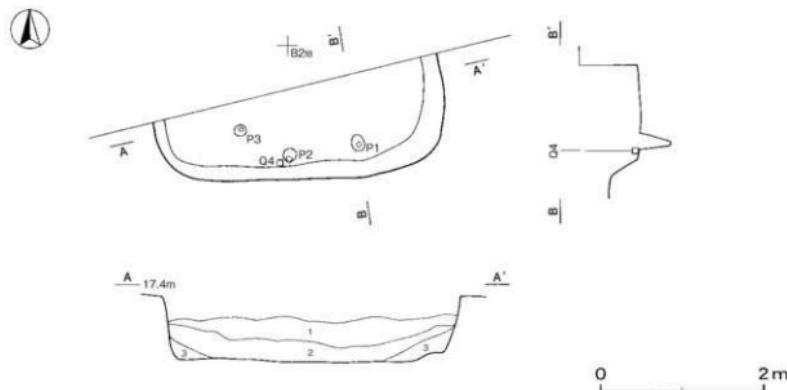
**床** ほぼ平坦であり、硬化面は認められない。

**ピット** 3 か所。P 1・3 は深さ 30 cm・28 cm で、配置から柱穴と考えられる。P 2 は深さ 40 cm で、南壁際中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**覆土** 3 層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

#### 土層解説

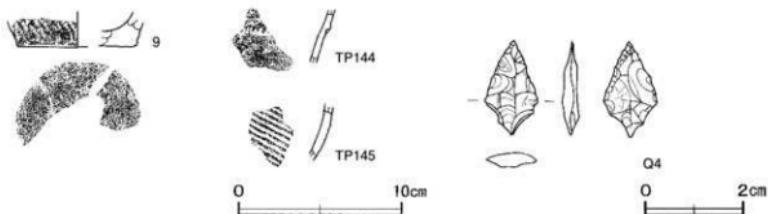
1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量	



第 63 図 第 14 号住居跡実測図

**遺物出土状況** 弥生土器片 8 点（壺類）、石器 1 点（石鎚）、剥片 1 点が出土している。Q4 は南部壁際の覆土下層、9・TP144・TP145 は覆土中からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は、出土土器から後期後半と考えられる。



第 64 図 第 14 号住居跡出土遺物実測図

第 14 号住居跡出土遺物観察表（第 64 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
9	弥生土器	壺	-	(2.1)	[7.4]	長石・石英・赤色粒子	にぶい 橙	普通	副部下端附加条一種（附加 2 条）の楕文	覆土中	後期後半 5%
TP144	弥生土器	壺	長石・石英			にぬけ網	普通	頭部棒状工具を用いた刺突文を描文			
TP145	弥生土器	壺	長石・石英			褐灰	普通	副部附加条一種（附加 2 条）の楕文を施文			
番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴			出土位置	備 考
Q4	石鎚	1.9	1.1	0.4	7.4	チャート	押圧剥離による両面調整	凸基有刃部		下層	PL28

第 16 号住居跡（第 65 図）

**位置** 調査区中央部の B312 区、標高 17.2 m の台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第 31 号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸 3.40 m、短軸 2.90 m の隅丸長方形で、長軸方向は N - 34° - W である。壁高は 6 ~ 10 cm で、緩斜して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で、硬化面は認められない。

**炉** 中央部に付設されている地床炉である。長径 44 cm、短径 34 cm の橢円形で、床面を若干掘り込み、炉床は火を受けて赤変硬化している。

#### 炉土層解説

1 にはちみ色 燐土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量

**ピット** 2か所。P1・2 は深さ 28 cm・36 cm で、配置から主柱穴と考えられる。

**覆土** 2 層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

#### 土層解説

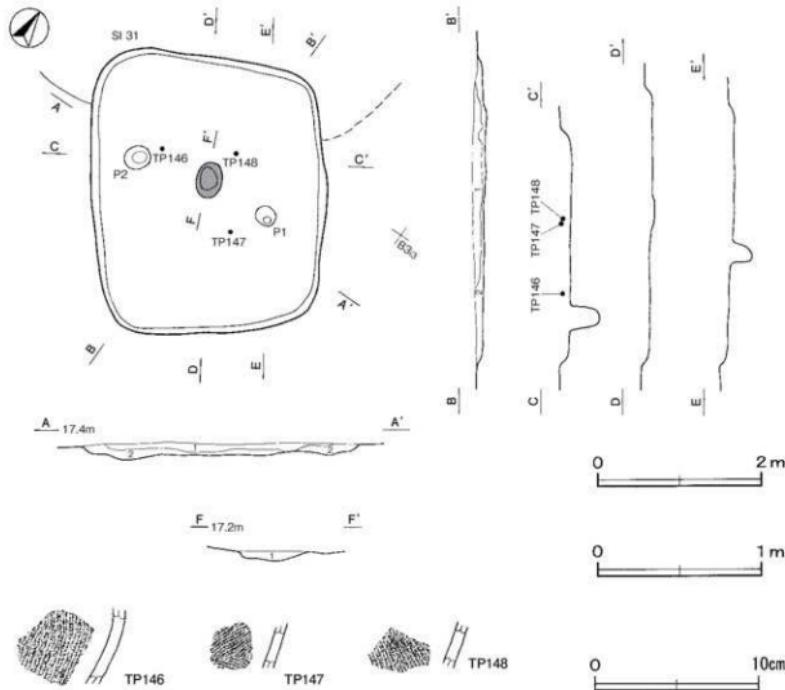
1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子、燒土粒子微量

2 黄褐色 ローム粒子少量、燒土粒子、炭化粒子微量

**遺物出土状況** 弥生土器片 7 点（壺類）が出土している。TP148 は北部の覆土中層、TP147 は東部の覆土中層、

TP146 は西部の覆土中層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から後期後半である。



第65図 第16号住居跡・出土遺物実測図

第16号住居跡出土遺物観察表（第65図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP146	弥生土器	壺	長石・石英・赤色 粒子	にぶい褐色	普通	腹部附加条一種（附加2条）の縦文を施文	中層	後期後半
TP147	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい褐色	普通	腹部附加条一種（附加2条）の縦文を施文	中層	後期後半 PL27
TP148	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい褐色	普通	腹部燃文を施文	中層	後期後半

第17号住居跡（第66・67図）

位置 調査区西部のB219区、標高17.1mの台地平坦部に位置している。

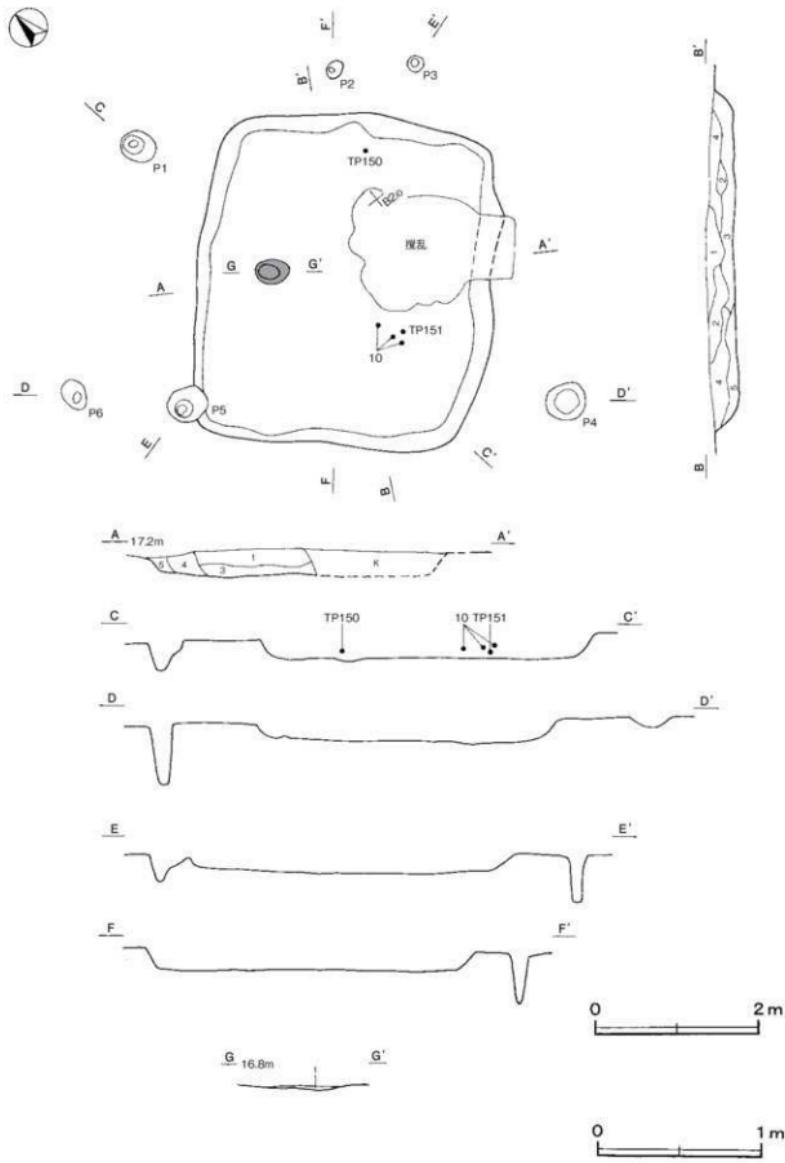
規模と形状 長軸4.08m、短軸3.66mの隅丸長方形で、長軸方向はN-45°-Eである。壁高は14~30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、硬化面は認められない。

炉 西部に付設されている地床炉である。長径42cm、短径32cmの楕円形で、床面を若干掘り込み、炉床は火を受けて赤変硬化している。

#### 炉土層解説

1 赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量



第66図 第17号住居跡実測図

**ピット** 6か所。いずれも壁外に位置しているが、P 1～P 4・6は深さ14～74cmで、上屋を支えた柱穴と考えられる。P 5は深さ30cmで性格は不明である。

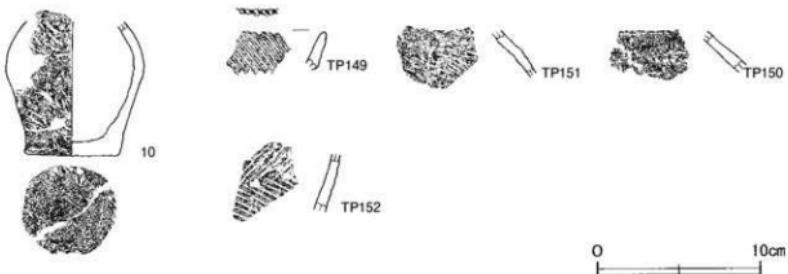
**覆土** 5層に分層できる。周間からの土の流入を示す堆積状況と均質な含有物の様相から自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |                               |                            |
|-------------------------------|----------------------------|
| 1 黒 褐 色 ローム粒子微量               | 4 にい褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 薄 褐 色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 褐 色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量  |
| 3 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量   |                            |

**遺物出土状況** 弥生土器7点（壺類）、剥片1点が出土している。TP150は東部の覆土中層、TP152は東部の覆土中、TP151は南部の覆土下層、10は南部の覆土中層、TP149は西部の覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から後期後半と考えられる。



第67図 第17号住居跡出土遺物実測図

第17号住居跡出土遺物観察表（第67図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調	焼 成	文 様 の 特 徴	ほ か	出土位置	備 考
10	弥生土器	壺	-	(8.2)	5.8	長石・石英・赤色粒子	にい褐色	普通	外面摩耗顯著 捻糸文を施す		中層	後期後半 30% Pl.22
TP149	弥生土器	壺	雲母			灰褐色	普通	口唇部縦文を施す	口唇部単節縦文R Lを施文後、下位縦文原体押圧		覆土中	後期後半 Pl.27
TP150	弥生土器	壺	長石・雲母			黒褐	普通	頸部無文帯			中層	後期後半
TP151	弥生土器	壺	長石・石英・雲母・小理			にい褐色	普通	頸部無文帯	副部撚糸文を施す		下層	後期後半
TP152	弥生土器	壺	長石・石英			にい褐色	普通	副部附加条文一種（附加2条）	の縞文を羽状に施す		覆土中	後期後半

第18号住居跡（第68図）

**位置** 調査区西部のB 3h1区、標高17.0mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸3.54m、短軸2.50mの長方形で、長軸方向はN-20°-Eである。壁高は14～22cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦である。硬化面は認められない。壁溝が南壁際に確認できた。壁際で焼土が確認できた。

**炉** 中央部の北西寄りに付設されている地床炉で、長径60cm、短径40cmの楕円形である。床面を若干掘り込み、炉床は火を受けて赤変化している。

#### 炉土層解説

- 1 塚 赤 褐 色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量

**ピット** 7か所。P 1・6は深さ53cm・17cmで、配置から主柱穴と考えられる。P 2・5は深さ55cm・17cmで、配置から補助柱穴と考えられる。P 3・4は深さ43cm・31cmで、壁外に位置するが、上屋を支えた補助柱穴と考えられる。P 7は深さ11cmで、性格は不明である。

**覆土** 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

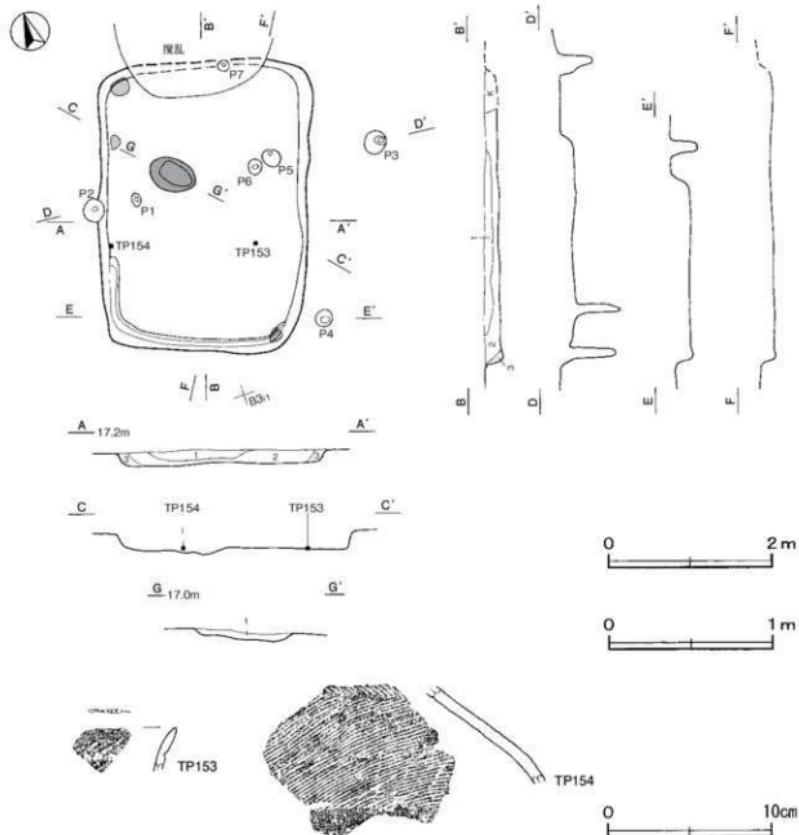
#### 土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量  
2 黒褐色 ローム粒子微量

3 棕褐色 ローム粒子中量

**遺物出土状況** 弥生土器片6点（壺類）が出土している。TP153は南東部の床面、TP154は南西部の覆土下層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から後期後半である。また、床面から焼土が確認されていることから焼失住居の可能性がある。



第68図 第18号住居跡・出土遺物実測図

第18号住居跡出土遺物観察表（第68図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TPF3	発生土器	壺	長石・石英	浅み黄褐色	普通	外面磨耗頭著 口沿部織文原体押付 口段部附加条一種（附加2条）の織文を施文後、竹管状工具を用いた割文を施文	床面	後期後半 PL27
TPF4	発生土器	壺	長石・石英	褐	普通	頸部無文帶 瓶部附加条一種（附加2条）の織文を羽状に施文	下層	後期後半 PL27

第20号住居跡（第69・70図）

位置 調査区中央部のB3j1区、標高17.2mの台地平坦部に位置している。

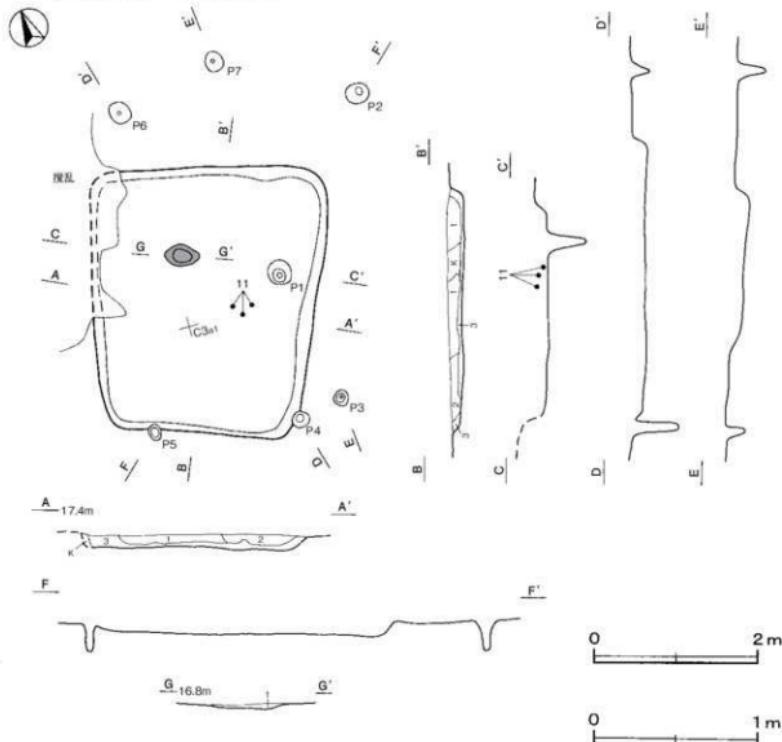
規模と形状 長軸3.35m、短軸2.73mの長方形で、長軸方向はN-18°-Eである。壁高は6~28cmで、外傾して立ち上がりっている。

床 ほぼ平坦で、硬化面は認められない。

炉 北部に付設されている地床炉である。長径45cm、短径26cmの楕円形で、床面を若干掘り込み、炉床は火を受けて赤変硬化している。

#### 炉土層解説

1 焼赤褐色 烧土ブロック・炭化粒子少量



第69図 第20号住居跡実測図

**ピット** 7か所。P 1は深さ48cmで、東壁際に位置することから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 2～P 7は深さ22～56cmで、壁外に位置しているが、上屋を支えた柱穴と考えられる。

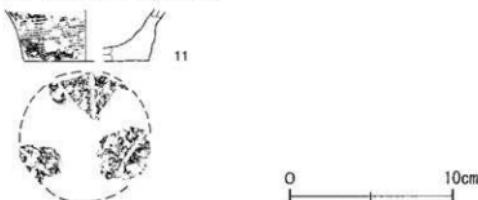
**覆土** 3層に分層できる。周囲からの土の流入を示す堆積状況と均質な含有物の様相から自然堆積と考えられる。

**土層解説**

1 黑 褐 色 ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量	3 褐 色 ローム粒子中量・燒土粒子・炭化粒子微量
2 褐 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量・燒土粒子微量	

**遺物出土状況** 弥生土器片1点(盞)、剥片1点が出土している。11は中央部の覆土中層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から後期後半と考えられる。



第70図 第20号住居跡出土遺物実測図

第20号住居跡出土遺物観察表（第70図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
11	弥生土器	盞	-	(3.1)	[7.6]	長石・石英	にぶい 黄褐色	普通	外面剥離顯著・側部下端附加条一種(附 加2条)の縞文を呈する	中層	後期後半 10%

第21号住居跡（第71・72図）

**位置** 調査区中央部のB34区、標高17.2 mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸3.80 m、短軸3.10 mの長方形で、長軸方向はN-16°-Eである。壁高は38～48cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で、硬化面は認められない。

**炉** 西部に付設されている地床炉である。長径66cm、短径40cmの楕円形で、床面を若干掘り込み、炉床は火を受けて赤変硬化している。

**炉土層解説**

1 赤 褐 色 燃土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量
-------------------------------

**ピット** 4か所。P 1は深さ48cmで中央部に位置することから、主柱穴と考えられる。P 2～P 4は深さ10～42cmで、壁外に位置しているが、上屋を支えた補助柱穴と考えられる。

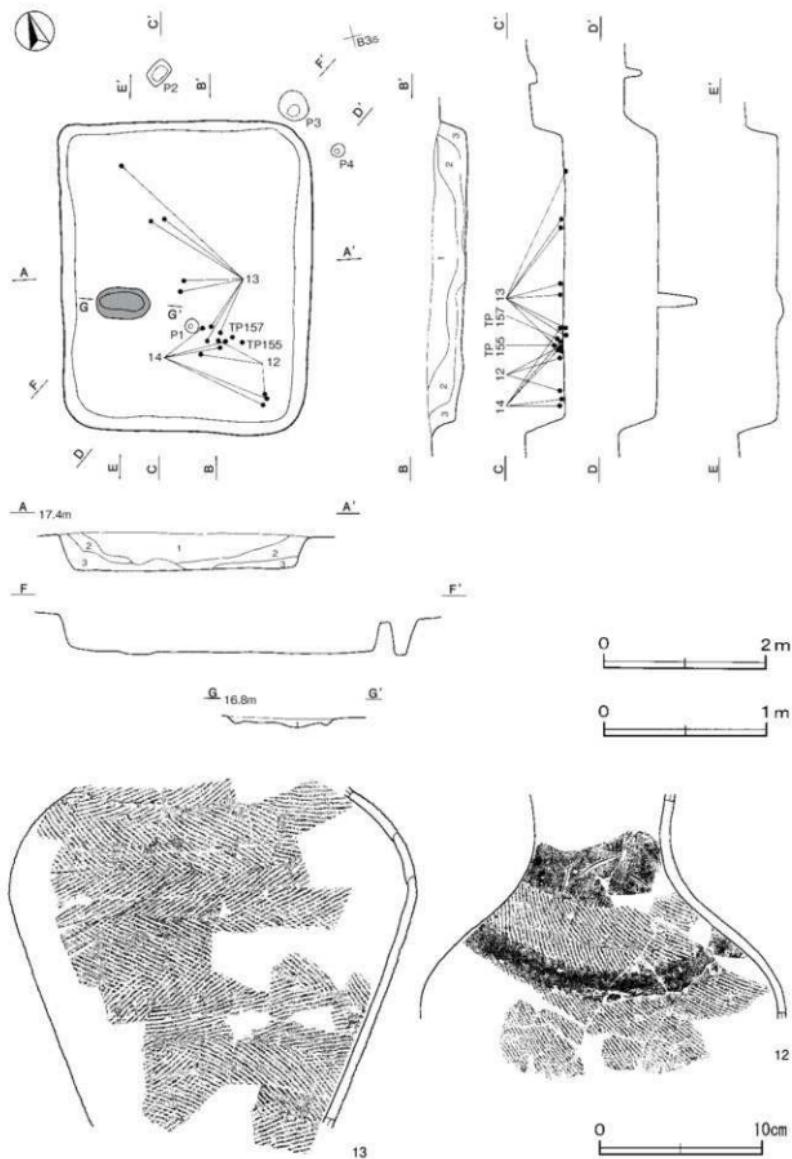
**覆土** 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

**土層解説**

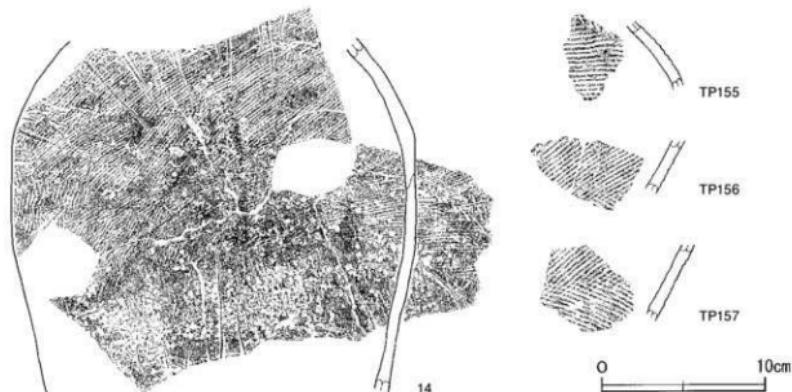
1 黒 褐 色 炭化物少量、ローム粒子・燒土粒子微量	3 褐 色 ローム粒子少量・燒土粒子・炭化粒子微量
2 褐 褐 色 ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量	

**遺物出土状況** 弥生土器片10点(盞類)が出土している。13は中央部から北部の床面、TP155・TP157は南東部の覆土下層、14は中央部の覆土下層から南部の覆土下層にかけて散乱、12は南部の覆土下層、TP156は覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から後期後半と考えられる。



第71図 第21号住居跡・出土遺物実測図



第72図 第21号住居跡出土遺物実測図

第21号住居跡出土遺物観察表（第71・72図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
12	弥生土器	壺	-	(13.9)	-	石英・雲母・赤色粒子	にい褐色	普通	頭部附加条一種（附加2条）の網文を施文後、中位に無文帯	下層	後期後半 30% PL22
13	弥生土器	壺	-	(20.9)	-	長石・石英	にい褐色	普通	胴部附加条一種（附加2条）の網文を羽状に施文	床面	後期後半 30% PL22
14	弥生土器	壺	-	(21.7)	-	長石・石英	褐色	普通	外面剥離頗著 脇部燃糸文を施文	下層	後期後半 30%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP155	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にい褐色	普通	胴部附加条一種（附加2条）の網文を羽状に施文	下層	後期後半
TP156	弥生土器	壺	長石・石英	にい褐色	普通	胴部附加条一種（附加2条）の網文を羽状に施文	覆土中	後期後半
TP157	弥生土器	壺	長石・石英	にい褐色	普通	胴部附加条一種（附加2条）の網文を羽状に施文	下層	後期後半

第22号住居跡（第73図）

位置 調査区西部のB 217区、標高170mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第9号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.33m、短軸2.73mの長方形で、長軸方向はN-33°-Eである。壁高は12~16cmで、傾斜して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり、硬化面は認められない。

炉 中央部に付設されている地床炉である。長径42cm、短径34cmの楕円形で、床面を若干掘り込み、炉床は火を受けて赤変硬化している。

#### 炉土層解説

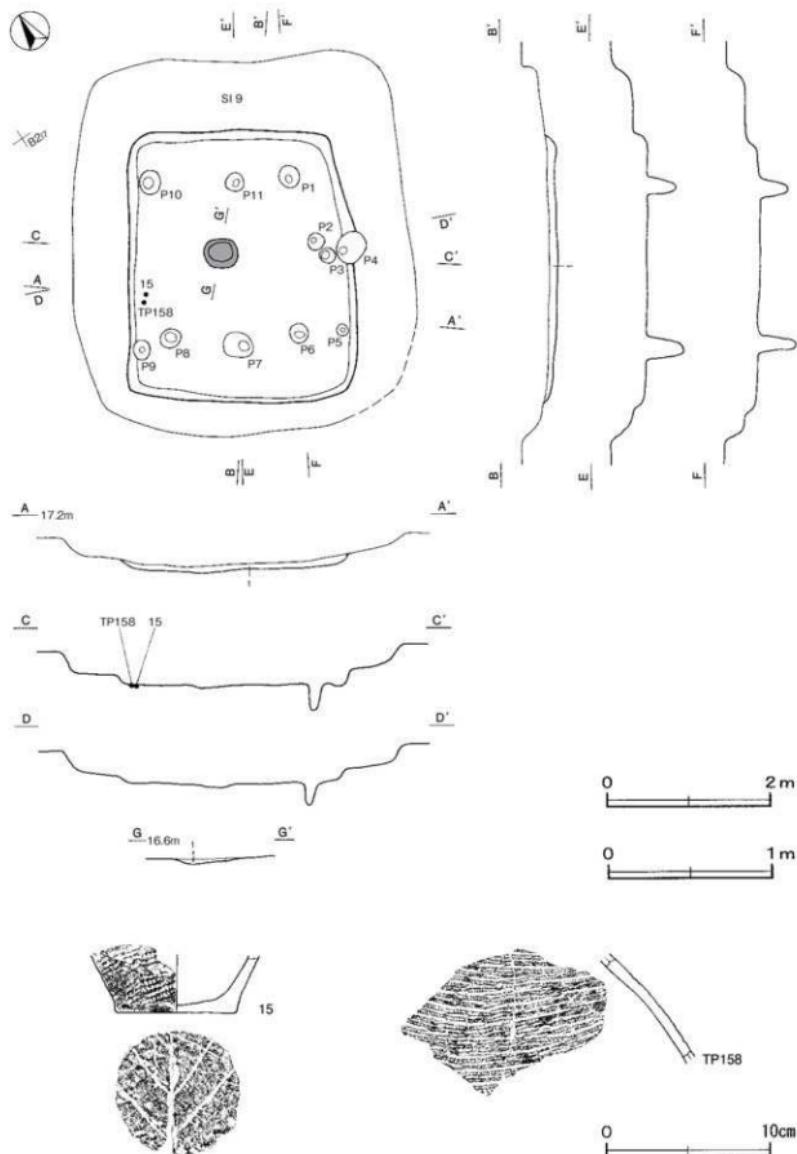
1 煙 色 暗褐色 烧土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量

ピット 11か所。P 1・6~P 8・10・11は深さ35~48cmで、配置から主柱穴と考えられる。P 2・3は深さ29cm・38cmで、東壁際の中央部に位置することから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 5・9は深さ5cm・9cmで、配置から補助柱穴と考えられる。P 4は深さ50cmで性格は不明である。

覆土 単一層である。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

#### 土層解説

1 煙 色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量、締まり強



第73図 第22号住居跡・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 弥生土器片 5 点（壺類）が出土している。15・TP158 は南西部壁際の床面から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から後期後半と考えられる。

#### 第22号住居跡出土遺物観察表（第73図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
15	弥生土器	壺	-	(3.6)	7.4	長石・石英・雲母	にね・褐	普通	胴部下端単節模文 LR を施文	床面	後期後半 10%
TP158	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にね・褐	普通	胴部附加条一種(附加2条)	普通	普通	模文を施文	床面	後期後半 PL.2

#### 第23号住居跡（第74・75図）

**位置** 調査区西部のB 25区、標高 17.0 m の台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸 3.44 m、短軸 2.67 m の長方形と推定され、長軸方向は N - 62° - E である。壁高は 4 ~ 34 cm で、外傾して立ち上がっている。

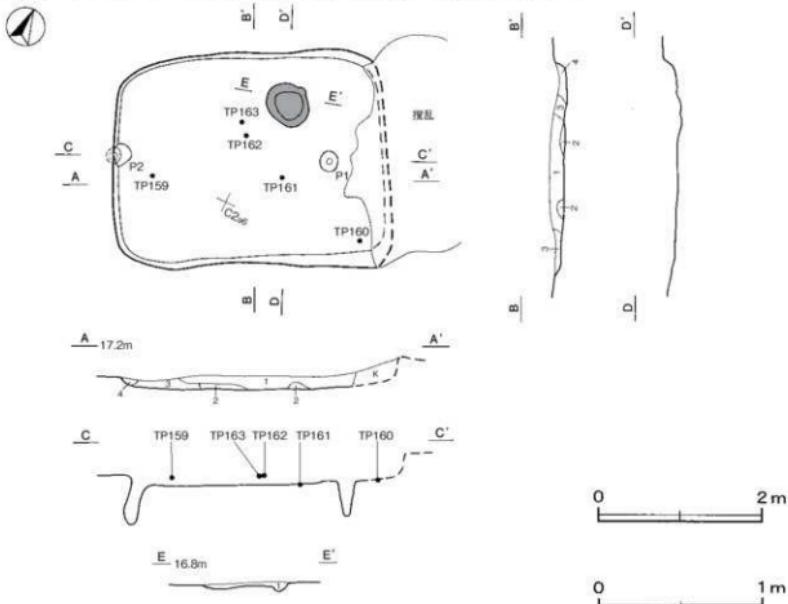
**床** ほぼ平坦で、硬化面は認められない。

**炉** 北東部に付設されている地床炉である。径 54 cm ほどの円形で、床面を若干掘り込み。炉床は火を受けて赤変硬化している。

##### 炉土層解説

1. 極暗赤褐色 烧土ブロック・炭化物少量

**ピット** 2か所。P 1・2 は深さ 43cm・58cm で、配置から主柱穴と考えられる。



第74図 第23号住居跡実測図

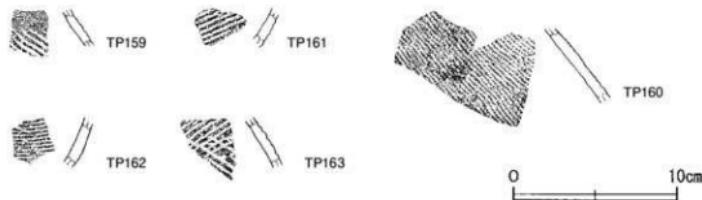
**覆土** 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

**土層解説**

- |                           |                 |
|---------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 燃土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子少量   |
| 2 暗褐色 ローム粒子微量、焼土粒子微量      | 4 暗褐色 ロームブロック少量 |

**遺物出土状況** 弥生土器片5点(壺類)が出土している。TP161は中央部の床面、TP162・TP163は中央部の覆土中層、TP160は東コーナー部壁際の床面、TP159は西部の覆土中層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から後期後半と考えられる。



第75図 第23号住居跡出土遺物実測図

第23号住居跡出土遺物観察表（第75図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP159	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	褐	普通	腹部附加条一種(附加2条)の網文を施文後、9本單位の輪番状工具を用いた網文を施文後、10本以上位の單位を有する輪番状工具を用いた山形文を施文	中層	後期後半
TP160	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	胴部単節網文RLを施文	床面	後期後半
TP161	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	胴部附加条一種(附加2条)の網文を施文	床面	後期後半
TP162	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	褐	普通	胴部附加条一種(附加2条)の網文を施文	中層	後期後半PL27
TP163	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	褐	普通	胴部附加条一種(附加2条)の網文を羽状に施文	中層	後期後半

**第24号住居跡（第76図）**

**位置** 調査区北西部のB26区、標高168 mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸320 m、短軸30.5 mの方形で、長軸方向はN-50°-Eである。壁高は16~20cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で、中央部に硬化面が認められる。中央部から壁際にかけて、焼土と炭化材が確認できた。

**炉** 中央部の北西寄りに付設されている地床炉である。長径67cm、短径52cmの楕円形で、床面を若干掘り込み、炉床は火を受けて赤変硬化している。

**炉土層解説**

- |                           |
|---------------------------|
| 1 赤褐色 燃土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
|---------------------------|

**ピット** 2か所。P1・2は深さ16cm・14cmで、配置から主柱穴と考えられる。

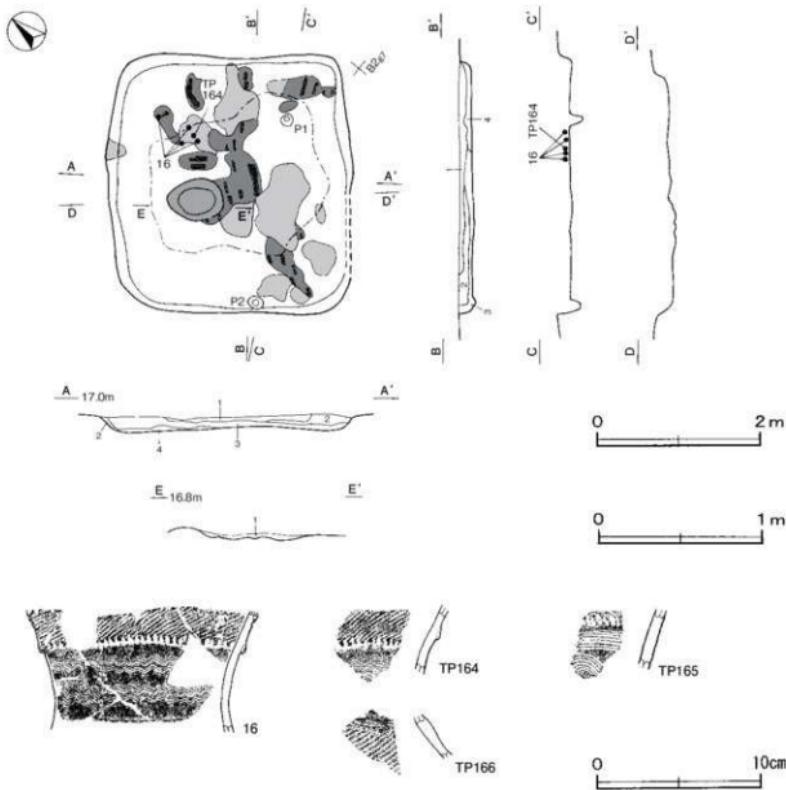
**覆土** 4層に分層できる。ブロック状の含有物が堆積していることから埋め戻されている。

**土層解説**

- |                             |                             |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・燃土粒子・炭化粒子微量     | 3 暗褐色 燃土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 2 薄褐色 ロームブロック・燃土ブロック・炭化粒子微量 | 4 暗赤褐色 燃土ブロック・炭化物中量         |

**遺物出土状況** 弥生土器片15点(壺類)が出土している。16、TP164は北部の覆土下層、TP165は東部の覆土中、TP166は西部の覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から後期後半と考えられる。また、床面から焼土や炭化材が確認されていることから焼失住居の可能性がある。



第76図 第24号住居跡・出土遺物実測図

第24号住居跡出土遺物観察表（第76図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
16	弥生土器	壺	-	(7.4)	-	長石・石英	棕	普通	複合口縁 口縁部附加条一種（附加2条）の網文を施文後、段の下端に繩文原体押印 縞部7本単位の横走文を用いた波状文を2段に施文後、段の下端に繩文原体押印 縞部6本以上の単位を有する櫛歯状工具を用いた横走文を施文	下層	後期後半 10% PL.22

番号	種別	器種	胎 土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP164	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい褐	普通	複合口縁 口縁部附加条一種（附加2条）の網文を施文後、段の下端に繩文原体押印 縞部8本単位の櫛歯状工具を用いた波状文を施文	下層	後期後半 PL.27
TP165	弥生土器	壺	長石・石英・赤色 粒子	にぶい褐	普通	複合口縁 口縁部附加条一種（附加2条）の網文を施文後、段の下端に繩文原体押印 縞部7本単位の櫛歯状工具を用いた横走文、6本以上の単位を有する櫛歯状工具を用いた波状文を施文	覆土中	後期後半 PL.27
TP166	弥生土器	壺	長石・石英	明褐	普通	縞部無文帶 刷部附加条一種（附加2条）の網文を施文	覆土中	後期後半

## 第 28 号住居跡（第 77 図）

**位置** 調査区中央部の B 3 e9 区、標高 17.1 m の台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸 280 m、短軸 270 m の方形で、長軸方向は N - 16° - E である。壁高は 12 ~ 20 cm で、外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で、中央部に硬化面が認められる。

**炉** 北西部に付設されている地床炉である。長径 68 cm、短径 52 cm の梢円形で、床面を若干掘り込み、炉床は火を受けて赤変硬化している。

### 炉土層解説

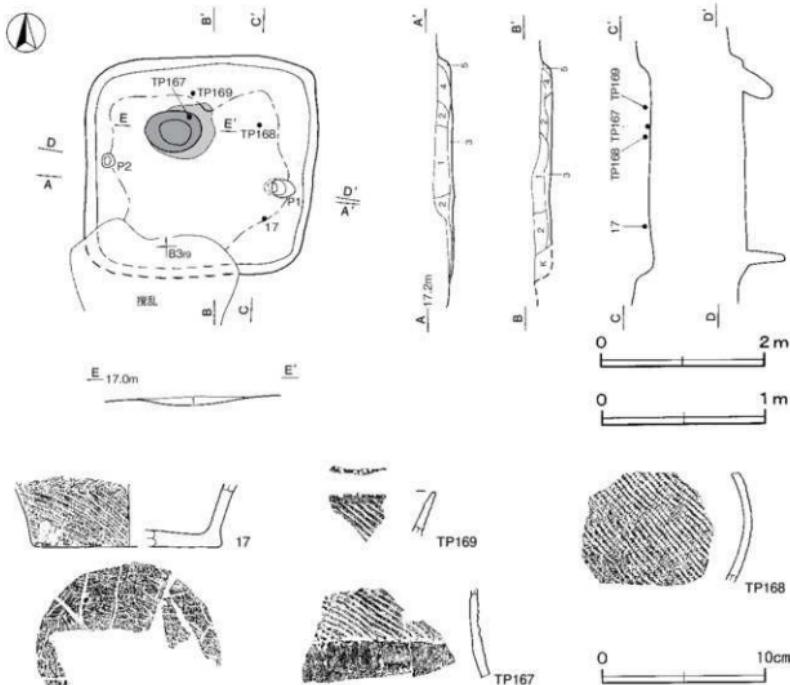
- 1 赤 極色 焼土ブロック中量。ローム粒子・炭化粒子微量

**ピット** 2か所。P 1・2 は深さ 37 cm・46 cm で、配置から主柱穴と考えられる。

**覆土** 5層に分層できる。ブロック状の含有物が堆積していることから埋め戻されている。

### 土層解説

- |                            |                            |
|----------------------------|----------------------------|
| 1 黒 極色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   | 4 極色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 極色 ローム粒子・炭化粒子微量      | 5 にぶい褐色 ロームブロック中量          |
| 3 黒 極色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |                            |



第 77 図 第 28 号住居跡・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 弥生土器片 7点(壺類)が出土している。TP169は北部の覆土中層、TP168は北東部の覆土中層、17は南東部の覆土下層、TP167は炉床面から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から後期後半と考えられる。

第28号住居跡出土遺物観察表(第77図)

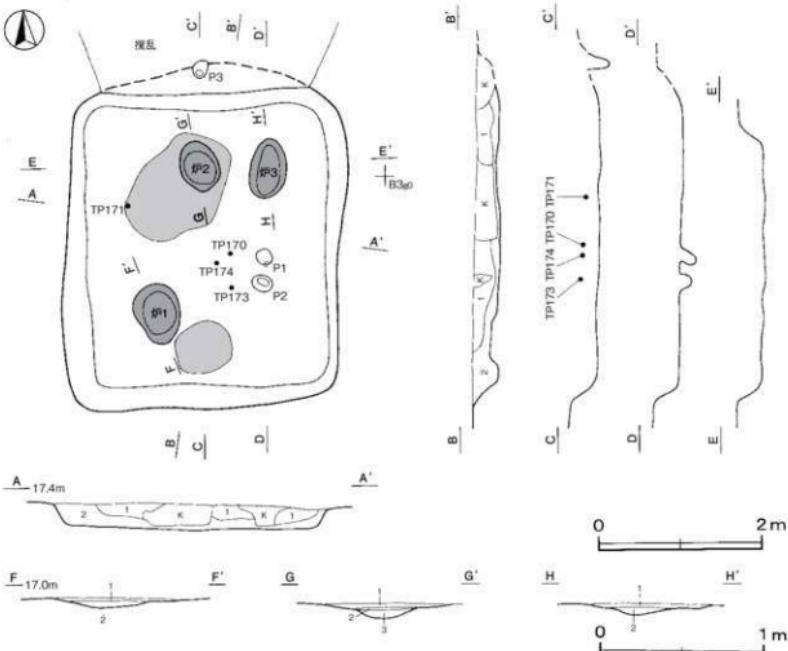
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
17	弥生土器	壺	-	(3.8)	[11.4]	長石・石英・雲母	にじみ褐色	普通	胴部下端附加条一種(附加2条)を施文	下層	後期後半 5% PL27
TP97	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部附加条一種(附加2条)の縦文を施文	頭部無文帯	炉床面	後期後半 PL27		
TP98	弥生土器	壺	長石・石英	橙	普通	胴部単節横文RLを施文		中層	後期後半		
TP99	弥生土器	壺	砂粒	にじみ黄褐色	普通	口唇部横文底体押圧	口縁部撫糸文を施文		中層	後期後半 PL27	

第29号住居跡(第78・79図)

**位置** 調査区中央部のB3g9区、標高17.2mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸4.28m、短軸3.42mの長方形で、長軸方向はN-0°である。壁高は28cmほどで、外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で、硬化面は認められない。中央部と墻際で焼土が確認できた。



第78図 第29号住居跡実測図

**炉** 3か所。炉1は南西部に付設されている地床炉である。長径74cm、短径53cmの楕円形である。炉2は北部中央に付設されている地床炉である。長径61cm、短径47cmの楕円形である。炉3は北東部に付設されている地床炉である。長径77cm、短径47cmの楕円形である。これらは床面を若干掘り込み、炉床は火を受けて赤変硬化している。

**炉1 土層解説**

1 黒 赤褐色 灰化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量

2 赤 褐色 焼土ブロック中量、灰化粒子微量

**炉2 土層解説**

1 にねき褐色 ローム粒子・焼土粒子・灰化粒子少量

3 赤 褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量、灰化粒子微量

2 明赤褐色 焼土ブロック中量

**炉3 土層解説**

1 にねき褐色 焼土粒子・灰化粒子少量

2 黒 褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量、灰化粒子微量

**ピット** 3か所。P1～P3は深さ14～32cmでいずれも性格は不明である。

**覆土** 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

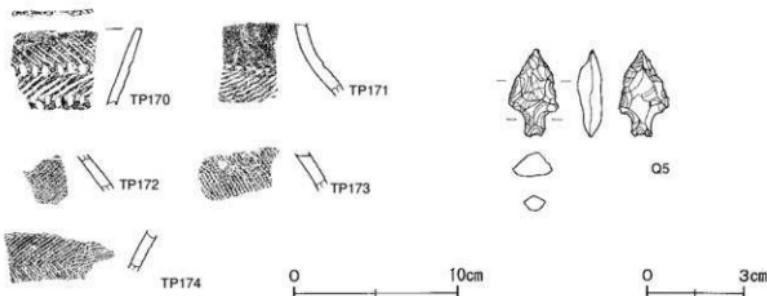
**土層解説**

1 黒 褐色 灰化物少量、ローム粒子・焼土粒子微量

2 褐色 ロームブロック少、焼土粒子・灰化粒子微量

**遺物出土状況** 弥生土器片10点（壺類）、石器1点（石鏃）が出土している。TP173は中央部の覆土上層、TP170・TP174は中央部の覆土中層、TP171は北西部の覆土中層、TP172は北東部の覆土中。Q5は東部の覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から後期後半と考えられる。また、床面から焼土や炭化材が確認されていることから焼失住居の可能性がある。



第79図 第29号住居跡出土遺物実測図

第29号住居跡出土遺物観察表（第79図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP170	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇部縞文原形印、口縫部附加条一様（附加2条）の縞文を口火に施文、縞文原体を中位と下位の2段に押圧	中層	後期後半
TP171	弥生土器	壺	雲母	灰黄褐	普通	頭部無文帯、体部附加条一種（附加2条）の縞文を施文後、棒状工具を用いた軽突文を中位に施文	中層	後期後半 PL27
TP172	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にねき褐色	普通	頭部附加条一種（附加2条）の縞文を施文後、頭部2本以上の鉛垂状工具を用いた捺走文を施文	覆土中	後期後半 PL27
TP173	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にねき褐色	普通	頭部無文帯を施文	上層	後期後半
TP174	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にねき褐色	普通	頭部上位附加条一種（附加2条）の縞文を施文、下位半輪縞文を沿底に施文	中層	後期後半 PL27

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q5	石鏃	26	15	0.75	22	チャート	押圧剥離による両面調整、凸基有茎脚	覆土中	PL28

### 第30号住居跡（第80図）

**位置** 調査区中央部のB 3j9区、標高17.2mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸3.40m、短軸2.78mの長方形で、長軸方向はN-85°-Eである。壁高は12~20cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で、中央部に硬化面が認められる。

**ピット** P 1は、深さ10cmで、配置から主柱穴と考えられる。

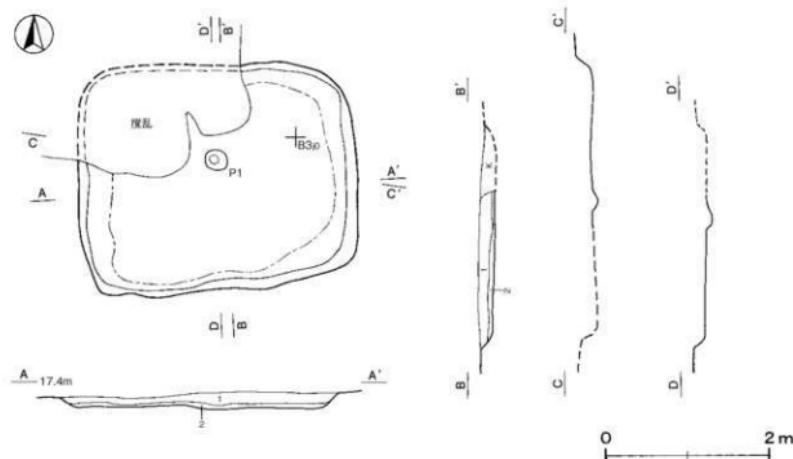
**覆土** 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

#### 土層解説

1 黒褐色 炭化物少量 ローム粒子・焼土粒子微量

2 黄褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

**所見** 時期は、遺物が出土していないが、遺構の形状や覆土の様相から後期後半と考えられる。



第80図 第30号住居跡実測図

### 第37号住居跡（第81図）

**位置** 調査区西部のB 2h8区、標高16.9mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第11号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸3.86m、短軸3.20mの長方形で、長軸方向はN-40°-Eである。壁高は10~15cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で、硬化面は認められない。壁際で焼土が確認できた。

**ピット** 5か所。P 3・4は深さ58cm・46cmで、配置から主柱穴と考えられる。P 1・2・5は深さ4~36cmで、性格は不明である。

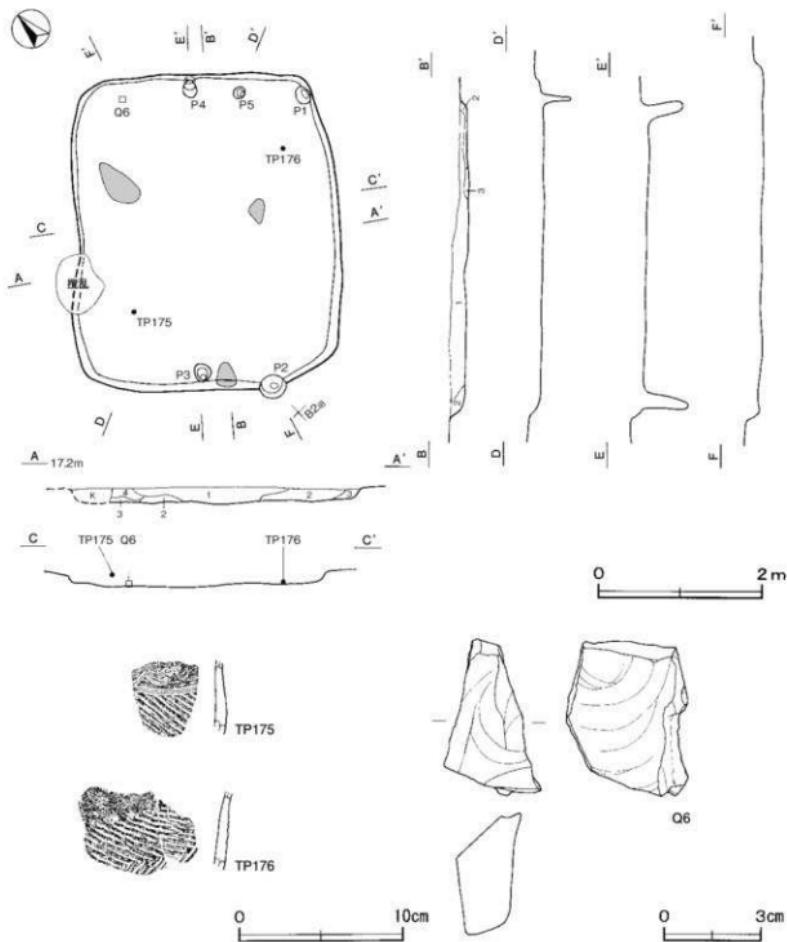
**覆土** 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

**土層解説**

- |                          |                         |
|--------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 岩化物少量 ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 明褐色 ロームブロック中量         |
| 2 暗褐色 岩化物少量 ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 桂褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

**遺物出土状況** 弥生土器片 10点(壺類)、石器1点(石核)が出土している。Q6は北部の床面、TP176は東部の覆土下層、TP175は西部の覆土中層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から後期後半と考えられる。また、床面から焼土が確認されることから焼失住居の可能性がある。



第81図 第37号住居跡・出土遺物実測図

第37号住居跡出土遺物観察表（第81図）

番号	種別	器種	船	土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
TPL75	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい褐	普通	頭部3本单位の網目状工具を用いた横走文を施文後、波状文を施文、胴部附加条一種（附加2条）の縦文を施文	中層	後期後半 PL27	
TP176	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい褐	普通	頭部無文帯、胴部附加条一種（附加2条）の縦文を羽伏に施文	下層	後期後半	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 6	石核	4.8	37	3.0	47.1	チャート	縦長剥片石核、剥離面二面	床面	

表6 弥生時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	標高 (cm)	床面	壁構造	内部施設			覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係 (古→新)	
								柱穴	梁穴	柱穴					
1	B 24	N-54°-E	隅丸長方形	2.76 × 2.06	10	平坦	-	2	-	-	炉	自然	弥生土器	後期後半 本跡→SK34	
2	C 2a4	N-31°-E	隅丸長方形	5.28 × 3.70	12 ~ 20	平坦	-	2	-	-	炉	自然	弥生土器	後期後半	
4	C 2a2	N-25°-E	隅丸長方形	3.00 × 2.44	8 ~ 20	平坦	-	3	-	-	炉2	自然	弥生土器、剥片	後期後半	
6	B 23	N-20°-E	【長方形】	3.02 × (2.64)	20	平坦	-	-	1	2	-	自然	弥生土器、石器、剥片	後期後半	
7	B 24	N-53°-E	隅丸長方形	3.54 × 2.52	8 ~ 14	平坦	-	4	-	-	炉	自然	弥生土器	後期後半	
8	B 215	N-47°-E	長方形	3.32 × 2.76	15 ~ 23	平坦	-	-	2	1	-	炉	自然	弥生土器	後期後半
9	B 27	N-36°-E	方形	4.60 × 4.20	24 ~ 30	皿状	-	-	1	-	炉2	人為	弥生土器	後期後半 SI 22 → 本跡	
10	B 249	N-45°-E	隅丸長方形	3.35 × 2.60	20 ~ 25	平坦	-	2	1	1	炉	自然	弥生土器	後期後半 FT5-第2号坑跡→本跡	
11	B 248	N-50°-E	隅丸長方形	2.80 × 2.40	8 ~ 10	平坦	-	-	1	2	-	人為	弥生土器、土製品	後期後半 本跡→SI 37	
12	B 240	N-31°-E	隅丸長方形	3.32 × 2.92	22 ~ 28	平坦	-	-	-	-	炉2	自然	弥生土器	後期後半	
13	B 246	N-2°-W	隅丸長方形	2.66 × 2.12	7 ~ 15	平坦	-	-	-	-	-	人為	弥生土器	後期後半	
14	B 248	N-6°-W	【方形・長方形】	3.62 × (1.28)35 ~ 50	平坦	-	-	2	1	-	-	自然	弥生土器、石器、剥片	後期後半	
16	B 312	N-34°-W	隅丸長方形	3.40 × 2.90	6 ~ 10	平坦	-	-	-	-	炉	自然	弥生土器	後期後半 SI 31 → 本跡	
17	B 249	N-45°-E	隅丸長方形	4.08 × 3.66	14 ~ 30	平坦	-	-	-	1	5	炉	自然	弥生土器、剥片	後期後半
18	B 341	N-20°-E	長方形	3.54 × 2.50	14 ~ 22	平坦	-	2	-	1	4	炉	自然	弥生土器	後期後半
20	B 341	N-18°-E	長方形	3.35 × 2.73	6 ~ 28	平坦	-	-	1	-	6	炉	自然	弥生土器、剥片	後期後半
21	B 344	N-16°-E	長方形	3.80 × 3.10	38 ~ 48	平坦	-	-	1	-	3	炉	自然	弥生土器	後期後半
22	B 247	N-33°-W	長方形	3.33 × 2.73	12 ~ 16	平坦	-	6	2	1	2	人為	弥生土器	後期後半 本跡→SI 9	
23	B 245	N-62°-E	【長方形】	[3.44] × 2.67	4 ~ 34	平坦	-	-	-	-	炉	自然	弥生土器	後期後半 本跡→SI 9	
24	B 246	N-50°-E	方形	3.20 × 3.05	16 ~ 20	平坦	-	2	-	-	炉	人為	弥生土器	後期後半	
28	B 3e9	N-16°-E	方形	2.80 × 2.70	12 ~ 20	平坦	-	2	-	-	炉	人為	弥生土器	後期後半	
29	B 3g9	N-0°	長方形	4.28 × 3.42	28	平坦	-	-	-	3	-	炉3	自然	弥生土器、石器	後期後半
30	B 349	N-85°-E	長方形	3.40 × 2.78	12 ~ 20	平坦	-	1	-	-	-	-	自然	後期後半	
37	B 248	N-40°-E	長方形	3.86 × 3.20	10 ~ 15	平坦	-	2	-	3	-	-	自然	弥生土器、石器	後期後半 SI 11 → 本跡

## 3 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は土坑1基が確認されている。以下、検出した遺構と遺物について記述する。

## 土坑

## 第65号土坑（第82図）

位置 調査区西部のB 2h7区、標高17.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸2.00m、短軸1.32mの不整長方形で、長軸方向はN-31°-Eである。深さは20cmほどで、底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がりっている。

**覆土** 3層に分層できる。ロームブロックや炭化物を含んだ不自然な堆積状況から埋め戻されている。

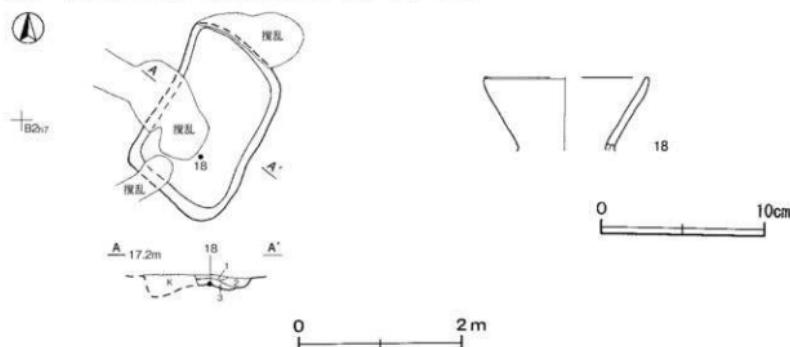
**土層解説**

1 暗 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量  
2 褐 色 ロームブロック中量

3 明 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片1点(18)が出土している。18は中央部の覆土下層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から前期と考えられ、性格は不明である。



第82図 第65号土坑・出土遺物実測図

第65号土坑出土遺物観察表（第82図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎	土	色調	焼成	手 法 の 特 徴	ほ か	出土位置	備考
18	土師器	壺	[10.0]	(4.5)	-	長石・石英・蛋白質・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部ナガ調整			下層	前期 5%

#### 4 その他の遺構と遺物

遺物が出土していないことなどから、時期不明の井戸跡1基、土坑71基、溝跡3条、ピット群9群が確認され、ほかに遺構に伴わない遺物が出土している。以下、特色ある遺構について記述し、それ以外は実測図と一覧表を掲載する。

##### (1) 井戸跡

###### 第1号井戸跡（第83図）

**位置** 調査区東部のC 4 a7区、標高16.7mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 径0.90mほどの不整円形である。深さは180cm以上で、壁面の崩落が想定できたので、以上の掘り込みを断念した。壁は直立している。

**覆土** 3層に分層できる。ロームブロックや炭化物を含んだ不自然な堆積状況から埋め戻されている。

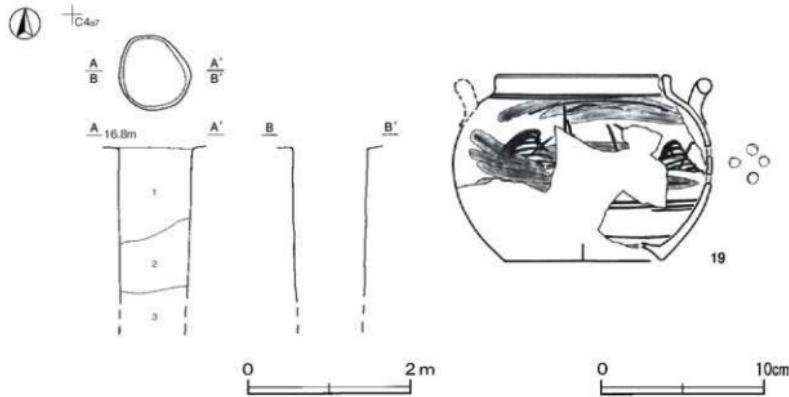
**土層解説**

1 暗 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量  
2 褐 色 ロームブロック中量

3 明 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 陶器片1点(土瓶)が出土している。19は覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から19世紀以降に埋め戻されたと考えられる。



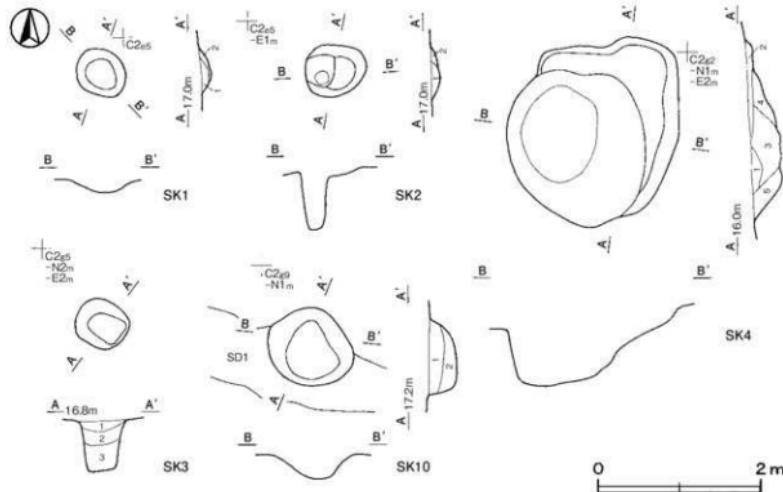
第83図 第1号井戸跡・出土遺物実測図

第1号井戸跡出土遺物観察表（第83図）

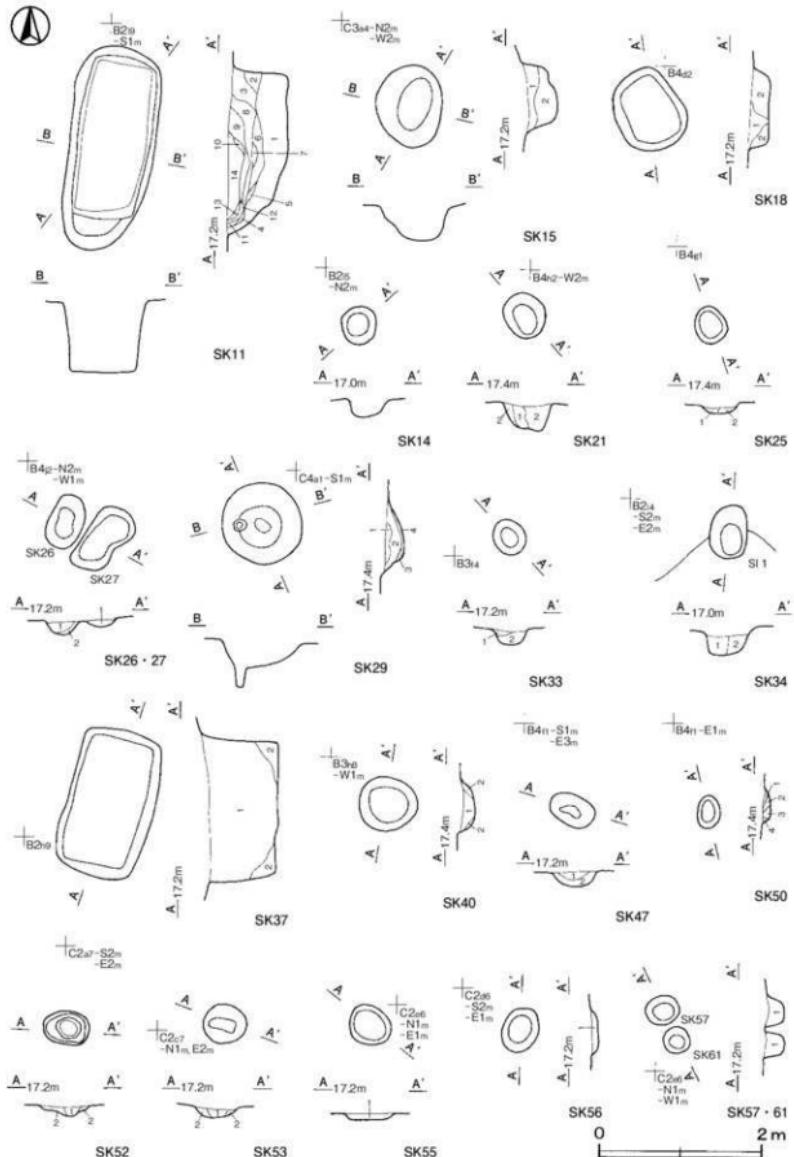
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・縫土色	色調	焼成	手法・文様の特徴	出土位置	備考
19	陶器	土瓶	[10.6]	11.4	[9.7]	繊維 灰白	棕	普通	外面草花文々 盖無し 注口部欠損	覆土中 19世紀 60% PL22	

#### (2) 土坑（第84～87図）

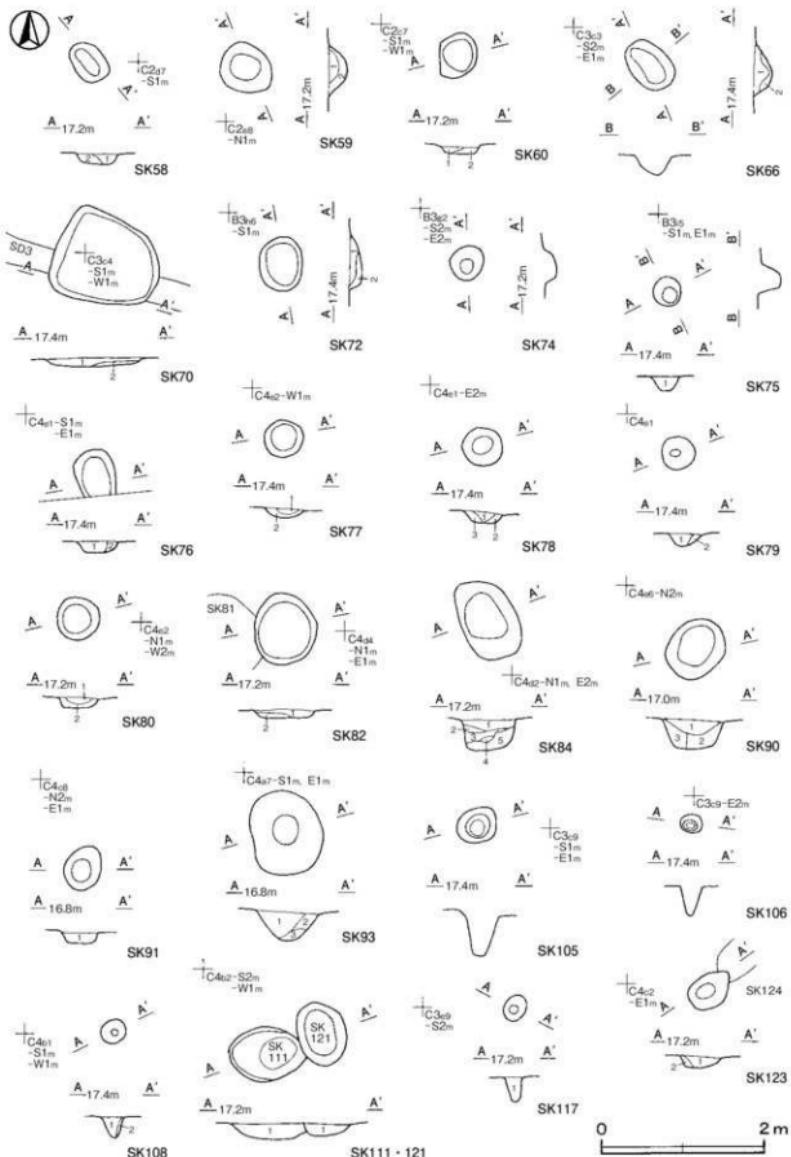
時期・性格ともに不明な土坑71基については、規模・形状等について実測図と一覧表を掲載する。



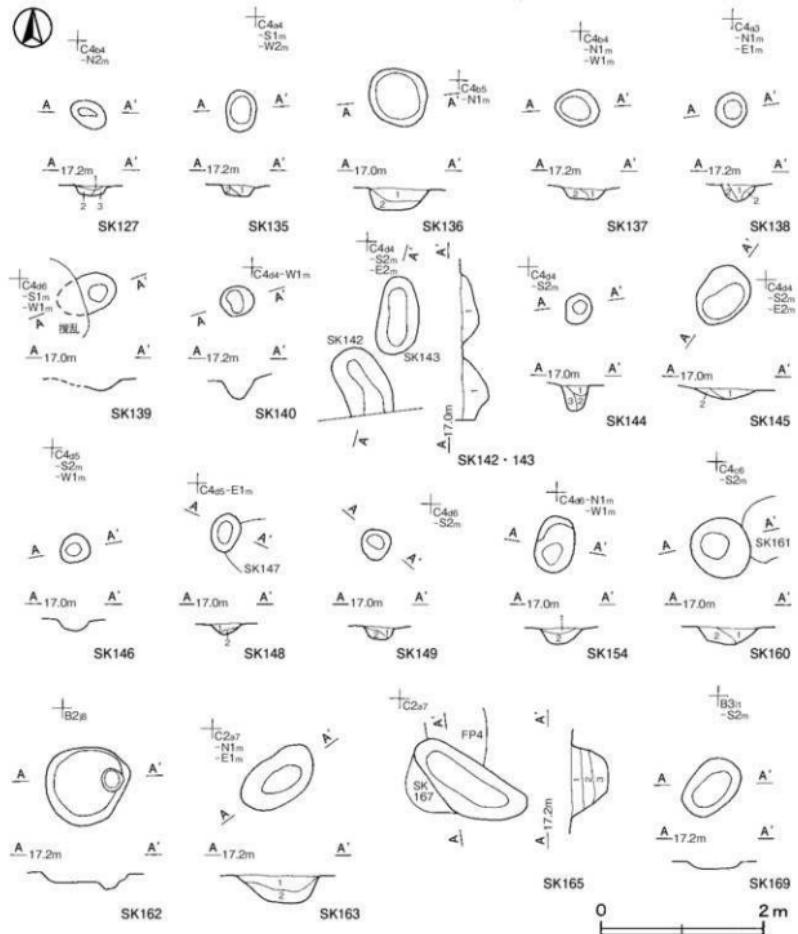
第84図 その他の土坑実測図（1）



第85図 その他の土坑実測図(2)



第86図 その他の土坑実測図(3)



第87図 その他の土坑実測図(4)

第1号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 にぶい褐色 ローム粒子中量

第2号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第3号土坑土層解説

- 1 褐褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 にぶい褐色 ロームブロック中量

第4号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 にぶい褐色 ロームブロック中量
- 5 明褐色 ローム粒子中量

第10号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

#### 第 11 号土坑土層解説

- 1 黒 色 ロームブロック中量。炭化粒子微量
- 2 細 色 ロームブロック多量
- 3 黒 色 ロームブロック中量。燒土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒 色 燃土粒子中量。ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 細 色 燃土ブロック中量。炭化物・ローム粒子微量
- 6 にふい 色 燃土粒子中量。ローム粒子・炭化粒子微量
- 7 細 色 燃土ブロック中量。ロームブロック微量
- 8 細 色 燃土ブロック多量
- 9 細 色 ローム粒子中量。炭化物微量
- 10 細 色 ロームブロック少量。炭化粒子少量
- 11 細 色 ロームブロック少量。炭化粒子微量
- 12 にふい 色 ローム粒子中量。炭化物微量
- 13 細 色 ロームブロック中量
- 14 細 色 ロームブロック少量。炭化粒子微量

#### 第 15 号土坑土層解説

- 1 細 色 ロームブロック少量。燒土粒子・炭化粒子微量
- 2 細 色 ロームブロック少量。炭化粒子微量

#### 第 18 号土坑土層解説

- 1 細 色 ローム粒子・炭化粒子微量

#### 第 19 号土坑土層解説

- 1 細 色 ローム粒子・炭化粒子微量

#### 第 21 号土坑土層解説

- 1 細 色 ロームブロック中量。炭化粒子微量

#### 第 25 号土坑土層解説

- 1 黑 色 ローム粒子・炭化粒子微量

#### 第 26 号土坑土層解説

- 1 黑 色 ローム粒子・炭化粒子微量

#### 第 27 号土坑土層解説

- 1 細 色 ローム粒子・炭化粒子微量

#### 第 29 号土坑土層解説

- 1 黑 色 ローム粒子中量。炭化粒子微量

#### 第 34 号土坑土層解説

- 1 黑 色 ロームブロック中量

#### 第 40 号土坑土層解説

- 1 黑 色 ロームブロック少量。炭化粒子微量

#### 第 47 号土坑土層解説

- 1 黑 色 ローム粒子・炭化粒子微量

#### 第 50 号土坑土層解説

- 1 黑 色 ロームブロック微量。炭化粒子微量

#### 第 53 号土坑土層解説

- 1 黑 色 ローム粒子・炭化粒子微量

#### 第 55 号土坑土層解説

- 1 細 色 ロームブロック少量。炭化粒子微量

#### 第 56 号土坑土層解説

- 1 黑 色 ローム粒子微量

#### 第 57 号土坑土層解説

- 1 細 色 ロームブロック少量。燒土粒子・炭化粒子微量

#### 第 58 号土坑土層解説

- 1 黑 色 ローム粒子微量

#### 第 59 号土坑土層解説

- 1 黑 色 ローム粒子微量

#### 第 60 号土坑土層解説

- 1 黑 色 ローム粒子・炭化粒子微量

#### 第 61 号土坑土層解説

- 1 明 色 ロームブロック少量。燒土粒子・炭化粒子微量

#### 第 66 号土坑土層解説

- 1 明 色 ローム粒子・炭化粒子微量

#### 第 70 号土坑土層解説

- 1 明 色 ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量

#### 第 72 号土坑土層解説

- 1 明 色 ローム粒子・炭化粒子微量

#### 第 75 号土坑土層解説

- 1 明 色 ロームブロック少量

#### 第 76 号土坑土層解説

- 1 明 色 ローム粒子少量

#### 第 77 号土坑土層解説

- 1 明 色 ローム粒子微量

#### 第 78 号土坑土層解説

- 1 明 色 ロームブロック中量

#### 第 79 号土坑土層解説

- 1 明 色 ローム粒子少量。燒土粒子微量

#### 第 80 号土坑土層解説

- 1 明 色 燃土粒子少量。ローム粒子・炭化粒子微量

#### 第 82 号土坑土層解説

- 1 明 色 ローム粒子微量

#### 第 84 号土坑土層解説

- 1 黑・にふい 色 ロームブロック中量

#### 第 90 号土坑土層解説

- 1 黒・にふい 色 ロームブロック中量。炭化粒子微量

#### 第 91 号土坑土層解説

- 1 明 色 ロームブロック中量

#### 第 93 号土坑土層解説

- 1 明 色 ロームブロック中量。燒土粒子・炭化粒子微量

#### 第 96 号土坑土層解説

- 3 明 色 ロームブロック少量。炭化粒子微量

#### 第 99 号土坑土層解説

- 3 明 色 ローム粒子微量

#### 第 103 号土坑土層解説

- 3 明 色 ロームブロック少量。燒土粒子・炭化粒子微量

#### 第 111 号土坑土層解説

- 1 明 色 ロームブロック中量。燒土粒子・炭化粒子微量

#### 第 117 号土坑土層解説

- 1 明 色 ローム粒子少量。炭化粒子微量

#### 第 121 号土坑土層解説

- 1 明 色 ロームブロック中量。燒土粒子・炭化粒子微量

#### 第 123 号土坑土層解説

- 1 明 色 ローム粒子少量。炭化粒子微量

#### 第 127 号土坑土層解説

- 1 黑 色 ローム粒子中量。炭化粒子微量

#### 第 135 号土坑土層解説

- 1 明 色 ローム粒子少量。炭化粒子微量

#### 第 136 号土坑土層解説

- 1 明 色 ロームブロック中量。燒土粒子・炭化粒子微量

## 第 137 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

## 第 138 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

## 第 142 号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、燒土粒子、炭化粒子微量  
2 明褐色 ローム粒子多量

## 第 144 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、燒土粒子微量  
2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量  
3 明褐色 ローム粒子多量

## 第 145 号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量、燒土粒子微量  
2 褐色 ローム粒子、炭化粒子中量

## 第 148 号土坑土層解説

- 1 深褐色 ローム粒子中量  
2 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

## 第 149 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量、燒土粒子微量  
2 明褐色 ローム粒子、燒土粒子少量

## 第 154 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量、燒土粒子微量  
2 褐色 ローム粒子、燒土粒子微量

## 第 160 号土坑土層解説

- 1 深褐色 ロームブロック中量  
2 明褐色 ロームブロック中量、燒土粒子、炭化粒子微量

## 第 163 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子少量、燒土粒子、炭化粒子微量  
2 明褐色 ローム粒子、燒土粒子微量

## 第 165 号土坑土層解説

- 1 明褐色 ローム粒子少量、燒土粒子、炭化粒子微量  
2 黑褐色 ローム粒子中量、燒土粒子、炭化粒子微量

## 3 明赤褐色 ローム粒子、燒土粒子中量

表7 その他の土坑一覧表

番号	位置	長軸(透)方向	平面形	規模(m) 長径×短径	深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
1	C 2 e4	N - 41° - W	梢円形	0.67 × 0.58	16	緩斜	皿状	自然	-	
2	C 2 e5	N - 82° - E	梢円形	0.76 × 0.65	10 ~ 72	峻斜・直立	皿状	自然	-	
3	C 2 f5	N - 64° - W	隅丸長方形	0.65 × 0.55	60	直立	平坦	人為	-	
4	C 2 g2	N - 9° - E	不整圓形	2.37 × 2.06	75 ~ 100	外傾・直立	凸凹	人為	-	
10	C 2 g9	N - 72° - W	梢円形	1.10 × 0.94	28	外傾	皿状	自然	-	SD1 → 本跡
11	B 2 9	N - 8° - E	梢円形	2.50 × 1.04	80	外傾・直立	平坦	人為	-	
14	B 2 h5	-	円形	0.46 × 0.43	22	外傾	皿状	-	-	
15	B 3 j3	N - 7° - E	梢円形	1.02 × 0.82	40	外傾	皿状	自然	-	
18	B 4 d1	N - 34° - W	隅丸長方形	1.00 × 0.80	25	外傾	平坦	自然	-	
21	B 4 h1	N - 18° - W	梢円形	0.56 × 0.52	32	外傾	平坦	人為	-	
25	B 4 g1	N - 5° - W	梢円形	0.45 × 0.40	12	緩斜	皿状	自然	-	
26	B 4 i1	N - 18° - E	梢円形	0.68 × 0.42	16	外傾	平坦	自然	-	
27	B 4 i11	N - 35° - E	梢円形	0.87 × 0.52	10	外傾	皿状	自然	-	
29	C 3 a0	-	円形	1.00 × 1.00	23	外傾・直立	皿状	自然	-	
33	B 3 e4	N - 42° - W	梢円形	0.45 × 0.40	20	外傾	平坦	自然	-	
34	B 2 4	N - 8° - E	梢円形	0.66 × 0.47	30	外傾	平坦	人為	-	SI 1 → 本跡
37	B 2 g9	N - 14° - E	長方形	1.83 × 1.05	88	直立	平坦	人為	-	
40	B 3 h7	-	円形	0.70 × 0.65	16	外傾	平坦	自然	-	
47	B 4 f1	N - 58° - W	梢円形	0.56 × 0.38	20	緩斜	平坦	自然	-	
50	B 4 f1	-	梢円形	0.50 × 0.27	10	緩斜	平坦	自然	-	
52	C 2 a7	N - 84° - W	梢円形	0.58 × 0.40	13	緩斜	皿状	自然	-	
53	C 2 b7	-	円形	0.53 × 0.49	19	外傾	皿状	自然	-	
55	C 2 d6	N - 40° - W	梢円形	0.56 × 0.46	13	直立	平坦	人為	-	
56	C 2 d6	N - 30° - E	梢円形	0.56 × 0.43	13	外傾	平坦	人為	-	
57	C 2 d5	-	円形	0.40 × 0.37	22	直立	皿状	人為	-	
58	C 2 d6	N - 37° - W	梢円形	0.55 × 0.48	15	外傾	平坦	自然	-	
59	C 2 d8	N - 58° - W	梢円形	0.68 × 0.58	24	外傾	皿状	自然	-	
60	C 2 c6	N - 40° - E	梢円形	0.60 × 0.45	14	外傾	平坦	自然	-	
61	C 2 d5	-	円形	0.33 × 0.33	33	直立	皿状	人為	-	
66	C 3 c3	N - 41° - W	梢円形	0.68 × 0.47	25	外傾	皿状	自然	-	
70	C 3 c3	N - 60° - W	隅丸長方形	1.30 × 1.09	9	外傾	平坦	自然	-	SD 3 → 本跡

番号	位置	長軸(径) 方向	平面形	規模 (m) 長径 × 短径	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
72	B 3 h6	N - 9° - W	楕円形	0.67 × 0.54	11	外傾	平坦	自然	-	
74	B 3 g2	N - 30° - E	椭円形	0.44 × 0.38	14	外傾	平坦	-	-	
75	B 3 i5	-	円形	0.35 × 0.35	27	外傾	平坦	人為	貝殻	
76	C 4 e1	N - 12° - W	【楕円形】	(0.57) × 0.49	14	外傾	平坦	人為	-	
77	C 4 e1	-	円形	0.48 × 0.46	10	緩斜	皿状	人為	-	
78	C 4 e1	-	円形	0.47 × 0.47	14	緩斜	平坦	人為	-	
79	C 4 e1	-	円形	0.40 × 0.40	14	外傾	平坦	人為	-	
80	C 4 d1	-	円形	0.54 × 0.54	13	外傾	平坦	人為	-	
82	C 4 c4	N - 10° - W	楕円形	0.89 × 0.75	10	緩斜	平坦	自然	-	SK81 → 本跡
84	C 4 c2	N - 26° - W	楕円形	1.02 × 0.64	38	外傾	平坦	人為	-	
90	C 4 g6	N - 39° - E	楕円形	0.80 × 0.65	35	外傾	平坦	人為	-	
91	C 4 b8	N - 22° - E	楕円形	0.57 × 0.45	13	外傾	平坦	人為	-	
93	C 4 a7	N - 18° - W	楕円形	1.06 × 0.84	35	緩斜	皿状	人為	-	
105	C 3 c9	N - 34° - E	楕円形	0.50 × 0.45	65	直立	皿状	-	-	
106	C 3 c9	-	円形	0.25 × 0.23	14	外傾	皿状	-	-	
108	C 4 b1	-	円形	0.30 × 0.28	25	外傾	皿状	人為	-	
111	C 4 b1	N - 81° - W	楕円形	(0.96) × 0.70	20	外傾	平坦	自然	-	本跡 → SK121
117	C 3 e9	N - 21° - E	楕円形	0.33 × 0.25	31	外傾	皿状	自然	-	
121	C 4 b2	N - 20° - W	楕円形	0.82 × 0.57	14	外傾	平坦	自然	-	SK111 → 本跡
123	C 4 c2	N - 54° - E	楕円形	0.53 × 0.43	16	緩斜・外傾	皿状	自然	-	SK124 → 本跡
127	C 4 a4	N - 62° - W	楕円形	0.44 × 0.30	12	緩斜	皿状	自然	-	
135	C 4 a3	N - 2° - W	楕円形	0.50 × 0.37	13	外傾	平坦	自然	-	
136	C 4 a4	N - 43° - W	楕円形	0.28 × 0.70	22	外傾	平坦	自然	-	
137	C 4 a3	N - 52° - W	楕円形	0.51 × 0.45	13	緩斜	平坦	自然	-	
138	C 4 a3	-	円形	0.39 × 0.39	20	外傾	皿状	自然	-	
139	C 4 d5	N - 66° - E	【楕円形】	[0.76] × 0.46	12	緩斜	皿状	-	-	
140	C 4 d3	-	円形	0.41 × 0.39	20	外傾	皿状	-	-	
142	C 4 d4	N - 26° - W	【楕円形】	(0.88) × 0.59	30	外傾	皿状	自然	-	
143	C 4 d4	N - 3° - E	楕円形	0.98 × 0.52	11	外傾	皿状	人為	-	
144	C 4 d4	N - 2° - W	楕円形	0.38 × 0.32	30	外傾	皿状	人為	-	
145	C 4 d4	N - 43° - E	楕円形	0.78 × 0.56	12	緩斜	皿状	自然	-	
146	C 4 d4	-	円形	0.36 × 0.34	12	外傾	皿状	-	-	
148	C 4 d5	N - 23° - E	楕円形	0.45 × 0.34	9	緩斜	皿状	自然	-	SK147 → 本跡
149	C 4 d5	N - 7° - E	楕円形	0.38 × 0.32	14	外傾	平坦	自然	-	
154	C 4 c5	N - 8° - E	楕円形	0.70 × 0.48	20	外傾	皿状	自然	-	
160	C 4 c5	N - 30° - W	楕円形	0.26 × 0.67	22	緩斜	平坦	人為	-	SK161 → 本跡
162	B 2 j8	-	円形	1.00 × 0.98	6 ~ 10	緩斜・外傾	凸凹	-	-	
163	B 2 j7	N - 45° - E	楕円形	1.03 × 0.60	34	緩斜・外傾	平坦	自然	-	
165	C 2 a7	N - 52° - W	楕円形	1.54 × 0.60	24	外傾	平坦	自然	-	SK167 · FP4 → 本跡
169	B 2 i0	N - 48° - E	楕円形	0.82 × 0.55	6	緩斜	平坦	-	-	

### (3) 溝跡 (第 88 図・付図)

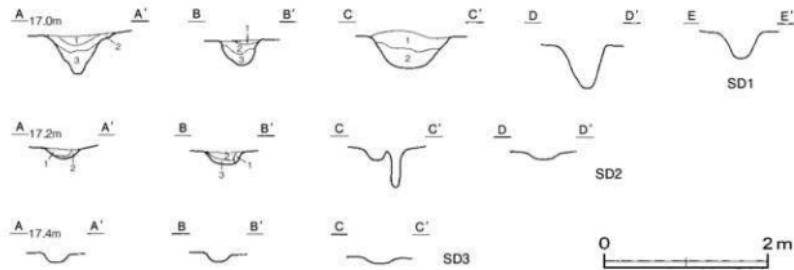
時期・性格ともに不明な溝跡 3 条については、規模・形状等について実測図と一覧表を掲載する。

第 1 号溝跡土層解説

- 1 白褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 炭化粒子中量、ローム粒子微量
- 3 黄褐色 ロームブロック少量

第 2 号溝跡土層解説

- 1 白褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 棕褐色 ロームブロック中量、燒土粒子少量
- 3 明褐色 ロームブロック多量



第88図 第1~3号溝跡実測図

表8 その他の溝跡一覧表

番号	位 置	方 向	形状	規 模 (m)				覆土	断面形	出土遺物	備 考 重複関係 (古→新)
				長さ	上幅	下幅	深さ				
1	C 2e4 ~ C 2g9	N - 74° - W	直線状 (209)	0.28 ~ 1.22	0.04 ~ 0.44	0.26 ~ 0.52	人馬	U字状	縄文土器	本跡 → SK10	
2	C 2b0 ~ C 3d2	N - 12° - E N - 73° - W	屈曲 (27.7)	0.30 ~ 0.55	0.15 ~ 0.28	0.08 ~ 0.15	人馬	逆台形	-	SI 19 → 本跡	
3	C 3b1 ~ C 3d7	N - 73° - W	直線状	2.76	0.22 ~ 0.45	0.06 ~ 0.24	0.09 ~ 0.11	-	浅いU字状	-	本跡 → SK70

#### (4) ピット群

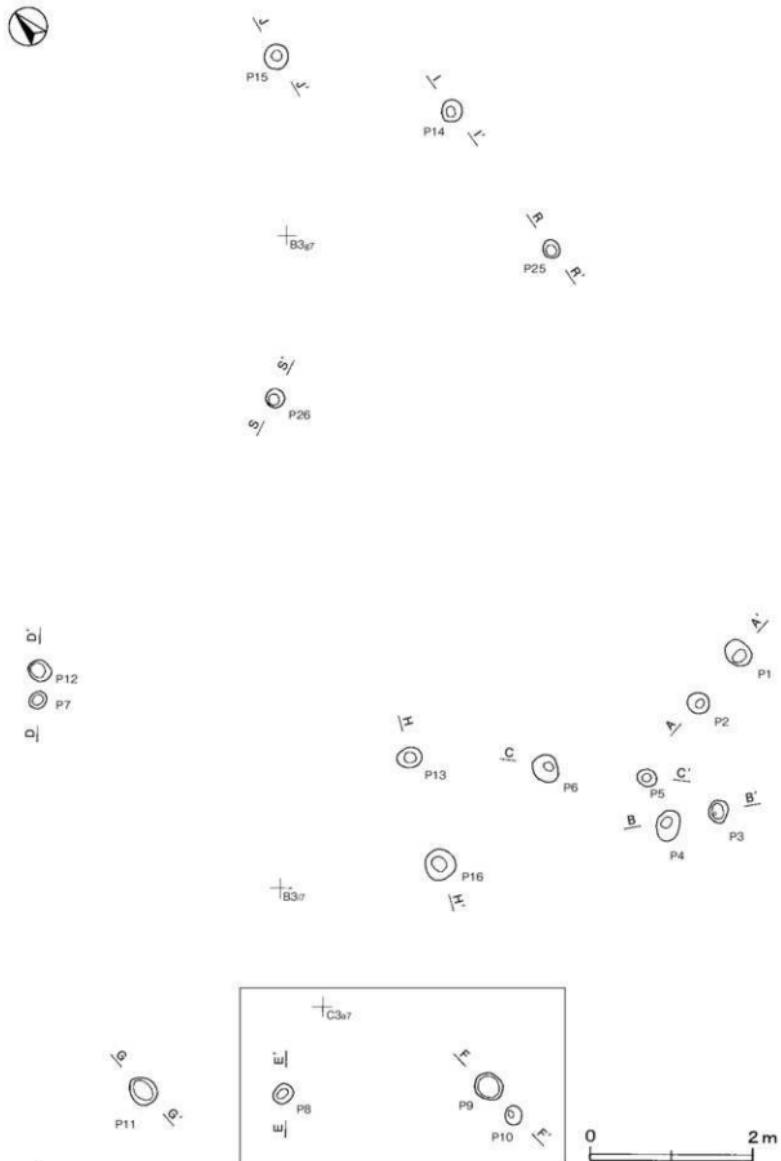
今回の調査で、ピット群が9か所確認できた。いずれのピット群も明確に建物跡を想定できず、また伴出する出土遺物がないことから、時期を決定することもできない。ここではピット一覧表と平面図をそれぞれ記載する。

#### 第1号ピット群（第89・90図）

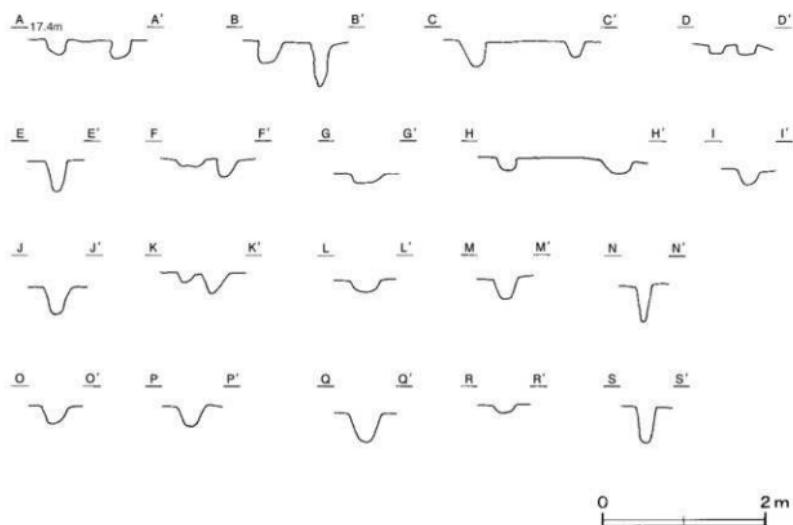
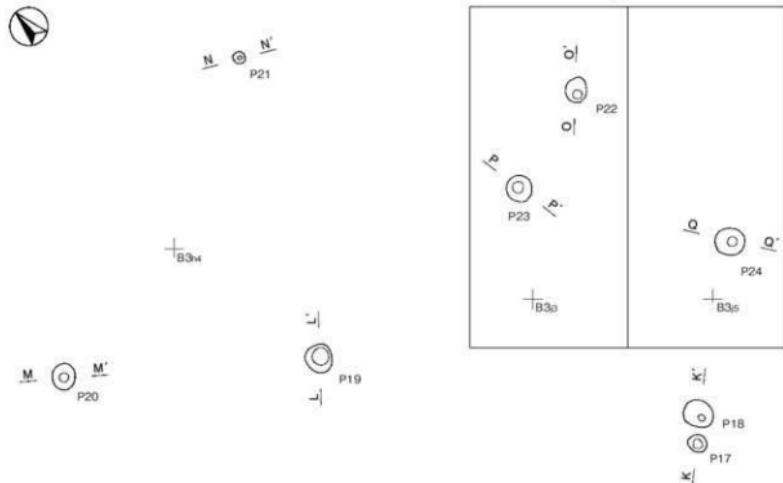
調査区中央部北寄りのB 3f6 ~ B 3h5区にかけての東西28m、南北24mの範囲から、柱穴状のピット26か所を確認した。平面形は長径16~39cmの円形または楕円形で、深さが10~52cmである。覆土中から縄文土器片が出土している。時期・性格ともに不明である。

表9 第1号ピット群 ピット一覧表

番号	位置	形狀	規 模 (cm)			番号	位置	形狀	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	B 3h8	楕円形	32	28	24	14	B 3f7	円形	27	25	19
2	B 3h8	円形	28	26	18	15	B 3h6	楕円形	30	26	34
3	B 3h8	楕円形	28	24	52	16	B 3h7	円形	38	37	19
4	B 3h8	楕円形	38	28	28	17	B 3h5	楕円形	24	21	12
5	B 3h8	円形	25	22	20	18	B 3h5	楕円形	39	35	29
6	B 3h7	円形	35	32	34	19	B 3h4	円形	35	32	15
7	B 3h6	楕円形	22	19	12	20	B 3h3	円形	32	29	26
8	C 3a6	円形	24	23	38	21	B 3g4	円形	16	15	48
9	C 3a7	楕円形	34	30	10	22	B 3z3	楕円形	30	26	20
10	C 3a7	円形	22	21	24	23	B 3z2	円形	33	31	29
11	B 3f6	楕円形	39	31	11	24	B 3z5	円形	36	34	37
12	B 3h6	楕円形	27	24	13	25	B 3g7	円形	22	21	13
13	B 3h7	楕円形	30	24	14	26	B 3g6	円形	25	24	46



第89図 第1号ピット群実測図(1)



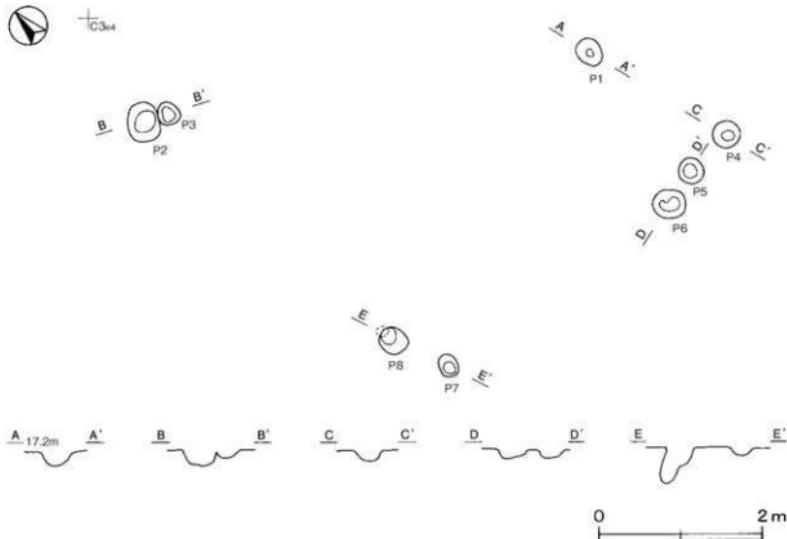
第90図 第1号ピット群実測図 (2)

### 第2号ピット群（第91図）

調査区中央部南寄りのC 3e4～C 3f5区にかけての東西8m、南北8mの範囲から、柱穴状のピット8か所を確認した。平面形は長径28～48cmの円形または楕円形で、深さが8～42cmである。時期・性格ともに不明である。

表10 第2号ピット群 ピット一覧表

番号	位置	形状	規格(cm)			番号	位置	形状	規格(cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	C 3e5	楕円形	36	30	18	5	C 3e5	円形	31	30	10
2	C 3e4	楕円形	48	38	20	6	C 3e5	円形	39	38	12
3	C 3e4	円形	28	26	10	7	C 3f5	楕円形	28	23	8
4	C 3e5	円形	34	33	12	8	C 3f4	楕円形	37	30	42



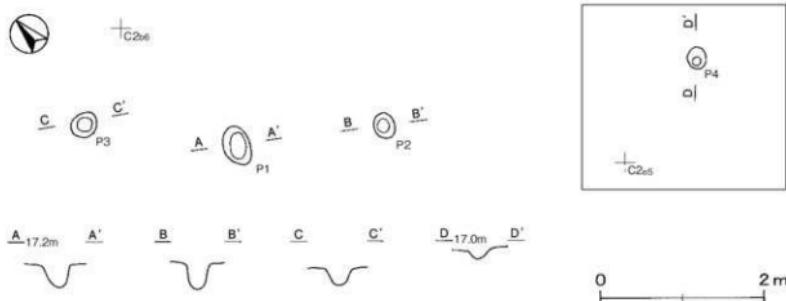
第91図 第2号ピット群実測図

### 第3号ピット群（第92図）

調査区西部南寄りのC 2b5～C 2d5区にかけての東西8m、南北12mの範囲から、柱穴状のピット4か所を確認した。平面形は長径28～48cmの円形または楕円形で、深さが14～31cmである。時期・性格ともに不明である。

表11 第3号ピット群 ピット一覧表

番号	位置	形状	規格(cm)			番号	位置	形状	規格(cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	C 2b6	楕円形	48	32	28	3	C 2b6	楕円形	35	29	23
2	C 2b6	楕円形	31	25	31	4	C 2d5	楕円形	28	25	14



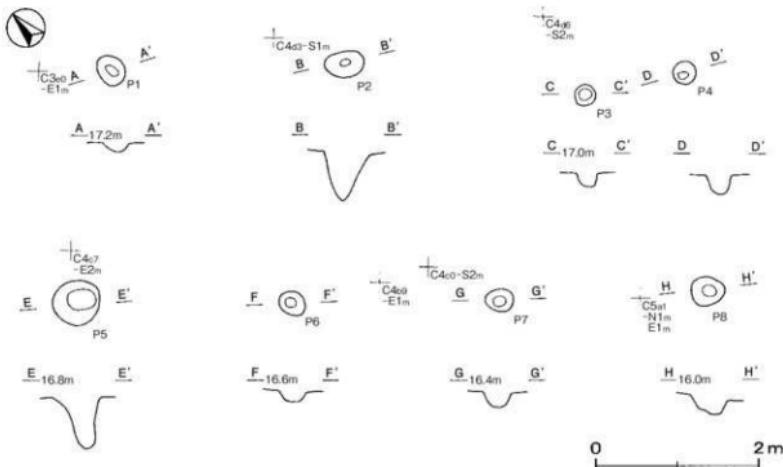
第92図 第3号ピット群実測図

#### 第4号ピット群（第93図）

調査区東部南寄りのC 3 d0～B 5 j1区にかけての東西36m、南北24mの範囲から、柱穴状のピット8か所を確認した。平面形は長径27～58cmの円形または椭円形で、深さが12～60cmである。覆土中から繩文土器片、土師器片が出土している。時期・性格ともに不明である。

表12 第4号ピット群 ピット一覧表

番号	位置	形状	規模(cm)			番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	C 3 d0	椭円形	38	30	12	5	C 4 c7	円形	58	54	58
2	C 4 d3	椭円形	48	31	60	6	C 4 b8	椭円形	34	29	13
3	C 4 d6	円形	27	26	18	7	C 4 c0	椭円形	34	28	19
4	C 4 d6	円形	28	28	25	8	B 5 j1	椭円形	40	38	23



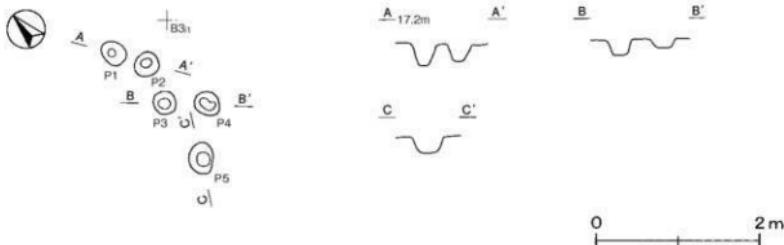
第93図 第4号ピット群実測図

### 第5号ピット群（第94図）

調査区中央部北寄りのB 210～B 311区にかけての東西8m、南北4mの範囲から、柱穴状のピット5か所を確認した。平面形は長径28～39cmの円形または梢円形で、深さが10～28cmである。覆土中から縄文土器片が出土している。時期・性格ともに不明である。

表13 第5号ピット群 ピット一覧表

番号	位置	形状	規模(cm)			番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	B 210	梢円形	32	28	28	4	B 311	円形	32	30	10
2	B 210	円形	30	30	21	5	B 311	梢円形	39	29	19
3	B 210	円形	28	28	20						



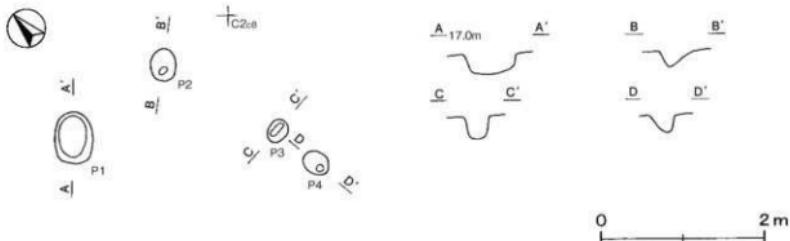
第94図 第5号ピット群実測図

### 第6号ピット群（第95図）

調査区西部のC 2c7～C 2c8区にかけての東西8m、南北4mの範囲から、柱穴状のピット4か所を確認した。平面形は長径29～66cmの円形または梢円形で、深さが20～29cmである。時期・性格ともに不明である。

表14 第6号ピット群 ピット一覧表

番号	位置	形状	規模(cm)			番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	C 2c7	梢円形	66	46	25	3	C 2c8	梢円形	29	23	29
2	C 2c7	梢円形	40	30	20	4	C 2c8	梢円形	33	25	22



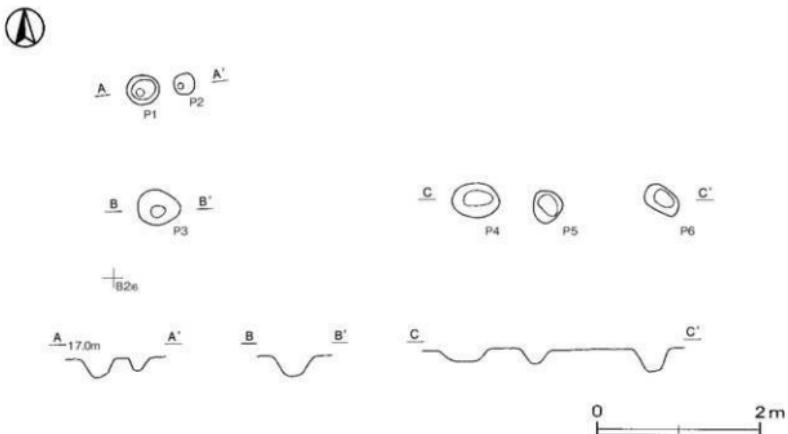
第95図 第6号ピット群実測図

### 第7号ピット群（第96図）

調査区西部のB 2h6～B 2h7区にかけての東西8m、南北4mの範囲から、柱穴状のピット6か所を確認した。平面形は長径25～58cmの円形または椭円形で、深さが13～29cmである。覆土中から縄文土器片が出土している。時期・性格ともに不明である。

表15 第7号ピット群 ピット一覧表

番号	位置	形状	規格(cm)			番号	位置	形状	規格(cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	B 2h6	椭円形	39	35	24	4	B 2h7	椭円形	58	40	13
2	B 2h6	円形	25	24	16	5	B 2h7	椭円形	40	36	17
3	B 2h6	椭円形	50	44	25	6	B 2h7	椭円形	44	30	29



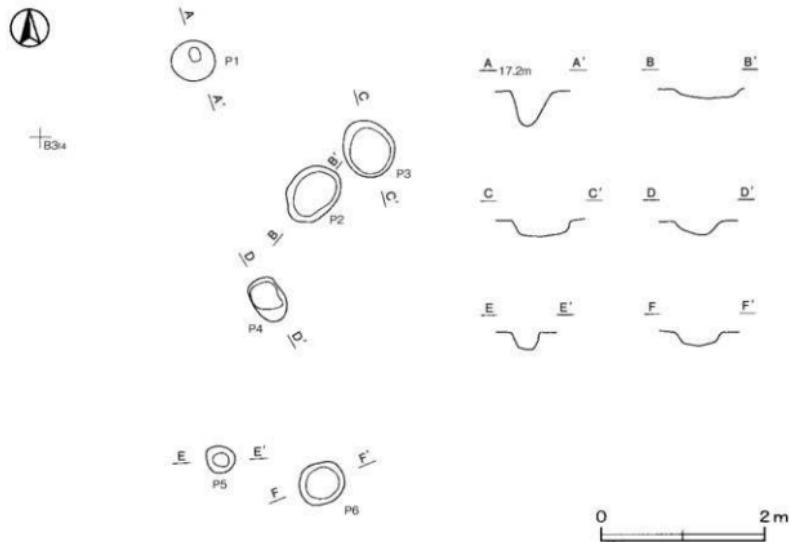
第96図 第7号ピット群実測図

### 第8号ピット群（第97図）

調査区中央部のB 3e4～B 3g4区にかけての東西8m、南北12mの範囲から、柱穴状のピット6か所を確認した。平面形は長径34～70cmの円形または椭円形で、深さが10～44cmである。覆土中から縄文土器片や剥片が出土している。時期・性格ともに不明である。

表16 第8号ピット群 ピット一覧表

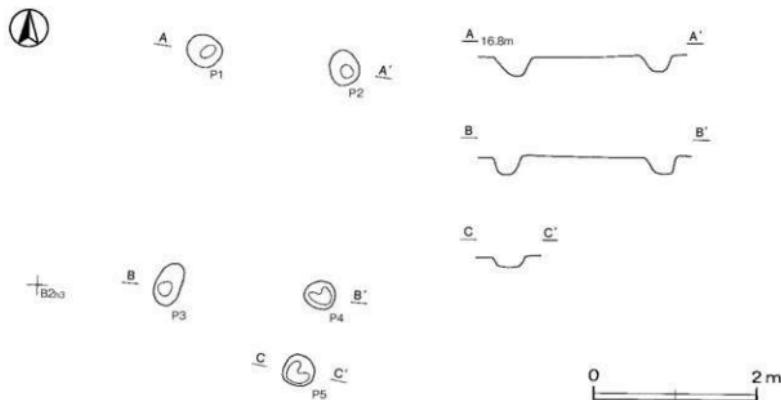
番号	位置	形状	規格(cm)			番号	位置	形状	規格(cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	B 3e4	円形	52	50	44	4	B 3f4	椭円形	57	40	15
2	B 3f4	椭円形	68	59	10	5	B 3g4	円形	34	34	24
3	B 3f4	椭円形	70	62	18	6	B 3g4	椭円形	58	52	17



第97図 第8号ピット群実測図

#### 第9号ピット群（第98図）

調査区北西部寄りのB 3g3～B 2h3区にかけての東西4m、南北8mの範囲から、柱穴状のピット5か所を確認した。平面形は長径37～53cmの円形または稍円形で、深さが13～24cmである。覆土中から縄文土器片が出土している。時期・性格ともに不明である。



第98図 第9号ピット群実測図

表17 第9号ピット群 ピット一覧表

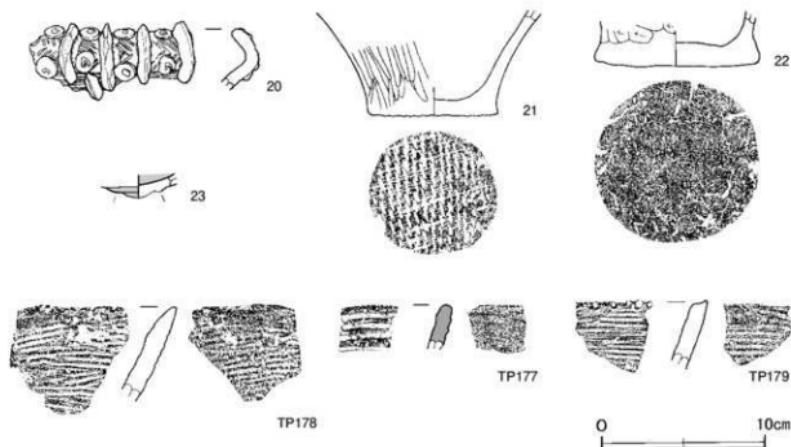
番号	位置	形状	規模(cm)			番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	B 2 g3	楕円形	44	39	24	4	B 2 h3	円形	37	35	21
2	B 2 g3	楕円形	42	37	21	5	B 2 h3	円形	40	38	13
3	B 2 g3	楕円形	53	34	24						

表18 ピット群一覧表

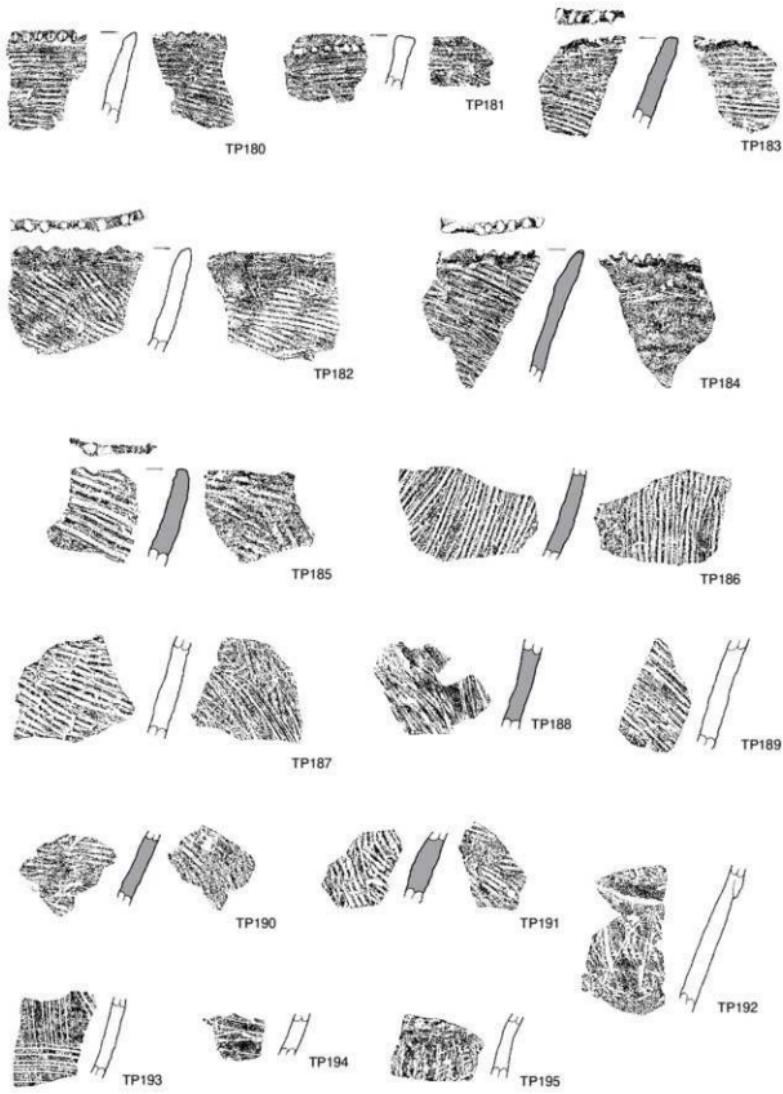
番号	位置	穴数	平面形	規模(cm)			主な遺物		
				長径	短径	深さ			
1	B 3 b5 ~ B 3 h5	26	円形、楕円形	16~39	15~37	10~52	縄文土器		
2	C 3 e4 ~ C 3 f5	8	円形、楕円形	28~48	23~38	8~42			
3	C 2 b5 ~ C 2 d5	4	円形、楕円形	28~48	25~32	14~31			
4	C 3 d0 ~ B 5 j1	8	円形、楕円形	27~58	26~54	12~60	縄文土器、土師器		
5	B 2 b0 ~ B 3 i1	5	円形、楕円形	28~39	28~30	10~28	縄文土器		
6	C 2 c7 ~ C 2 e8	4	円形、楕円形	29~66	23~46	20~29			
7	B 2 h6 ~ B 2 h7	6	円形、楕円形	25~58	24~44	13~29	縄文土器		
8	B 3 e4 ~ B 3 g4	6	円形、楕円形	34~70	34~62	10~44	縄文土器、調片		
9	B 3 g3 ~ B 2 h3	5	円形、楕円形	37~53	34~39	13~24	縄文土器		

## (5) 遺構外出土遺物(第99~104図)

遺構に伴わない遺物のうち、特徴的なものを実測図と遺物観察表で記述する。

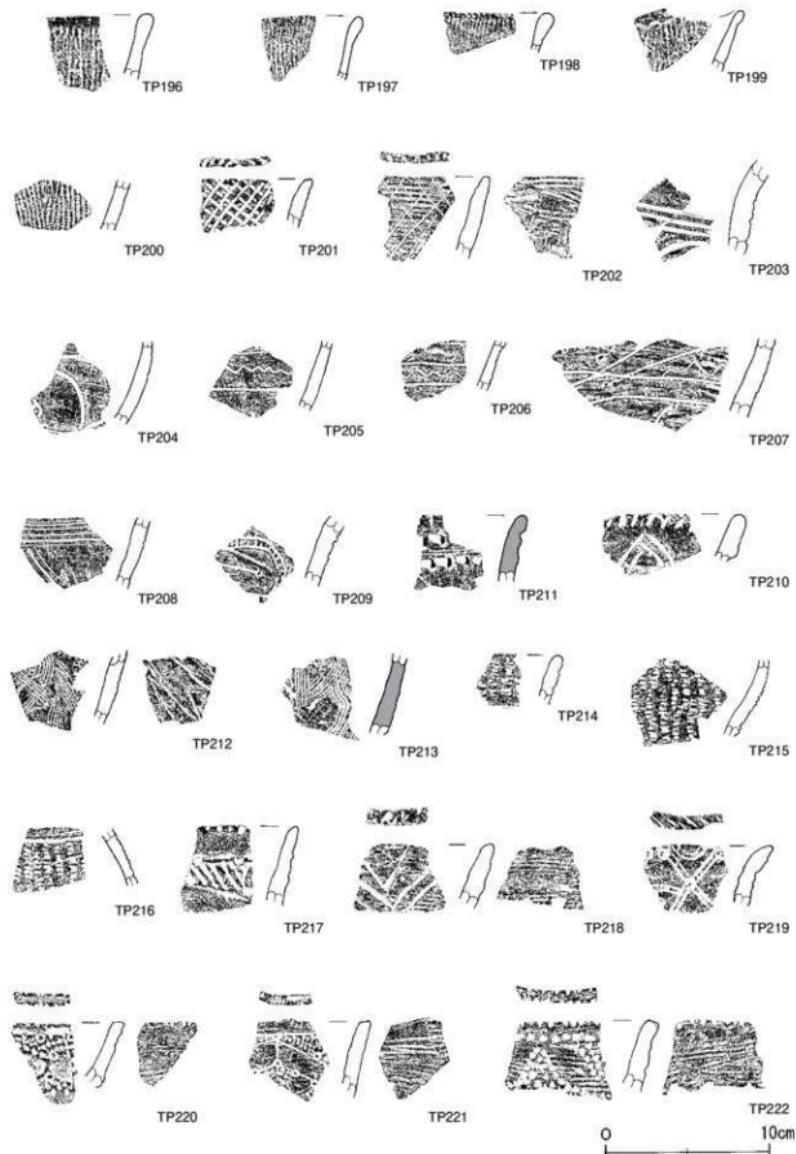


第99図 遺構外出土遺物実測図(1)

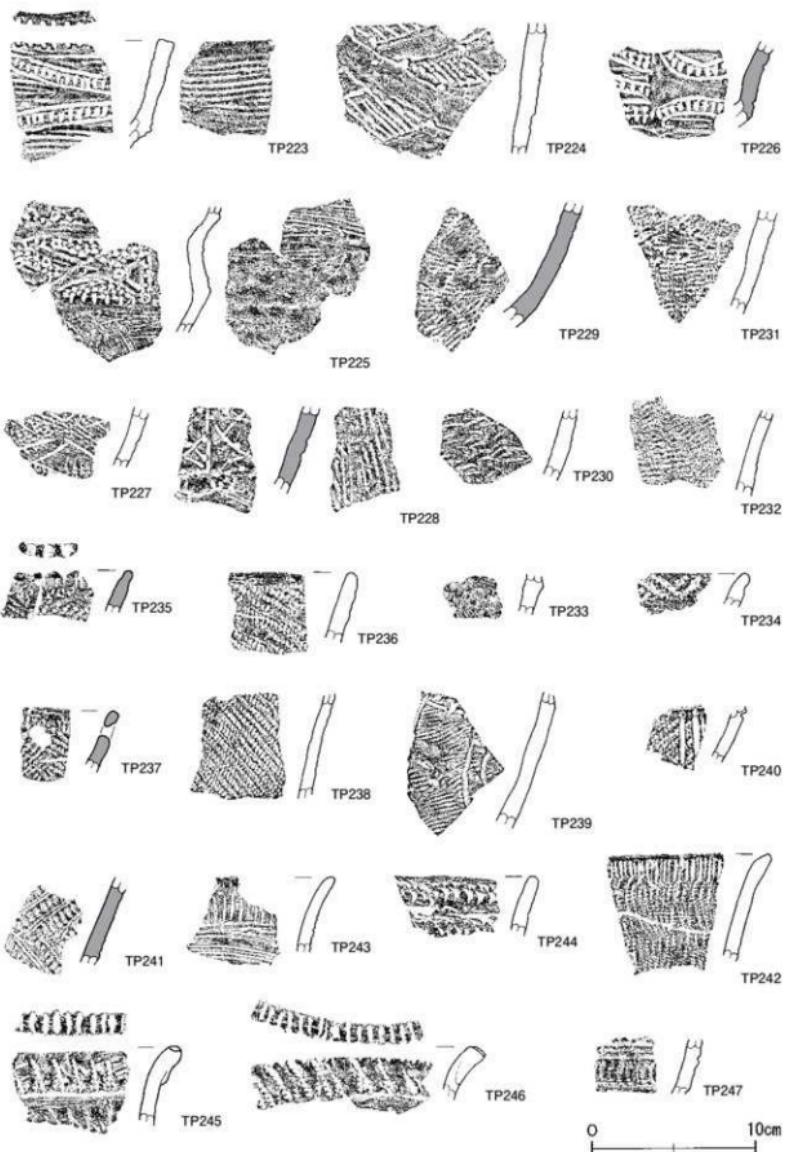


0 10cm

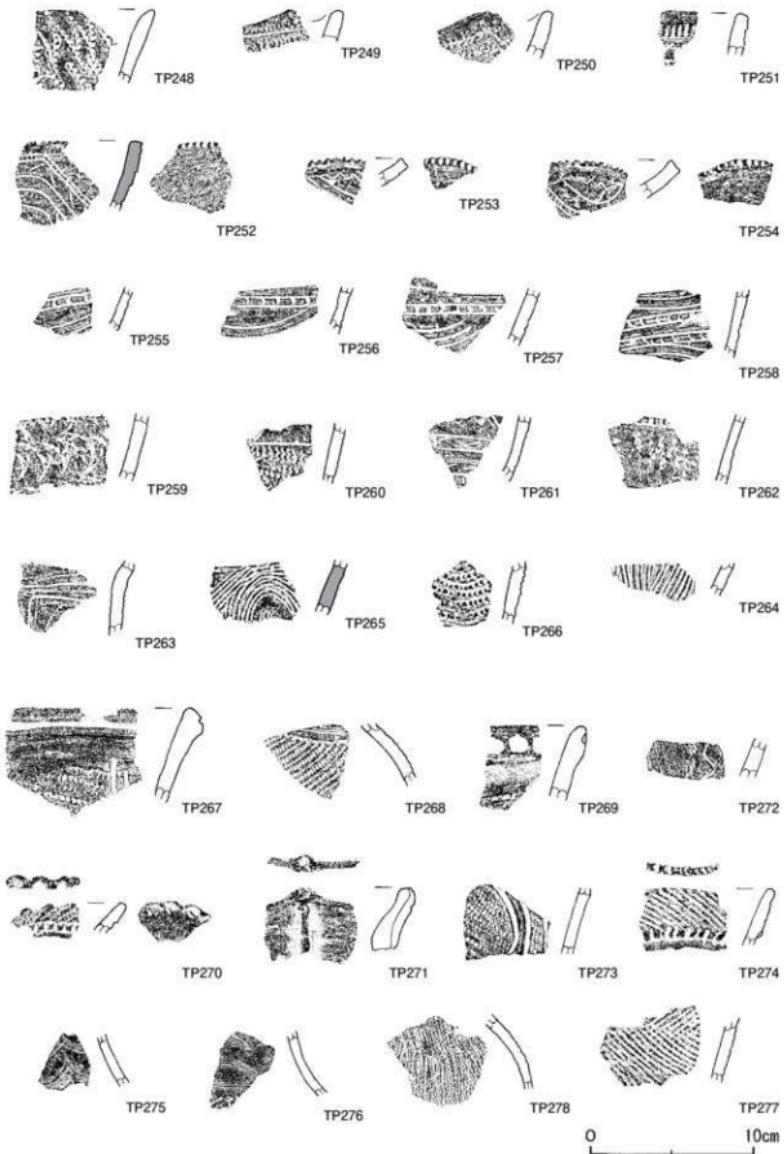
第100図 遺構外出土遺物実測図(2)



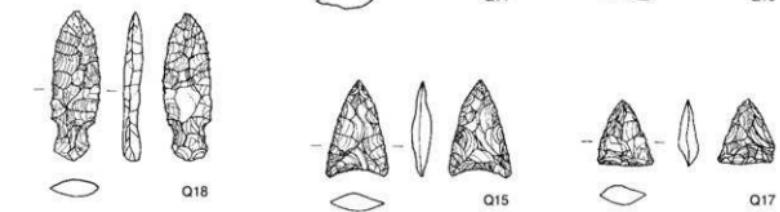
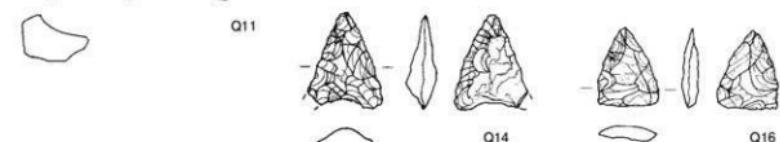
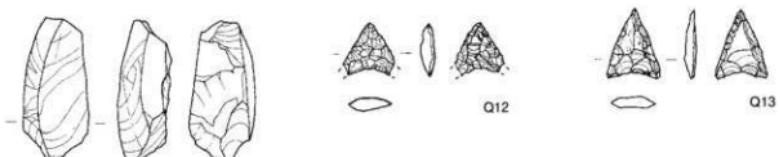
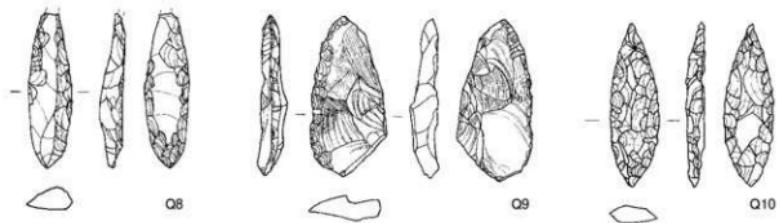
第101図 遺構外出土遺物実測図(3)



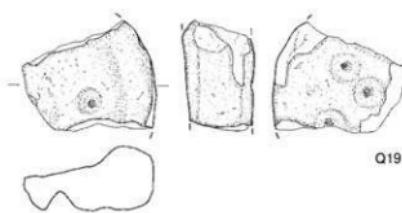
第102図 遺構外出土遺物実測図(4)



第103図 遺構外出土遺物実測図(5)



0 3cm



0 10cm

第104図 遺構出土遺物実測図(6)

遺構外出土遺物観察表（第 99 ~ 104 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎	土	色調	焼成	手法・文様の特徴ほか	時期	備考
20	縄文土器	深鉢	-	(4.7)	-	長石・石英、赤色粒子	にぶい 黄橙	普通	口縁部集合沈縫を地文とし、縦位の隆帯を貼り付け、その間に小さなボタン状構造を2段目に貼り付けた	前期後半	5% PL28	
21	縄文土器	深鉢	-	(5.9)	7.8	長石・石英、赤色粒子	橙	普通	胴部ヘラ削き、底部組合組織圧痕	縄文時代	10% PL22	
22	縄文土器	深鉢	-	(3.4)	9.9	長石・赤色粒子	橙	普通	外面ヘラ削り、底部ナメ調整	縄文時代	10%	
23	土師器	高杯	-	(1.6)	-	長石	橙	普通	環部外・内面ヘラ削き	前期	5% 赤彩	
番号	種別	器種	胎	土	色調	焼成	文様の特徴ほか				備考	
TP77	縄文土器	深鉢	長石・石英、赤色粒子・織維	にぶい 黄橙	普通	口縁部外面部殷条痕文を地文にし、横位に沈縫を施文 内面且殷条痕文を施文				早期		
TP78	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい 橙	普通	口縁部外・内面且殷条痕文を施文				早期		
TP79	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい 橙	普通	口縁部上端キザミ外・内面且殷条痕文を施文				早期		
TP80	縄文土器	深鉢	長石・石英、赤色粒子	橙	普通	口唇部キザミ・口縁部外・内面且殷条痕文を施文				早期		
TP81	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい 黄橙	普通	口縁部キザミ・口縁部外・内面且殷条痕文を施文				早期		
TP82	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	口唇部キザミ・口縁部外・内面且殷条痕文を施文				早期		
TP83	縄文土器	深鉢	長石・石英、織維	にぶい 黄橙	普通	口唇部キザミ・口縁部外・内面且殷条痕文を施文				早期		
TP84	縄文土器	深鉢	長石・雲母、織維	にぶい 黄橙	普通	口唇部キザミ・口縁部外・内面且殷条痕文を施文				早期		
TP85	縄文土器	深鉢	長石・石英、赤色粒子・織維	橙	普通	口唇部キザミ・口縁部外・内面且殷条痕文を施文				早期		
TP86	縄文土器	深鉢	長石・石英、織維	橙	普通	胴部外・内面且殷条痕文を施文				早期		
TP87	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	胴部外・内面且殷条痕文を施文				早期		
TP88	縄文土器	深鉢	赤色粒子・織維	にぶい 黄橙	普通	胴部且殷条痕文を施文				早期		
TP89	縄文土器	深鉢	長石・石英、赤色粒子	橙	普通	胴部且殷条痕文を施文				早期		
TP90	縄文土器	深鉢	長石・赤色粒子・織維	にぶい 橙	普通	胴部外・内面且殷条痕文を施文				早期		
TP91	縄文土器	深鉢	長石・石英、織維	橙	普通	胴部外・内面且殷条痕文を施文				早期		
TP92	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	胴部折り返し且殷条痕文を地文とし、沈縫で山形文を施文				早期		
TP93	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	胴部且殷条痕文を地文とし、沈縫で山形文を施文				早期		
TP94	縄文土器	深鉢	長石・石英、赤色粒子	橙	普通	胴部沈縫文				早期		
TP95	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい 橙	普通	胴部且殷条痕文を地文とし	沈縫で山形文を施文			早期前半		
TP96	縄文土器	深鉢	長石・石英、雲母	にぶい 橙	普通	口縁部底位の熱糸文を施文				早期前半		
TP97	縄文土器	深鉢	長石・石英、雲母	橙	普通	口縁部底位の熱糸文を施文				早期前半		
TP98	縄文土器	深鉢	長石・石英、雲母	にぶい 橙	普通	口縁部底位の熱糸文を施文				早期前半		
TP99	縄文土器	深鉢	石英・長石・雲母	にぶい 橙	普通	口縁部底位の熱糸文を施文				早期前半		
TP100	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい 黄橙	普通	胴部熱糸文を施文				早期前半		
TP101	縄文土器	深鉢	赤色粒子	にぶい 黄橙	普通	口唇部キザミ・口縁部筋子状に沈縫を施文				早期後半		
TP102	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい 橙	普通	口唇部キザミ・口縁部外面部殷条痕文を地文とし、筋子状に沈縫を施文 内面且殷条痕文を施文				早期後半		
TP103	縄文土器	深鉢	長石・石英	明褐	普通	胴部中位に3条の沈縫を横位に施文 下位に山形文を施文				早期後半		
TP104	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にぶい 橙	普通	胴部且殷条痕文を地文とし、沈縫を施文				早期後半		
TP105	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい 黄橙	普通	胴部横位と波状の沈縫を施文				早期後半		
TP106	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	胴部横位と波状の沈縫を施文				早期後半		
TP107	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	胴部沈縫文を施文				早期後半		
TP108	縄文土器	深鉢	長石・石英、赤色粒子	橙	普通	胴部6本単位の沈縫を横位に施文後、3本単位以上の沈縫を斜位に施文				早期後半		
TP109	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	胴部平行沈縫と刺突文				早期後半		
TP110	縄文土器	深鉢	長石・石英、雲母	にぶい 橙	普通	口唇部キザミ・口縁部平行沈縫で山形文を施文				早期後半		
TP111	縄文土器	深鉢	長石・石英、赤色粒子	にぶい 橙	普通	口唇部キザミ・口縁部2段の棒状工具を用いた刺突文と横位の沈縫文を施文				早期後半		
TP112	縄文土器	深鉢	長石・石英	オリーブ	普通	胴部外側7本単位の細沈縫文を施文 内面且殷条痕文を施文				早期後半		

番号	種別	器種	胎	土	色調	焼成	文様の特徴ほか	備考
TP213	縄文土器	深鉢	長石・石英・織維	にぶい橙	普通		側部6本單位の沈綻を施文	早期後半
TP214	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色 粒子	にね 黄褐	普通		口縁部具絞条痕文を地文とし、刺突文を施文	早期後半
TP215	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色 粒子	明赤褐	普通		側部具絞条痕文を地文とし、棒状工具を用いた刺突文を施文	早期後半
TP216	縄文土器	深鉢	長石	にぶい褐	普通		側部具絞条痕文を地文とし、上位に平行沈綻文を横位に施文、中～下位に刺突文を施文	早期後半
TP217	縄文土器	深鉢	砂粒	橙	普通		口縁部前面にサザミ字～下位に絞条痕文により格子状に区画内に棒状工具を用いた沈綻文・刺突文を施文	早期後半
TP218	縄文土器	深鉢	長石・石英	にね 黄褐	普通		口縫部キザミ・口縁部背面に斜状に沈綻を施文後、区画内に横位の細沈綻を施文、内面に具絞条痕文を施文	早期後半
TP219	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐	普通		口縫部キザミ・口縁部正面半竹管状工具を用いた平行沈綻文により格子状・平円状に地文・竹管状工具を用いて刺突文を施文	早期後半
TP220	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にね 黄褐	普通		口縫部キザミ・口縁部外面部棒状工具を用いて刺突文的に刺突文を施文	早期後半
TP221	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にね 黄褐	普通		口縫部細孔原形印彌・口縁部前面に幾何学的文様を施文後、区画内に具絞条痕文を施文	早期後半
TP222	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にね 黄褐	普通		口縫部キザミ・口縁部外面部棒状工具を用いて刺突文的に刺突文を施文	早期後半
TP223	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色 粒子	にぶい橙	普通		口縫部細孔原形印彌・口縁部前面に幾何学的文様を地文とし、棒状工具を用いた刺突文を施文	早期後半
TP224	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通		側部長い細縫合部を施文・前面内に棒状工具を用いた刺突文を施文	早期後半
TP225	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	普通		側部長い細縫合部を施文・前面内に棒状工具を用いた刺突文を施文	早期後半
TP226	縄文土器	深鉢	長石・石英・織維	橙	普通		側部長い細縫合部を施文・前面内に棒状工具を用いた刺突文を施文	早期後半
TP227	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通		口縫部単節模文RLを地文とし、幾何学的な文様を沈綻で施文	早期後半
TP228	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色 粒子・織維	橙	普通		口縫部外面具絞条痕文を地文・絞縫起縦文と沈綻文・刺突文を用いた格子文を施文、内面に具絞条痕文を施文	早期後半
TP229	縄文土器	深鉢	長石・石英・織維	にぶい橙	普通		側部具絞背柱痕文を施文	早期後半
TP230	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にね 黄褐	普通		側部具絞背柱痕文を施文	早期後半
TP231	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通		側部具絞背柱痕文を施文	早期後半
TP232	縄文土器	深鉢	砂粒	にぶい橙	普通		側部具絞背柱痕文を施文	早期後半
TP233	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通		側部具絞背柱痕文を施文	早期後半
TP234	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通		口縫部単節模文を施文	前期
TP235	縄文土器	深鉢	砂粒・織維	にぶい褐	普通		口縫部キザミ・口縫部単節模文を施文	前期
TP236	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にね 黄褐	普通		口縫部単節模文RLを施文	前期
TP237	縄文土器	深鉢	雲母・織維	にね 黄褐	普通		口縫部単節模文を施文	前期 補修孔
TP238	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色 粒子	にね 黄褐	普通		側部単節模文RLを施文	前期
TP239	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色 粒子	にぶい褐	普通		側部単節模文RLを地文とし、沈綻文を施文	前期
TP240	縄文土器	深鉢	砂粒	赤色	普通		側部単節模文RLを地文とし、前縫の平行沈綻と竹管状工具を用いた刺突文を施文	前期
TP241	縄文土器	深鉢	砂粒・織維	にぶい褐	普通		側部直前段折りの縫文を施文	前期前半
TP242	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にね 黄褐	普通		口縫部対置の沈綻を施文・側部具絞縫文を施文	前期後半
TP243	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	にぶい橙	普通		口縫部上面位の沈綻文中～下位横位の沈綻文を施文	前期後半
TP244	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	灰黄褐	普通		口縫部折り返し具絞縫文を施文	前期後半
TP245	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通		口縫部キザミ・口縫部折り返し具絞縫文を施文	前期後半
TP246	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通		口縫部キザミ・口縫部折り返し具絞縫文を斜位に施文	前期後半
TP247	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通		側部上位2条の沈綻を施文中～下位具絞縫文を施文	前期後半
TP248	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にね 黄褐	普通		口縫部具絞縫文を施文	前期後半
TP249	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通		口縫部具絞縫文を施文後、沈經を施文	前期後半
TP250	縄文土器	深鉢	雲母	にぶい橙	普通		口縫部具絞縫文施文後、沈經を施文	前期後半
TP251	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通		口縫部具絞背柱痕文を施文後、横位に沈經を施文	前期後半
TP252	縄文土器	浅鉢	雲母・織維	にぶい橙	普通		口縫部外面半竹管状工具を用いた平行沈經と爪彫文・沈經文を施文 内面に土牛サザミ	前期後半
TP253	縄文土器	浅鉢	砂粒	橙	普通		口縫部キザミ・口縫部沈經文を施文	前期後半
TP254	縄文土器	浅鉢	雲母	にぶい橙	普通		口縫部キザミ・口縫部沈經文を施文	前期後半
TP255	縄文土器	深鉢	雲母	にね 黄褐	普通		側部半截竹管を用いた平行沈經と爪彫文を施文	前期後半

番号	種別	器種	胎 土	色調	焼成	文 様 の 特 徴 は か	備考
TP256	縄文土器	深鉢	長石・石英	にね 黄橙	普通	胴部半裁竹管を用いた平行沈線と爪形文を施文	前期後半
TP257	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	胴部半裁竹管を用いた平行沈線と爪形文を施文	前期後半
TP258	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にね 黄橙	普通	胴部半裁竹管を用いた平行沈線と爪形文を施文	前期後半
TP259	縄文土器	深鉢	石英・長石・赤色 粒子	にね 橙	普通	胴部貝殻模様文を施文	前期後半
TP260	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にね 橙	普通	胴部貝殻模様文と横位の沈線文を施文	前期後半
TP261	縄文土器	深鉢	長石・石英	にね 橙	普通	胴部平行沈線と山形沈線文を施文	早期後半
TP262	縄文土器	深鉢	長石	橙	普通	胴部貝殻模様文を施文後、横位の沈線文を施文	前期後半
TP263	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	胴部沈線文と貝殻模様文を施文	前期後半
TP264	縄文土器	深鉢	石英・長石・赤色 粒子	にね 橙	普通	胴部半裁竹管を用いた集合沈線文を施文	前期後半
TP265	縄文土器	深鉢	長石・石英・織維	にね 橙	普通	胴部3~6本単位の沈線文を施文	早期後半
TP266	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	胴部半裁竹管を用いた押引文を施文	前期後半
TP267	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	口縁部横位の大沈線文を施文 胎部単節縄文RLを施文後、縱位の沈線文を施文	中期カ
TP268	縄文土器	深鉢	石英	橙	普通	胴部上位3条以上の沈線文を横位に施文。中~下位に単節縄文 LRを施文	中期カ
TP269	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にね 橙	普通	口縁部円形刺突文を施文	
TP270	縄文土器	浅鉢	長石・石英	橙	普通	口縫部キザミ、口縁部外面上に撚り糸文を施文 液状に隆起を貼り付け 内面刺突文を施文	後期カ
TP271	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にね 黄橙	普通	口縁部隆起貼り付け後、竹管状工具を用いて刺突文を施文	後期前半
TP272	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色 粒子	にね 橙	普通	胴部磨き後縱位の沈線文を施文	後期前半
TP273	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色 粒子	にね 橙	普通	胴部沈線により区画 区画内を単節縄文 RL を施文	後期前半カ
TP274	弥生土器	壺	長石・雲母	灰黄褐	普通	口沿部礎原文型体押し、口縁部折り返し 附加条一種(附加2条) の縄文を施す下端縄文型体押し	後期後半
TP275	弥生土器	壺	雲母	黒褐	普通	頭部3~8本の橢圓状工具を用いた連弧文を2段に施文	後期後半
TP276	弥生土器	壺	長石・石英	橙	普通	頭部右本単位の橢圓状工具を用いた2段の連弧文と下位に横 走文を施文	後期後半
TP277	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にね 橙	普通	体部附加状一種(附加2条)の縄文を羽状に施文	後期後半
TP278	弥生土器	壺	長石・石英	にね 黄橙	普通	体部撚系文を施文	後期後半

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石 質	特 徴	備考
Q 8	ナイフ形石器	(4.7)	14	0.6	(4.12)	チャート	両縁調整 先端部欠損	PL28
Q 9	ナイフ形石器	4.9	23	0.9	7.9	黒曜石	片縁調整	
Q 10	尖頭器	5.0	15	0.55	4.38	珪質頁岩	押圧剥離による両面調整	PL28
Q 11	石核	4.4	20	1.6	15.3	チャート	観長削片石核	
Q 12	石鏃	(16)	(16)	0.4	(0.68)	チャート	押圧剥離による両面調整 四基無茎鏃 一部欠損	PL28
Q 13	石鏃	2.1	16	0.4	1.02	チャート	押圧剥離による両面調整 四基無茎鏃	PL28
Q 14	石鏃	2.9	(23)	0.9	(3.42)	チャート	押圧剥離による両面調整 四基無茎鏃 一部欠損	PL28
Q 15	石鏃	2.9	19	0.6	2.18	チャート	押圧剥離による両面調整 平基無茎鏃	PL28
Q 16	石鏃	2.4	19	0.5	2.16	チャート	押圧剥離による両面調整 平基無茎鏃	PL28
Q 17	石鏃	2.0	17	0.6	1.28	チャート	押圧剥離による両面調整 平基無茎鏃	PL28
Q 18	石匙	4.5	15	0.6	3.84	チャート	押圧剥離による両面調整	PL28
Q 19	凹石	(6.8)	(8.3)	4.3	(17.36)	安山岩	全面研磨 四隅4か所	PL28

## 第4節 まとめ

### 1 はじめに

今回の調査で、縄文時代早期・前期の住居跡と炉穴、炉跡、土坑、弥生時代後期の住居跡、古墳時代前期の土坑などを確認した。ここでは、確認した遺構や遺物から当遺跡の変遷を追い、また縄文時代の炉穴や、弥生時代の出土土器や焼失住居について詳細に資料を整理し、分析を行っていきたい。

### 2 遺跡の変遷

#### (1) 縄文時代（第105・106図参照）

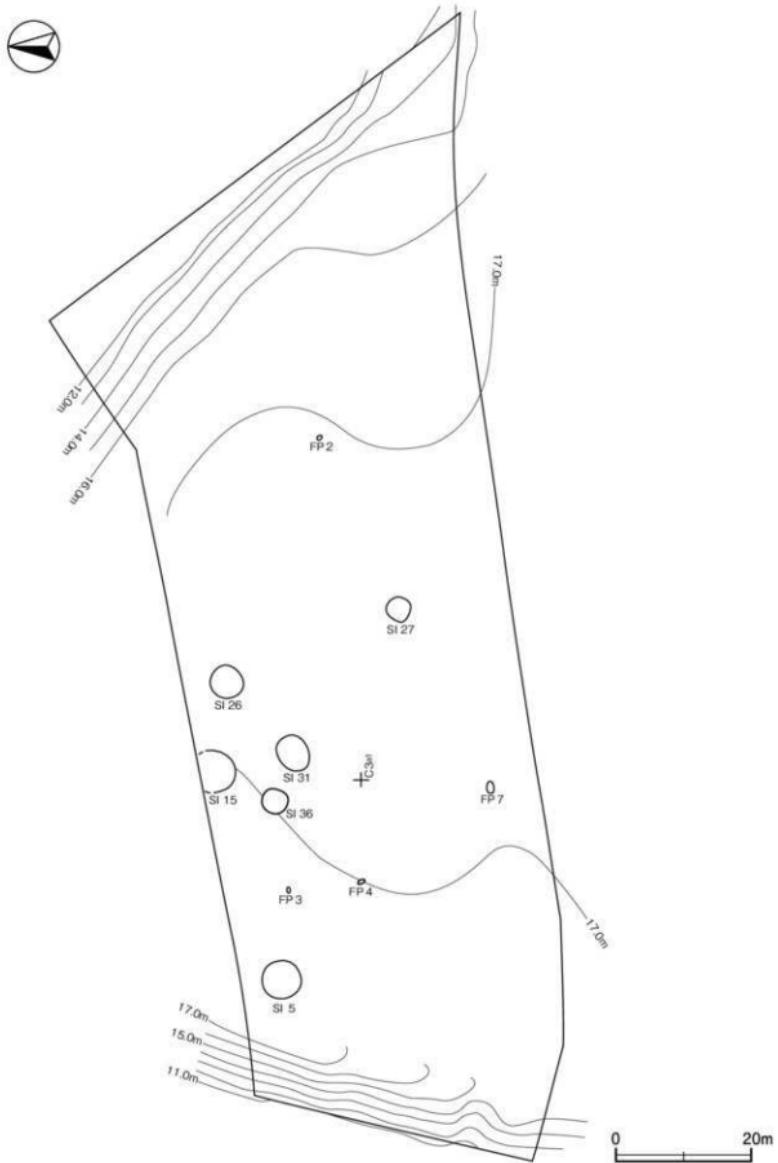
当時代の遺構は住居跡12軒、炉穴7基、炉跡4基、土坑71基を確認した。時期は、主に早期と前期である。早期の遺構は住居跡6軒、炉穴が4基などである。住居跡からは、主に早期後半の鶴ヶ島台式期の土器片が出土している。炉穴は、第7号炉穴から撫糸文系土器片1点が出土し、ほかには貝殻条痕文が施文された細片が出土しているだけで、時期を絞り込むことが困難である。前期の住居跡は6軒確認できた。そのうち前半に比定できる関山式期の土器片が出土している住居跡が3軒、後半に比定できる浮島式期の土器片が出土している住居跡が1軒である。ほかは出土土器片が細片のため、時期を明確にできなかった。出土遺物は土器片が多く、石製品や土製品などは、ほとんど出土していない。土器もそのほとんどが深鉢で、器種の組成に乏しい。石器は、チャートや黒曜石を素材として、石鏨・尖頭器・石匙などが出土している。中期から晩期にかけての遺構は、後期の土坑1基が確認されただけである。遺構の分布を見てみると、早期の住居跡が北に延びる舌状台地の中央部から北西部に展開しているのに対し、前期の住居跡は台地中央部から東部に広がっている。また、早期の炉穴は舌状台地西部の一群と東部の一群に分かれている。このほかに、後期の土坑や、遺構に伴わない出土土器片の中には中期から後期のものも含まれているため、調査区域外の北部の舌状台地先端部や南部には、他時期の遺構群の存在が想定できる。

#### (2) 弥生時代（第107図参照）

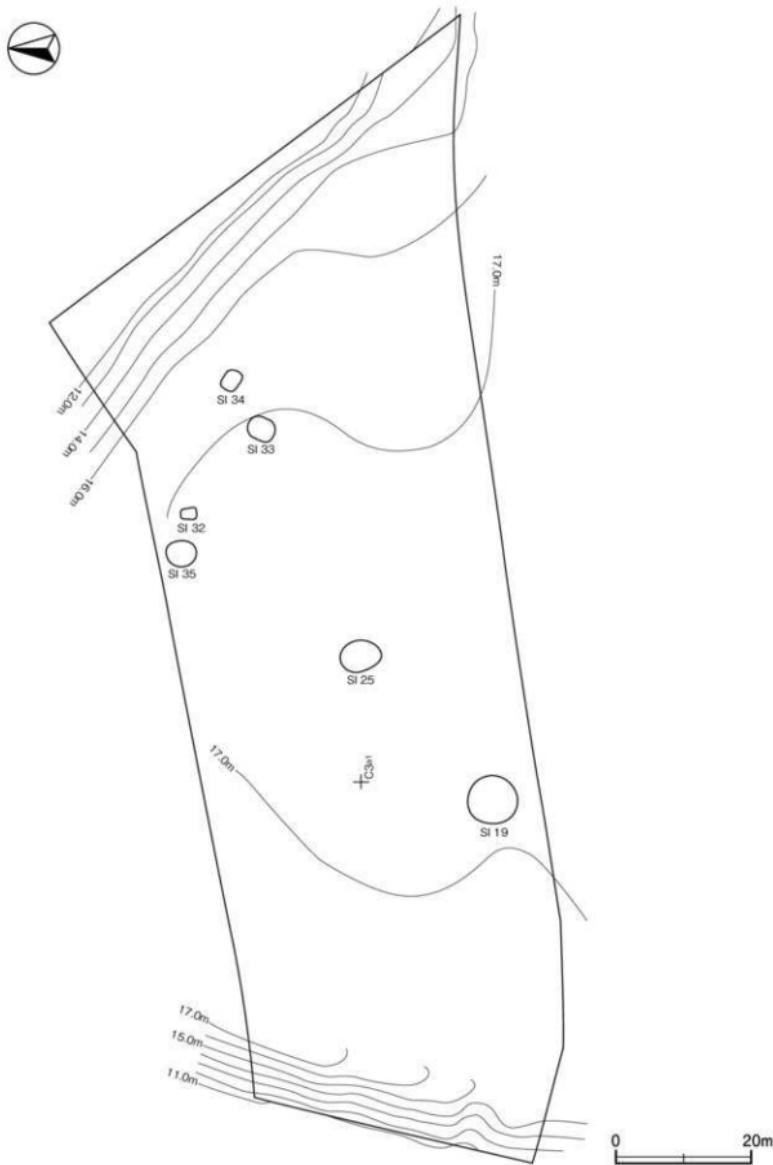
当時代の遺構は、住居跡24軒を確認した。時期は、出土土器から後期後半と考えられる。出土土器の多くは破片で、壺形土器がそのほとんどを占めている。ほかに土製品として紡錘車1点、石器・石製品として石鏨2点、磨石1点、石核1点などが出土している。出土土器を観察すると、口縁部に段を有し、段の下端に繩文原体の押捺を施し、頭部に撫箋状工具を用いた文様を施文するか、または無文帯にし、胴部に繩文を斜状、または羽状に施文する文様描出技法を行っているものが多く、主に茨城県西部から栃木県にかけて分布する土器の特徴を備えているものである。住居跡の多くは、焼失した痕跡が確認でき、また、住居跡の壁外に柱穴を有すると考えられるものも多く確認された。住居跡の分布は、舌状台地北西部と北東部の2グループに分けられる。

#### (3) 古墳時代

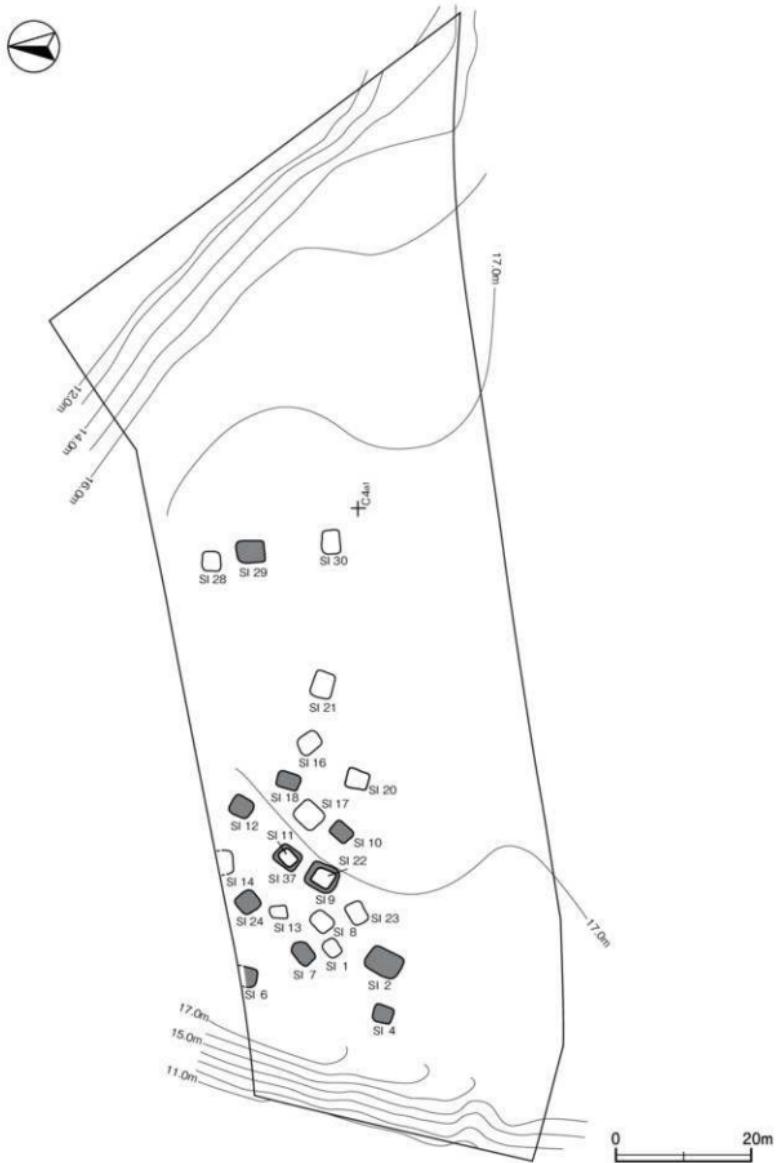
当時代の遺構は、土坑1基を確認した。時期は、出土土器から前期前半に埋め戻されたと考えられる。出土土器は土器器群の破片1点のみである。調査区北西部に位置しており、他の遺構が確認されていないため、性格は不明である。弥生時代後期後半まで集落が展開していたが、この時期になると他へ移動したものと考えられる。当期以降、近世まで調査区域内に入々の生活の痕跡を見つけることはできなかった。



第105図 遺構変遷図（縄文時代早期）



第106図 遺構変遷図（縄文時代前期）



第107図 遺構変遷図（弥生時代後期） ■…焼失住跡

#### (4) 近世以降

当時代の遺構は、井戸跡1基を確認した。時期は、出土土器から19世紀代に埋め戻されたものと考えられる。出土遺物は、益子焼の土瓶1点のみである。井戸跡は調査区南東部の台地平坦部に位置しているが、同時代の他の遺構が確認出来なかったことから、性格は不明である。

### 3 繩文時代の炉穴について

繩文時代の炉穴については、1938年に千葉県飛ノ台貝塚の調査において初めて認識される。その際、杉原莊介氏により、「爐部と足場とを有する楕円形の凹穴一個が本體なのである」<sup>1)</sup>という定義付けがなされ、主に関東地方を中心に調査・研究がなされてきた。また、九州地方・鹿児島県加栗山遺跡において、2つの土坑がトンネル状の横穴で連結した土坑が発見され、「連結土坑」という名称で報告されている<sup>2)</sup>。現在この炉穴と連結土坑は、その機能的な類似性を指摘されている。今回の調査においては7基確認でき、遺物を伴うものは早期に比定でき、ほかも前期には収まるものと考えられる。今回検出した遺構について詳細な観察を行い、その性格の一端を明らかにできればと思う。

#### (1) 炉穴の分類

炉穴の基本的な構造として、煙出部・煙道部・開口部に分けてつくられている<sup>3)</sup>。当遺跡から検出された炉穴の平面プランは楕円形であり、本来存在したと思われる天井部が後世の削平のため、失われてしまい、全体像を明らかにすることはできなかった。そのため、遺存している火床部（爐部）と足場の関係を見てみたいと思う。基本的に、火床部は火を焚くことによって火を受けた場所であり、煙道部の底面・煙出部の一部の焼土範囲である。足場は開口部底面で火を焚く際に人が立ったり、しゃがんだりすることによってできた場所である。この際、足場は多少なりとも硬化すると考えられるが、今回の調査においては硬化面の有無は確認できなかった。各炉穴の内容を確認していくと、火床部は円形または楕円形を呈し、火熱をよく受けたらしく、焼土の層が厚く堆積している。足場の平面プランの形状は様々で、設置当初はある程度意識的に設計したと思われるが、使用するにつれ変形していったと考えられ、現状では不定型なものになっている。断面形は主に2種類の形状があり、

- ① 足場が火床面と同じ高さに位置するもの
- ② 火床面より低い場所に位置するもの

が存在する。①は第1・2・5・6号炉穴で、②は第3・7号炉穴である。第4号炉穴は足場が削平されているため不明である。

#### (2) 炉穴の用途

炉穴の用途として、薫製施設・煮沸施設・土器焼成など様々な機能性が主張されてきた。今回の調査においては、それら機能を推し量ることのできる遺物の出土や、状況を見出すことはできなかった。前出の断面形の違いによる使用目的の違いなども可能性はあるが、明確な答えは今のところ出てこない。今後の課題としては、覆土の築い出しによる遺存物の抽出など、その性格の絞り込みに努めるべきである。

### (3) 炉穴の分布

今回出土した炉穴は調査区域内で2グループに分けることができる。一つは台地西部の5基（第3～7号炉穴）で、もう一つは台地東部の2基（第1・2号炉穴）である。周辺には同時期の住居跡も点在し、第6・7号炉穴は前期の第19号住居跡と重複している。ただし、炉穴同士の重複は無く、周囲に散在している状態である。他地域の炉穴などは、比較的密集してつくられることが多く、前出の飛ノ台貝塚（千葉県）や山田大塚遺跡<sup>47)</sup>（神奈川県）、田中谷津遺跡（東京都）などは一か所に5、6基の炉穴が重なった状態で確認されている。本県においても、常陸伏見遺跡においては前期の炉穴が密集してつくられている。これらには時期差があり、一か所に継続的につくられている。また、本跡のような炉穴が単独で点在するタイプの遺跡もあり、多摩ニュータウンNo241遺跡・No309遺跡（東京都）などや、本県では原遺跡<sup>53)</sup>（谷和原村）や殿門遺跡<sup>54)</sup>（守谷町）などがある。これら①密集するタイプの炉穴と②点在するタイプの炉穴を斎藤進氏は①=群集型、②=散在型に分類し、一定地域内に①と②が存在する場合、双方が有機的な関連を持ち、①は拠点的な使用を、②は移動に伴う使用を想定している<sup>7)</sup>。当跡の場合、②のタイプに該当すると考えられる。

以上のことから、早期初頭から前期後半にかけての間、この地に狩りや漁などのために小さな集団が移動してきて、一時的に簡単な住居をつくり、炉穴を設置して生活していたと考えられる。

## 4 弥生土器の分類

今回の調査では、弥生土器片261点が出土し、そのうち観察に耐えられる82点を取り上げた。出土した土器の多くは破片であり、その全体像を明らかにできるものは残念ながらほとんど無かった。前述したような文様構成をとる土器がほとんどであり、二軒屋式と呼ばれる土器形式の範疇に入るものと考えられる。ここでは、出土した土器の文様構成を観察し、その詳細を明らかにしていきたいと思う。

### (1) 各部位の施文法

A 口唇部：縄文原体を押圧しているもの（TP107・TP108・TP122～TP124・TP137・TP149・TP153・TP169・TP170・TP274）が主体である。

B 口縁部：口縁部は、その形状から複合口縁と複合口縁を意識した口縁、普通の口縁の3種に分類できる。施文については、口唇部から頭部の間に施文した一群と無文の一群がある。後者については、TP144のみである。前者については、附加条一種（附加2条）の縄文を斜状に施文した一群（6・TP122～TP124など）と、羽状に施文した一群（TP137・TP170など）に分類できる。また、下端の施文法も縄文原体押圧（TP107・TP108・TP110など）と刺突文（TP109・TP115など）に分類でき、さらに1段のものと2段のものにも分類できる。

C 頭部：頭部は、無文帶のもの（TP117・TP118・TP122～TP125など）と、櫛齒状工具を用いたものに大別できる。後者は山形文、波状文、連弧文、横走文の四つの文様を1段、多くて3段に同じ文様を施文したもの（A：TP109・TP115・TP127・TP133 B：6・TP111・TP143・TP164 C：TP112・TP119～TP121・TP135など）と、他の文様を組み合わせて施文したもの（TP135・TP165・TP175・TP276など）がある。ただし、横走文は単独で用いられることはなく、他の文様の付属的な用い方をしている。

D 脇部：脇部の施文方法としては、附加条一種（附加2条）の縄文（TP129・TP134・TP140など）、撚糸文（TP148）、単節縄文（TP128・TP160）を斜状に施文した一群と、付加条一種（付加2条）の縄文を羽状に施文した一群（TP126・TP136・TP157など）に分けられる。撚糸文と単節縄文においては羽状の施文は見られなかった。

E 底部：底部は木葉痕施文（6・7・11・15・17）と、ヘラ削り調整（9・10）に分けることができる。

以上が当遺跡から出土している主な土器の施文方法である。出土した住居跡のうち、重複関係にある住居跡は4軒ある。第9号住居跡（新）と第22号住居跡（旧）、第37号住居跡（新）と第11号住居跡（旧）である。前者は脇部で附加条一種（附加2条）の縄文を第9号では斜位に施文を行い、第22号では羽状に施文を行っている。底部は外面の施文を第9号住居跡では附加条一種（附加2条）で行い、第22号住居跡では単節縄文で行っている。ともに木葉痕がつけられている。後者は脇部に附加条一種（附加2条）の縄文が羽状に施文されているものが、どちらの住居跡からも出土している。また脇部の附加条一種（附加2条）の縄文を斜位に施文するもの（旧）、羽状に施文するもの（新）ということで大雑把な分類も可能ではあるが、斜位の縄文土器片が羽状になる可能性もあるとすると、かなり曖昧さの残る方法であり、確実性に欠けると思われる。両者ともに重複関係にはあるが、出土土器も少なく、特徴的な施文法の変化をとらえることが出来なかつたため、これらの土器の時期差を明確にすることが出来なかつた。

## 5 弥生時代の焼失住居跡について

弥生時代に該当する住居跡は24軒であり、そのうち11軒の住居跡に火災の痕跡が残っている。焼土・炭化材が出土した住居跡を焼失住居と認定し、本文中で明示している。後期後半の集落においての焼失住居の割合は比較的多いが、当遺跡においてもその傾向を同様に見ることができる。ここでは各焼失住居跡の状況を観察し、その特徴をとらえたいと思う。

### (1) 焼失住居跡の状況

焼土や炭化材が床面から確認されたものを焼失住居跡と認定した。第2・6・7・9・10・11・12・18・24・29・37号住居跡である。24軒中11軒が焼失住居跡であり、45.8%の住居跡が火を受けていることとなる。また、堆積土層を観察してみると、人為的に埋め戻されている第9・11・24号住居跡のほかはレンズ状の堆積を示し、自然に埋まつたものと認識した。このことは、住居の廃絶時に火を放ち、その後すぐに埋め戻された住居（3軒）とそのまま遺棄された住居（8軒）の違いを表しているものと考えられる。

### (2) 焼失住居跡からの遺物の出土状況

垂直分布では、主に床面・覆土下層から出土しているのは第2・6・7・9・11・12・29号住居跡で、主に覆土中層・上層から出土しているのは第10・18・24・37号住居跡である。これらの遺物は、そのほとんどが破片であり、完全な形をとどめているのは第11号住居跡のDP1だけである。出土土器片のはほとんどは煤が付着し、被熱を受けている可能性のある土器片も出土している。また、平面分布では、明確な傾向というものを確認することはできなかつた。出土土器は完形品が皆無であり、出土位置にも明確な規則性が感じられないことなどから、後かたづけを行つたあと、不要品・破損品を住居内に残して火をかけた、または火をかけてから投げ捨てたという行為を想定することができる。

### (3) 焼失住居跡の分布（第107図参照）

確認された焼失住居跡は、台地北西部のグループで21軒中10軒、北東部のグループで3軒中1軒である。特に、北西部のグループでは、焼失住居跡と焼失していない住居跡が不規則に密集して存在している。

このことは、何らかの理由で弥生時代の人々はこの地から移動することとなり、やや大きめの住居に自ら火をかけて、不要になった日用雑器などは住居内に放置して、この地を離れたと考えられる。古墳時代前期の遺構が少ないことや、遺構外からの出土土器の中に古墳時代前期の土師器がごくわずかしか見られないことから、かなり離れた場所に移動したものと考えられる。『町史』によると、遺跡群の北部から当期の土師器片が出土していることが記されている<sup>8)</sup>ので、一部の人々は谷を越えて北部へ生活の場を移したこととも考えられる。

## 6 おわりに

弥生時代後期に人々が立ち去った後、古墳時代から中世までの遺構や遺物はほとんど確認できなかった。中世の長井戸城の出城として想定された「田向の城」の痕跡も今回の調査では確認するには至らなかった。近世以降に比定できる井戸跡の確認は、一時期この地に人が戻ってきたことを感じさせるが、その後、最近まで人の手が入ることがなかったことが、遺構や遺物が確認出来なかつたことに示されている。縄文時代や弥生時代においても、一時的な生活の場でしかなく、その後も生活の場所に選ばれることはなかった。

## 註

- 1) 杉原莊介ほか「下総飛ノ台貝塚調査報告」「考古学」10-4 1939年4月
- 2) 青木和憲ほか「加栗山遺跡・神ノ木山遺跡」「九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財報告」V 鹿児島県教育委員会 1981年3月
- 3) 小濱学「炉穴とその機能－形態特徴からのアプローチー」「縄文時代の考古学5 なりわい－食料生産の技術」同成社 2007年12月
- 4) 石井寛ほか「山田大塚遺跡」「港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告」XII 横浜市埋蔵文化財センター 1990年3月
- 5) 小高五十二 松浦敏「常磐新線建設工事地内埋蔵文化財調査報告書1 原遺跡 沼崎遺跡」「茨城県教育財团文化財調査報告」第112集 1996年3月
- 6) 茂木悦男「常磐新線及び主要地方道野田牛久線新設事業地内埋蔵文化財調査報告書 殿開遺跡」「茨城県教育財团文化財調査報告」第178集 2001年3月
- 7) 斎藤進「炉穴の時代」「研究論集X 創立10周年記念論文集」東京都埋蔵文化財センター 1991年3月
- 8) 境町史編さん委員会「下總境の生活史 史料編原始・古代・中世」境町 2004年3月

## 参考文献

- ・伊藤文彦「『煙道付炉穴』の再検討」「研究紀要」第18-1号 三重県埋蔵文化財センター 2009年3月
- ・岩上照朗「栃木県域の弥生時代後期」「弥生人のくらし－卑弥呼時代の北関東－」栃木県立なす風土記の丘資料館 1996年3月
- ・関口友紀「茨城県西部地域における弥生時代後期の土器について－櫻川中流域を中心として－」「茨城大学考古学研究室20周年記念論文集 日本考古学の基礎研究－茨城大学人文学部考古学研究報告－」第4冊 茨城大学人文学部考古学研究室 2001年3月

写 真 図 版



調査終了状況



遺跡全景（上空から）

PL 2



第5号住居跡  
完掘状況  
(南から)



第25号住居跡  
完掘状況  
(東から)

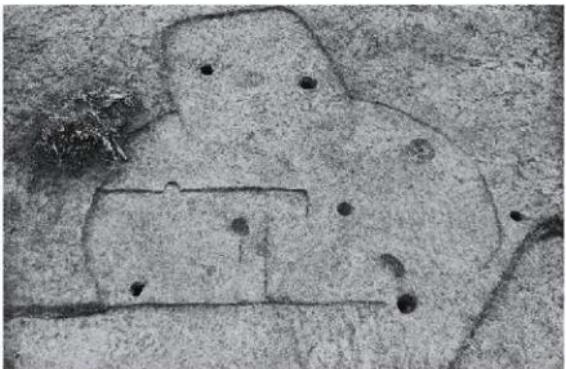


第27号住居跡  
遺物出土状況  
(北から)

第 27 号 住居跡  
完掘状況  
(西から)



第 31 号 住居跡  
完掘状況  
(北から)



第 32 号 住居跡  
完掘状況  
(北東から)





第33号住居跡  
遺物出土状況  
(南東から)



第34号住居跡  
完掘状況  
(南から)

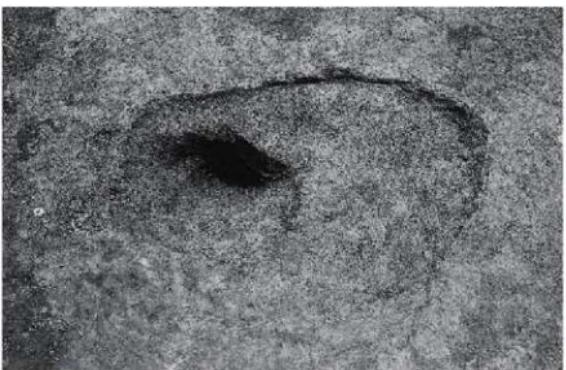


第35号住居跡  
完掘状況  
(南から)

第 1 号 炉 穴  
完 挖 状 況  
( 南 か ら )



第 2 号 炉 穴  
完 挖 状 況  
( 南 か ら )

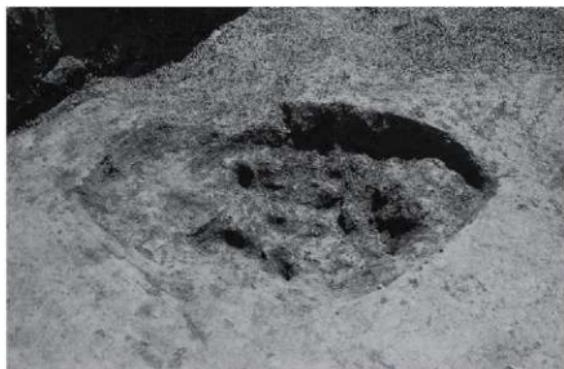


第 3 号 炉 穴  
完 挖 状 況





第165-167号土坑  
第4号炉穴  
完掘状況



第6号炉穴  
完掘状況  
(東から)

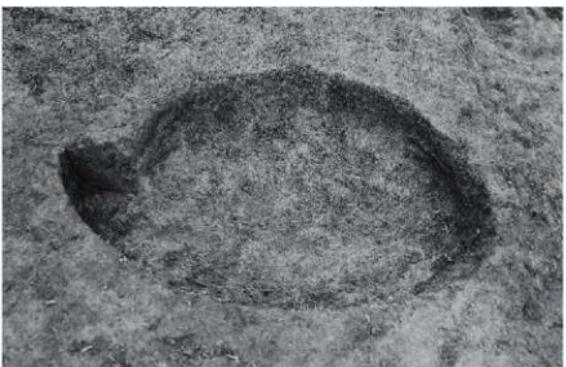


第7号炉穴  
焼土出土状況  
(北から)

第 2 号 炉 跡  
完 挖 状 況  
( 南 か ら )



第 3 号 炉 跡  
完 挖 状 況  
( 南 か ら )



第 28 号 土 坑  
遺 物 出 土 状 況





第 112 号 土 坑  
遺 物 出 土 状 況  
( 南 東 か ら )



第 1 号 住 居 跡  
遺 物 出 土 状 況



第 2 号 住 居 跡  
遺 物 出 土 状 況  
( 北 か ら )

第 2 号 住 居 跡  
完 挖 状 況  
( 北 か ら )



第 4 号 住 居 跡  
遺 物 出 土 状 況



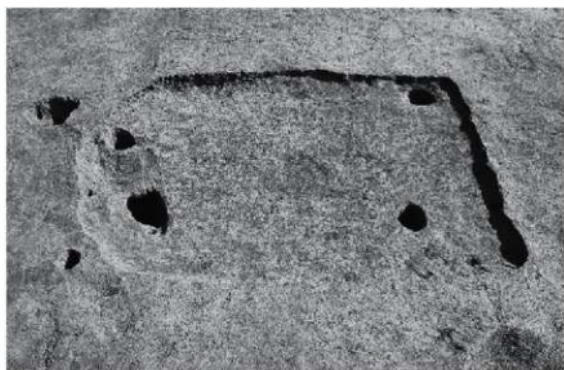
第 6 号 住 居 跡  
遺 物 出 土 状 況



PL 10



第 7 号 住 居 跡  
遺 物 出 土 状 況  
( 北 西 か ら )



第 7 号 住 居 跡  
完 挖 状 況  
( 北 西 か ら )



第 8 号 住 居 跡  
遺 物 出 土 状 況  
( 南 東 か ら )

第 8 号 住 居 跡  
完 堀 状 況



第 9 号 住 居 跡  
遺 物 出 土 状 況  
( 北 西 か ら )



第 9 号 住 居 跡  
完 堀 状 況  
( 東 か ら )

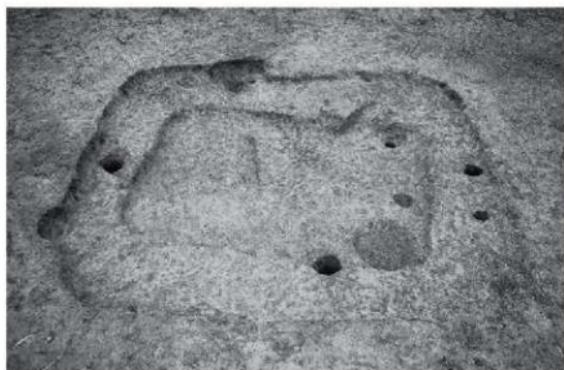




第10号住居跡  
完掘状況  
(南東から)



第11・37号住居跡  
遺物出土状況  
(北東から)



第11・37号住居跡  
完掘状況  
(南東から)

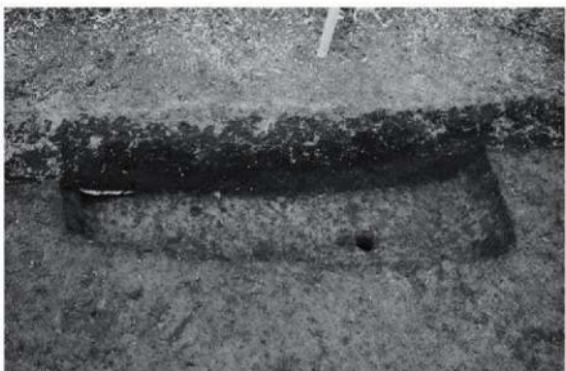
第 12 号 住 居 跡  
遺 物 出 土 状 況



第 14 号 住 居 跡  
遺 物 出 土 状 況  
( 南 東 か ら )

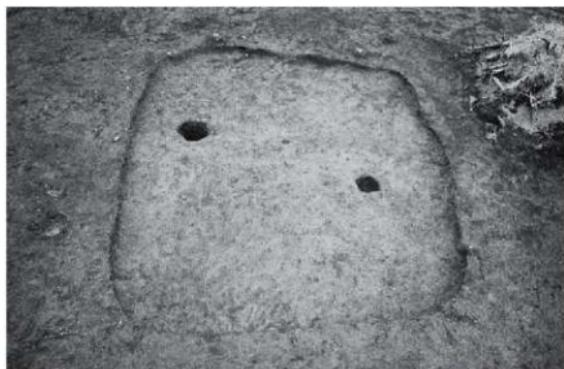


第 14 号 住 居 跡  
完 壕 状 況  
( 南 か ら )





第16号住居跡  
遺物出土状況  
(北から)

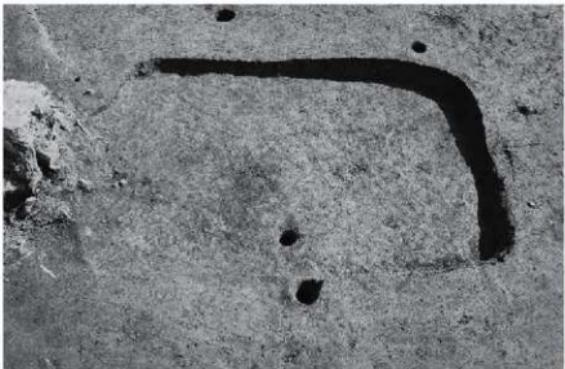


第16号住居跡  
完掘状況  
(南から)



第17号住居跡  
完掘状況  
(北西から)

第18号住居跡  
完掘状況  
(北西から)



第20号住居跡  
遺物出土状況  
(北東から)



第20号住居跡  
完掘状況  
(南東から)

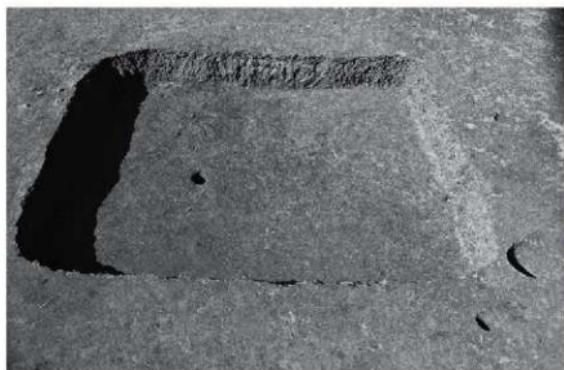




第21号住居跡  
遺物出土状況  
(南東から)



第21号住居跡  
遺物出土状況



第21号住居跡  
完掘状況  
(東から)

第 22 号 住 居 跡  
遺 物 出 土 状 況  
( 北 か ら )



第 22 号 住 居 跡  
遺 物 出 土 状 況  
( 西 か ら )



第 22 号 住 居 跡  
完 壕 状 況





第23号住居跡  
完掘状況  
(北西から)



第24号住居跡  
遺物出土状況  
(南西から)



第24号住居跡  
遺物出土状況  
(東から)

第24号住居跡  
完掘状況  
(東から)



第28号住居跡  
遺物出土状況  
(北東から)



第28号住居跡  
遺物出土状況  
(東から)

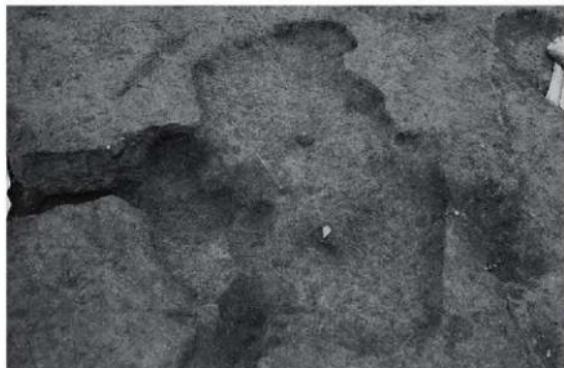




第29号住居跡  
遺物出土状況  
(北西から)



第29号住居跡  
完掘状況



第65号土坑  
遺物出土状況



第 1 号 井戸跡  
完 堀 状 況

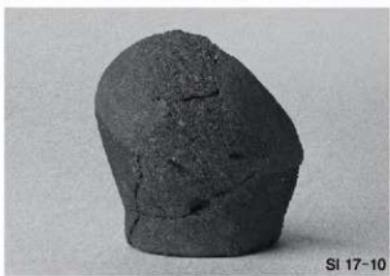


第 1 号 溝 跡  
完 堀 状 況  
( 北 西 か ら )

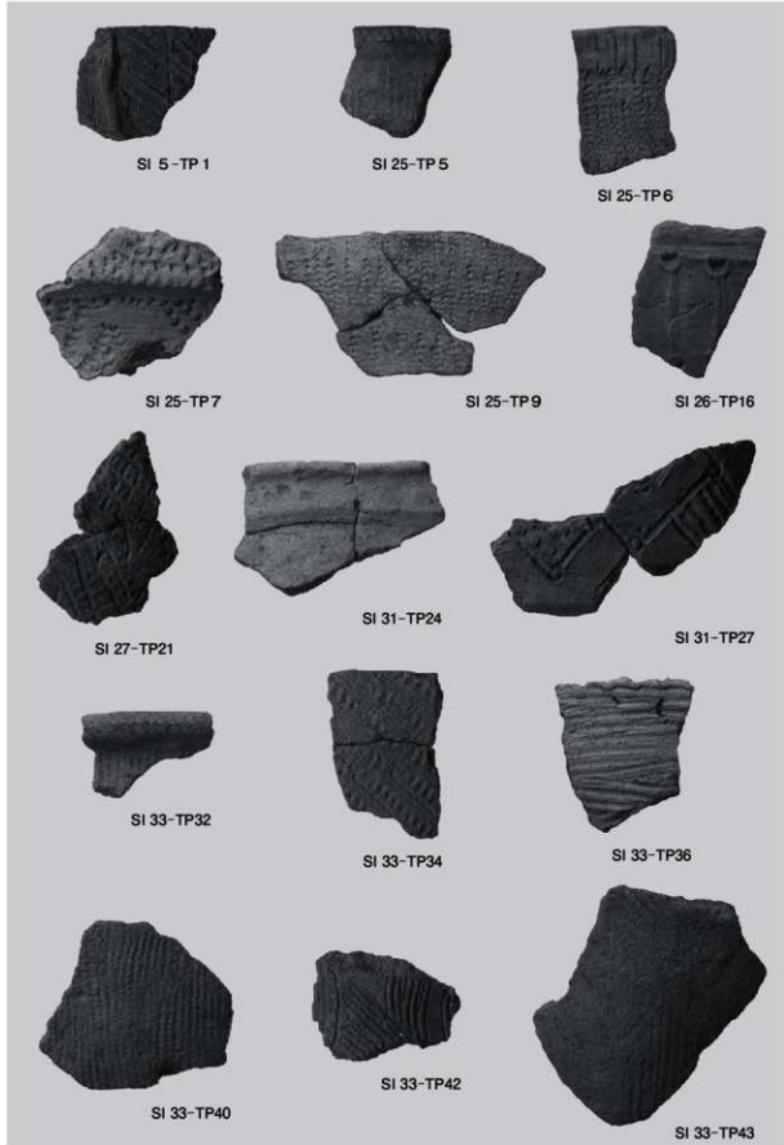


第 1 号 ピット群  
完 堀 状 況

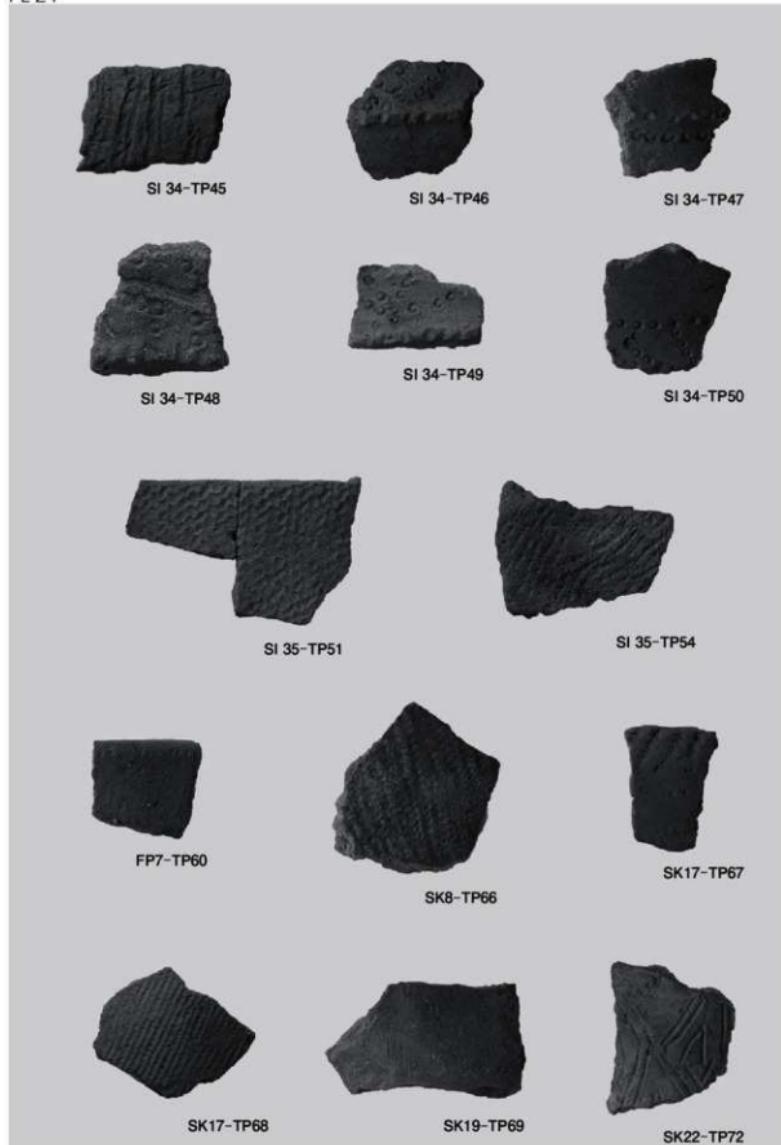
PL 22



第17·21·24·28号住居跡，第28号土坑，第1号井戸跡，遺構外出土遺物



第5·25·26·27·31·33号住居跡出土遺物



第34·35号住居跡、第7号炉穴、第8·17·19·22号土坑出土遺物



SK35-TP76



SK36-TP79



SK38-TP80



SK38-TP82



SK48-TP84



SK51-TP87



SK67-TP89



SK73-TP92



SK86-TP98



SK128-TP101



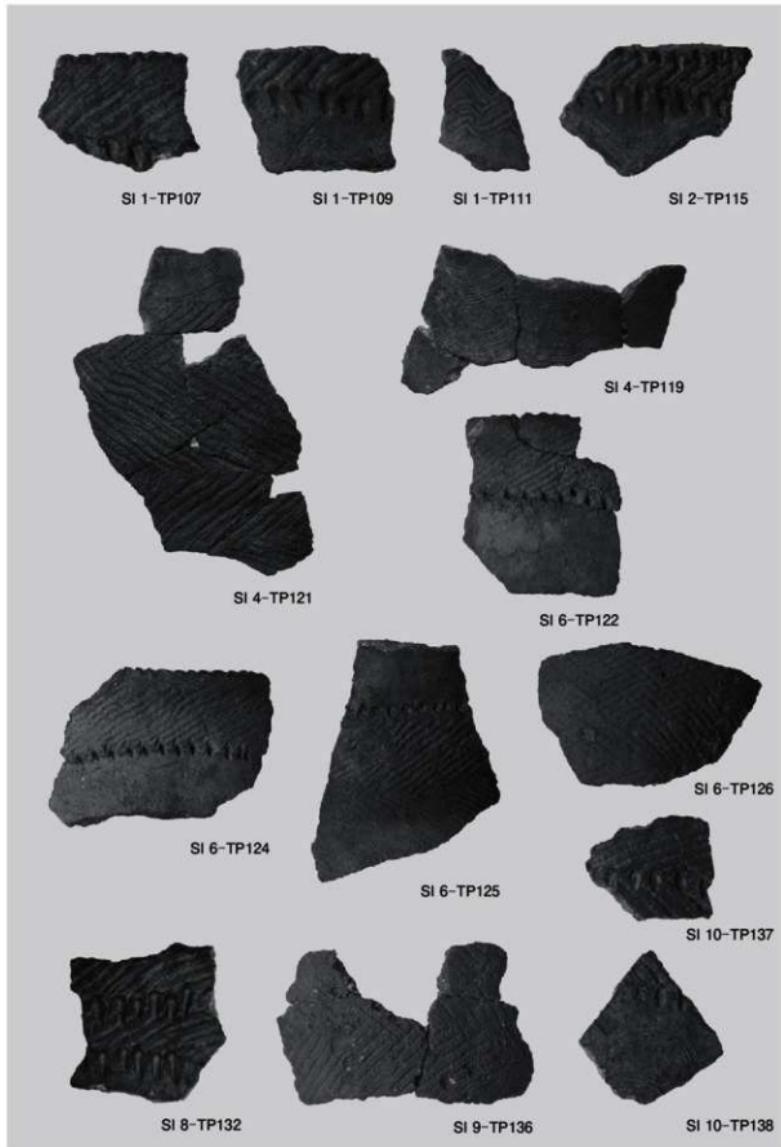
SK141-TP103



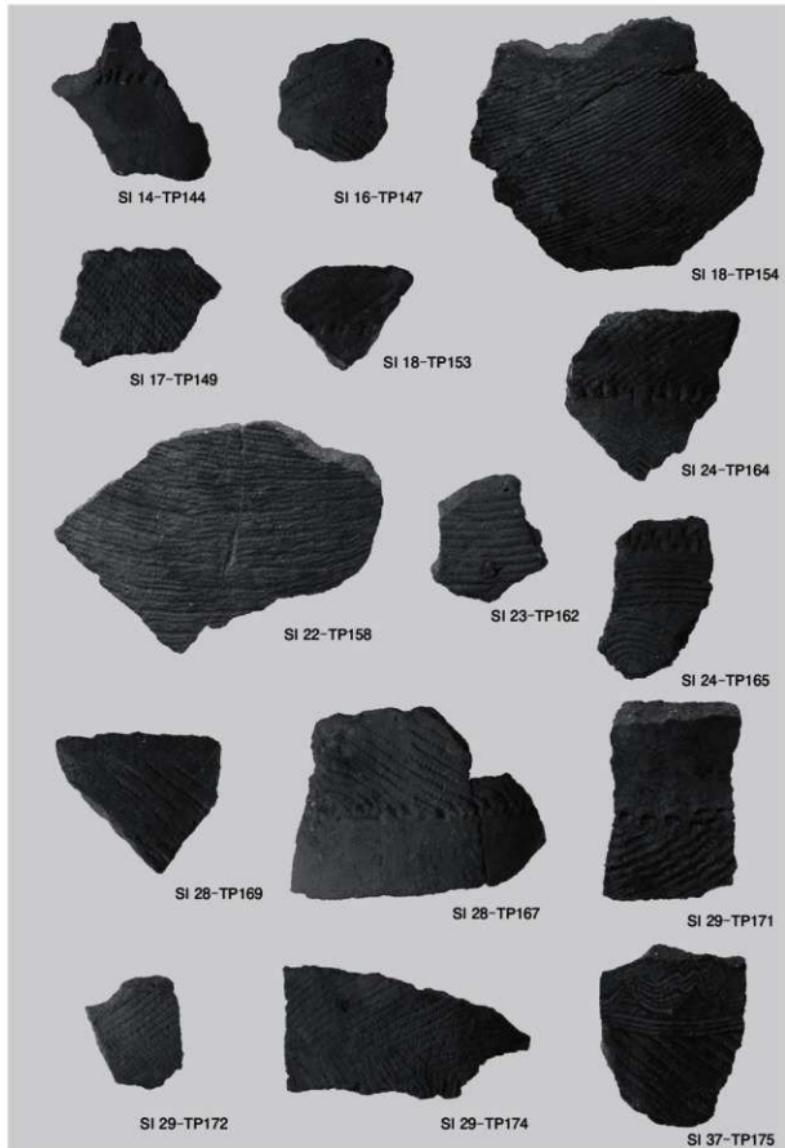
SK161-TP105



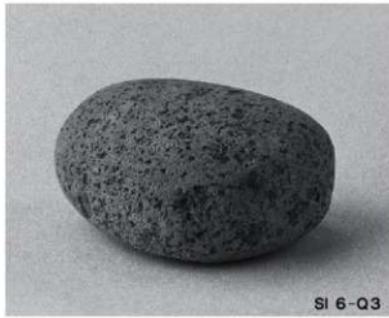
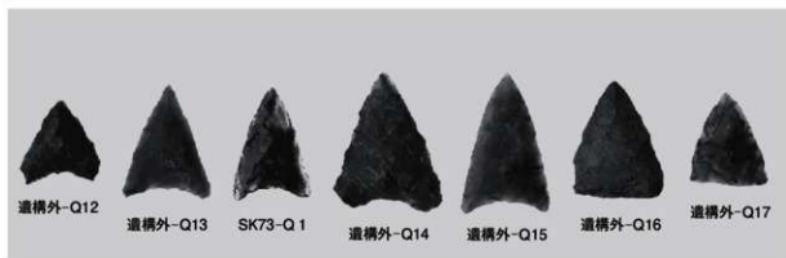
SK161-TP106



第1·2·4·6·8·9·10号住居跡出土遺物



第14·16·17·18·22·23·24·28·29·37号住居跡出土遺物



第6・11・14・29号住居跡、第73号土坑、遺構外出土遺物

## 抄 錄

茨城県教育財団文化財調査報告第337集

長井戸遺跡群

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道  
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成23（2011）年 3月17日 印刷

平成23（2011）年 3月23日 発行

発行 財団法人茨城県教育財団

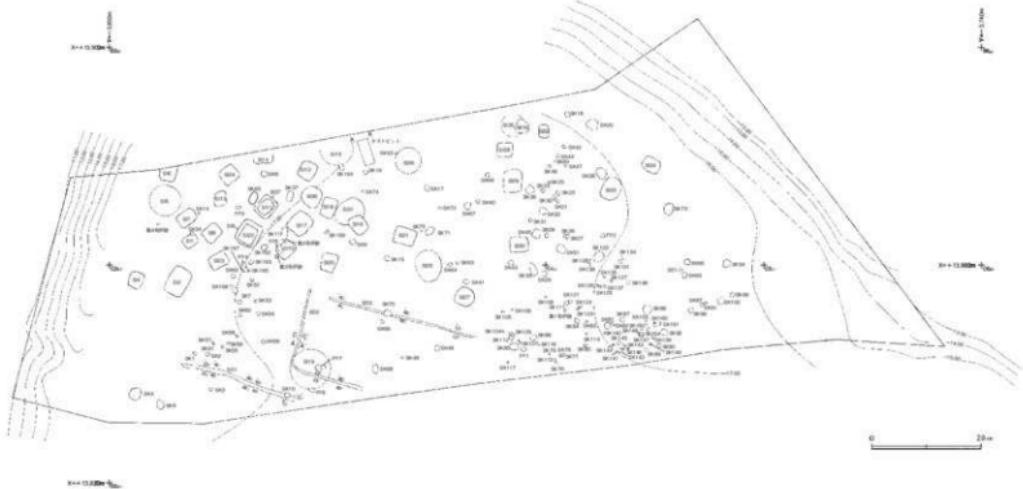
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2  
茨城県水戸生涯学習センター分館内  
TEL 029-225-6587

H P <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 八幡印刷株式会社

〒311-4152 茨城県水戸市河和田1丁目1704番12号  
TEL 0120-23-1473

Ⓐ



付図 長井戸遺跡群遺構全休図「茨城県教育財团文化財調査報告」第337集